

SSP-W2018 報告書

2019 年 7 月

SSP プロジェクト

はしがき

1. この冊子は、SSP プロジェクト（正式名称「階層と社会意識研究プロジェクト」研究代表者・吉川 徹）の一環として行った SSP-W2018（調査代表者・狭間 諒多朗）について、調査実施概要、調査データのコード・ブック、基礎集計表、および調査票を示したものである。本調査研究は、日本学術振興会 科学技術研究費補助金研究 基盤研究（A）課題番号:JP16H02045 の支援を受けて実施されたものである。
2. SSP-W とは、SSP プロジェクトにおいて行った、モニター方式の Web 法による、質問項目についての試行的調査シリーズであり、SSP-W2018 は 2018 年 12 月に実施した。
3. 素データは SPSS データファイル形式である。
4. 調査画面のイメージは掲載していない。しかし「5. 調査票」で示している質問文と選択肢のテキスト情報は、実際に使用した調査票画面のものと同一である。
5. 調査票画面に適用した回答条件（論理式など）については、「5. 調査票」の質問文の左側に付記した。
6. 職業情報のコーディングに当たり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターが提供する自動コーディングシステムを利用した。

SSP プロジェクト

狭間 諒多朗

付記. 本報告書の「コード・ブック」「調査票」は、沈一撃（大阪大学・博士後期課程）、崔煌（大阪大学・博士後期課程）、渡辺健太郎（大阪大学・博士後期課程）、齋藤僚介（大阪大学・博士後期課程）、西田文香（大阪大学・博士前期課程）、須永大智（大阪大学・博士前期課程）が作成した。

目 次

1. 調査の設計と回収状況	4
2. 基礎分析	10
2-1. 「現代日本社会におけるソーシャル・キャピタルと階層帰属意識」 ...	11
沈 一 肇 (大阪大学)	
2-2. 「科学観の多次元性」	18
渡辺 健太郎 (大阪大学／日本学術振興会)	
2-3. 「親の教育アスピレーションと教育期待に関する基礎的分析」	26
須永 大智 (大阪大学)	
2-4. 「現代日本における社会的寛容」	32
西田 文香 (大阪大学)	
2-5. 「地位不安の2つの相」	45
神林 博史 (東北学院大学)	
2-6. 「若年層における相補的世界観が満足度に与える影響」	60
狭間 諒多朗 (南山大学)	
2-7. 「社会的支配志向性の基礎分析」	72
齋藤 僚介 (大阪大学／日本学術振興会)	
2-8. 「福祉意識の時点間比較とその基礎的分析」	80
崔 煌 (大阪大学)	

3. コード・ブック	86
4. 基礎集計表.....	111
5. 調査票	169

1 調査の設計と回収状況

調査の設計と回収状況（SSP-W2018）

1. 調査設計

SSP-W2018 調査（2018 年「暮らしと社会意識についての Web 調査」）は、調査会社のパネルを用いて Web 法によって行うインターネット調査である。対象者は、全国の男女個人である。調査票は 1 種類を用いている。

(1) サンプルサイズ

目標回収数を 3000 とした。

(2) 対象者の範囲

対象者は、調査時に満 20～64 歳の男女。

(3) 都道府県・年齢・性別による割当

平成 30 年 1 月 1 日の住民基本台帳年齢別人口（都道府県別）を用いて、都道府県ごとに 20 代（20～29 歳）、30 代（30～39 歳）、40 代（40～49 歳）、50 代（50～59 歳）、60 代（60～64 歳）の男女別人口数を計算し、人口比に応じて回収数を割り当てた（表 1、表 2）。

2. 対象者の選定

株式会社インテージのインターネットモニターにおいて、登録している年齢が該当である回答者に、調査会社から調査依頼を配信した。

3. 実査と回収状況

(1) 実査

株式会社インテージに実査（調査依頼の配信、回答の回収）を委託した。

調査依頼の配信開始は、2018 年 12 月 7 日で、12 月 13 日に全セルの目標回収数が充足され、調査を終了した。

(2) 回収状況

総回収数は 3,643 であった。

その中で、下記 3 つの判断基準すべてを満たしているケースを有効回収とした。

割当数を超えた有効回収については無作為に削除した。

最終的な有効回収数は 2,898 である（表 3、表 4）。

【有効票の判断基準】

- ・「本人従業上の地位」項目で「わからない」を選択していない
- ・「本人最終学歴」項目で「わからない」を選択していない
- ・本人意識項目 80 項目での有効回答率が 75%以上である
（すべて、スクリーニングのない、全員が対象の質問項目である）

表 1 都道府県と年齢による割当数（男性）

		20代	30代	40代	50代	60代 (60～64歳)	計
1	北海道	10	13	16	14	7	60
2	青森県	2	3	4	4	2	15
3	岩手県	2	3	4	3	2	14
4	宮城県	5	6	7	6	3	28
5	秋田県	2	2	3	3	2	11
6	山形県	2	3	3	3	2	12
7	福島県	4	5	5	5	3	22
8	茨城県	7	8	10	8	4	36
9	栃木県	4	5	6	5	3	24
10	群馬県	4	5	6	5	3	24
11	埼玉県	17	20	26	20	9	92
12	千葉県	14	17	22	17	8	78
13	東京都	36	44	49	38	14	181
14	神奈川県	21	25	33	27	10	117
15	新潟県	4	5	7	6	3	26
16	富山県	2	3	3	3	1	12
17	石川県	3	3	4	3	1	13
18	福井県	2	2	2	2	1	9
19	山梨県	2	2	3	2	1	10
20	長野県	4	5	6	5	3	24
21	岐阜県	4	5	6	5	3	23
22	静岡県	8	9	12	10	5	44
23	愛知県	19	21	26	20	8	95
24	三重県	4	5	6	5	2	21
25	滋賀県	3	4	5	4	2	17
26	京都府	6	6	8	6	3	29
27	大阪府	20	22	30	23	10	105
28	兵庫県	12	13	18	14	7	64
29	奈良県	3	3	4	3	2	15
30	和歌山県	2	2	3	2	1	11
31	鳥取県	1	1	2	1	1	6
32	島根県	1	2	2	2	1	7
33	岡山県	4	5	6	5	2	22
34	広島県	6	7	9	7	4	33
35	山口県	3	3	4	3	2	15
36	徳島県	1	2	2	2	1	8
37	香川県	2	2	3	2	1	11
38	愛媛県	3	3	4	3	2	15
39	高知県	1	2	2	2	1	8
40	福岡県	11	13	15	12	7	59
41	佐賀県	2	2	2	2	1	9
42	長崎県	2	3	4	4	2	15
43	熊本県	3	4	5	4	3	19
44	大分県	2	3	3	3	2	13
45	宮崎県	2	3	3	3	2	12
46	鹿児島県	3	4	4	4	3	18
47	沖縄県	3	4	4	4	2	18
	計	280	331	411	337	161	1519

表2 都道府県と年齢による割当数（女性）

		20代	30代	40代	50代	60代 (60～64歳)	計
1	北海道	10	13	16	15	8	62
2	青森県	2	3	4	4	2	15
3	岩手県	2	3	3	3	2	14
4	宮城県	5	6	7	6	3	27
5	秋田県	1	2	3	3	2	11
6	山形県	2	2	3	3	2	12
7	福島県	4	4	5	5	3	21
8	茨城県	6	7	9	8	4	33
9	栃木県	4	5	6	5	3	22
10	群馬県	4	5	6	5	3	22
11	埼玉県	16	19	24	19	9	86
12	千葉県	13	16	20	16	8	73
13	東京都	35	42	47	36	14	174
14	神奈川県	20	24	31	24	10	109
15	新潟県	4	5	6	6	3	25
16	富山県	2	2	3	3	1	12
17	石川県	2	3	4	3	2	13
18	福井県	2	2	2	2	1	9
19	山梨県	2	2	2	2	1	9
20	長野県	4	5	6	5	3	23
21	岐阜県	4	5	6	5	3	23
22	静岡県	7	9	11	10	5	42
23	愛知県	17	19	24	19	8	88
24	三重県	4	4	6	5	2	21
25	滋賀県	3	4	4	4	2	16
26	京都府	6	6	8	7	3	30
27	大阪府	20	23	30	23	10	106
28	兵庫県	12	14	18	15	7	66
29	奈良県	3	3	4	4	2	16
30	和歌山県	2	2	3	3	1	11
31	鳥取県	1	1	2	1	1	6
32	島根県	1	1	2	2	1	7
33	岡山県	4	5	6	5	2	21
34	広島県	6	7	9	7	4	32
35	山口県	2	3	4	4	2	15
36	徳島県	1	2	2	2	1	8
37	香川県	2	2	3	2	1	11
38	愛媛県	3	3	4	4	2	15
39	高知県	1	2	2	2	1	8
40	福岡県	11	14	16	13	7	61
41	佐賀県	2	2	2	2	1	9
42	長崎県	2	3	4	4	2	15
43	熊本県	3	4	5	5	3	20
44	大分県	2	3	3	3	2	13
45	宮崎県	2	3	3	3	2	12
46	鹿児島県	3	4	4	5	3	19
47	沖縄県	3	4	4	4	2	17
	計	265	318	398	334	165	1481

表3 有効回収の分布（男性）

		20代	30代	40代	50代	60代 (60～64歳)	計
1	北海道	10	13	15	14	7	59
2	青森県	2	3	4	4	2	15
3	岩手県	2	3	4	3	2	14
4	宮城県	5	5	7	6	3	26
5	秋田県	1	2	3	3	2	11
6	山形県	2	3	3	3	2	13
7	福島県	4	5	5	5	3	22
8	茨城県	7	8	10	8	4	37
9	栃木県	4	5	6	5	3	23
10	群馬県	4	5	6	5	3	23
11	埼玉県	15	19	25	20	9	88
12	千葉県	14	17	19	17	8	75
13	東京都	35	41	49	38	14	177
14	神奈川県	20	24	32	27	10	113
15	新潟県	4	5	6	6	3	24
16	富山県	2	3	3	3	1	12
17	石川県	3	2	3	3	1	12
18	福井県	2	2	2	2	1	9
19	山梨県	2	2	3	2	1	10
20	長野県	4	5	6	5	3	23
21	岐阜県	4	4	6	5	3	22
22	静岡県	7	9	12	10	5	43
23	愛知県	18	18	26	20	8	90
24	三重県	4	5	6	5	2	22
25	滋賀県	3	4	3	4	2	16
26	京都府	6	6	8	6	3	29
27	大阪府	18	21	27	23	10	99
28	兵庫県	12	13	18	14	7	64
29	奈良県	3	3	3	3	2	14
30	和歌山県	2	2	3	2	1	10
31	鳥取県	1	1	1	1	1	5
32	島根県	1	2	2	2	1	8
33	岡山県	4	5	5	5	2	21
34	広島県	6	7	9	7	4	33
35	山口県	3	3	4	3	2	15
36	徳島県	1	2	2	2	1	8
37	香川県	2	2	3	2	1	10
38	愛媛県	3	3	4	3	2	15
39	高知県	1	2	2	2	1	8
40	福岡県	9	13	15	12	7	56
41	佐賀県	2	2	2	2	1	9
42	長崎県	1	3	4	4	2	14
43	熊本県	3	3	5	4	3	18
44	大分県	2	3	3	3	2	13
45	宮崎県	2	3	3	3	2	13
46	鹿児島県	3	4	4	4	3	18
47	沖縄県	3	4	4	4	2	17
	計	266	319	395	334	162	1476

表4 有効回収の分布（女性）

		20代	30代	40代	50代	60代 (60～64歳)	計
1	北海道	10	11	16	13	8	58
2	青森県	2	2	4	4	2	14
3	岩手県	2	3	3	3	2	13
4	宮城県	5	6	7	6	3	27
5	秋田県	1	1	3	2	2	9
6	山形県	1	2	3	3	2	11
7	福島県	4	4	5	5	3	21
8	茨城県	6	6	7	8	4	31
9	栃木県	4	4	6	5	3	22
10	群馬県	4	5	6	5	3	23
11	埼玉県	16	17	23	19	9	84
12	千葉県	13	15	20	15	8	71
13	東京都	35	42	47	36	14	174
14	神奈川県	18	20	30	22	10	100
15	新潟県	4	5	6	6	3	24
16	富山県	2	2	1	3	1	9
17	石川県	2	2	4	3	2	13
18	福井県	2	2	2	2	1	9
19	山梨県	2	2	2	2	0	8
20	長野県	4	5	5	5	3	22
21	岐阜県	4	5	6	5	3	23
22	静岡県	7	9	11	7	5	39
23	愛知県	14	19	24	19	8	84
24	三重県	3	4	5	5	2	19
25	滋賀県	2	3	4	4	2	15
26	京都府	6	6	8	7	3	30
27	大阪府	18	23	27	20	10	98
28	兵庫県	12	14	18	14	7	65
29	奈良県	2	3	4	4	2	15
30	和歌山県	2	2	3	3	1	11
31	鳥取県	1	1	1	1	1	5
32	島根県	1	1	2	2	1	7
33	岡山県	4	5	6	5	2	22
34	広島県	5	7	8	7	4	31
35	山口県	2	2	4	4	2	14
36	徳島県	1	2	2	2	1	8
37	香川県	2	2	3	2	1	10
38	愛媛県	3	3	4	4	2	16
39	高知県	1	2	2	2	1	8
40	福岡県	10	14	14	12	7	57
41	佐賀県	1	2	2	2	1	8
42	長崎県	2	3	3	4	2	14
43	熊本県	3	4	5	5	3	20
44	大分県	2	2	3	3	1	11
45	宮崎県	2	3	3	3	2	13
46	鹿児島県	3	4	4	5	3	19
47	沖縄県	3	4	4	4	2	17
	計	253	305	380	322	162	1422

2 基礎分析

現代日本社会における ソーシャル・キャピタルと階層帰属意識 —ポジション・ジェネレーターに注目して—

沈 一撃
(大阪大学)

1. 研究背景と目的

ソーシャル・キャピタルは、近年の人文社会科学領域で注目を集めた概念の1つである。現代社会における社会的連帯を検討する重要な概念であるが、研究によって定義や測り方が異なることがある。ソーシャル・キャピタルの範囲（ミクロか、マクロか）や性格（構造的なものか、価値的なものか）によって、公共財、私的財、クラブ財の3つに分類することが可能である（稲葉 2007:5）。中でも、「公共財」と「私的財」が、ソーシャル・キャピタル諸理論の両端として多くの研究で議論されてきた。前者が「社会全体のモラル・規範・信頼」を、後者が「個人や組織の社会的ネットワークに埋め込まれる資源」を意味することが多い。

社会的連帯について論じる場合、「公共財」の概念がよく用いられるが、逆に個人の社会的資源に注目した場合には「私的財」を用いることが多い。本稿で注目する「私的財」のソーシャル・キャピタルは、ネットワークへのアクセスによって獲得できる互酬性（例えば、仲間意識）や情報チャンネル（例えば、人脈）などの「資源」の形を通して、個人に様々な恩恵を与え、社会生活において優位に立たせることができる。そのため、ソーシャル・キャピタル自体を社会的属性と見なし、社会の重層的構造、つまり階級の格差を再生産するメカニズムの1つと考えることができる（Lin 2000）。

また、アクセスするソーシャル・キャピタルの質と量は、教育水準や職業などの社会的属性と同じく、性差が存在している。多くの研究で示されたように、男性と女性がアクセスするネットワークの性質と範囲は著しい差が存在する（Erickson 2004）。男性が仕事関係のネットワークに強くアクセスすることが多いのに対して、女性は家族や近隣との関係を重視する傾向が存在する（Marx and Leicht 1992; Beggs and Hurlbert 1997）。男性がアクセスできるネットワークの範囲がより広く、巻き込まれる他者もより多様であり、「ブリジング（異質な相手との繋がり）」の性格が強い。一方、女性のネットワークの構成は比較的に単一的で、範囲も狭く、「ボンディング（同質な相手との繋がり）」の性格が強い。実際には、男女の間における社会ネットワークにおける性質の差は、収入の格差などにも繋がっている。

以上で分かるように、「ネットワークにおける資源へのアクセス」自体を社会的属性と考える研究が多く存在している。社会の「碎片化」が進行する中で、個人が所有するソーシ

ャル・キャピタルの性質が異なり、社会的属性の特徴を帯びつつあるように思われる。従って、他の社会的属性と同じく、階層帰属意識に影響を与えることや、性差による影響が存在することも考えられる。

近年、ソーシャル・キャピタルの研究が盛んになり、日本でも多くの研究が蓄積したが、日本社会における「ソーシャル・キャピタルと階層帰属意識の関係」についての検討や、その背後にある性差に関する考察はまだ不十分である。本稿の目的は、以上のような問題意識に基づき、個人がアクセスするソーシャル・キャピタルと階層帰属意識との関係、または性差による影響について検討を試みることである。

2. 研究方法

2-1 ソーシャル・キャピタルを測るポジション・ジェネレーター

ポジション・ジェネレーター (Position Generator、以下 PG と略称) は、Lin と Dumin (1986) によって提案され、対象がアクセスできるネットワークの資源を測定する方法の 1 つである。具体的には、複数の職業 (社会的ポジション) をリストアップし、調査対象の社会ネットワークにおいて該当の職業につく人がいるかどうかを尋ねることによって、対象がアクセスしうる社会的資源を測定することである。対象はアクセスできる職業の数と威信スコアの水準は、それぞれ社会的資源の量と質を表している。本稿では、ポジション・ジェネレーターの方法を用いて、対象個人がアクセスできるソーシャル・キャピタルを数値化 (PG 点数) する。

2-1 データ、分析手法、変数の処理

「SSP-W2018 調査」のデータで分析を行う。分析手法は主に重回帰分析である。独立変数に関しては、デモグラフィック変数 (性別・配偶者状況・年齢・教育水準・職業・世帯収入) を統制した上、対象がアクセスするソーシャル・キャピタルの質と量を表す「PG 点数」の効果を検討する。質問項目「あなたの交流のある親類、友人、知り合いのなかで、以下のような職業の人はいますか。あてはまるものすべてを選んでください。(それぞれいくつでも)」の回答 (表 1) に基づいて「PG 点数」の計算を行う。

具体的な方法は、個人がアクセスする諸職業の威信期待値を求めることである。10 個の職業をリストアップし、「大学教授」・「弁護士」を「高威信ネットワーク」に、「中学校の教員」・「情報処理技術者」・「人事担当者」・「警察官」を「中威信ネットワーク」に、「農業従事者」・「美容師・理容師」・「受付係」を「低威信ネットワーク」に分類する。高威信から低威信の順でそれぞれのカテゴリーに「3」、「2」、「1」の値を与え、威信期待値とする。

各ネットワーク (親類・友人・知り合い) における威信期待値の平均値 (職業項目数で割る) を求め、「親類 PG 点数」、「友人 PG 点数」、「知り合い PG 点数」にする。また、ソ

表 1 基礎統計：交流のある職業

		全体 (N=2898)		男性 (N=1476)		女性 (N=1442)	
		度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)
大学教授	親類	113	3.9%	48	3.3%	65	4.5%
	友人	129	4.5%	80	5.4%	49	3.4%
	知り合い	385	13.3%	216	14.6%	169	11.7%
弁護士	親類	49	1.7%	26	1.8%	23	1.6%
	友人	123	4.2%	86	5.8%	37	2.6%
	知り合い	295	10.2%	163	11.0%	132	9.2%
看護師	親類	445	15.4%	208	14.1%	237	16.4%
	友人	569	19.6%	210	14.2%	359	24.9%
	知り合い	620	21.4%	319	21.6%	301	20.9%
中学の教員	親類	148	5.1%	67	4.5%	81	5.6%
	友人	304	10.5%	149	10.1%	155	10.7%
	知り合い	355	12.2%	185	12.5%	170	11.8%
情報処理 技術者	親類	157	5.4%	45	3.0%	112	7.8%
	友人	282	9.7%	195	13.2%	87	6.0%
	知り合い	327	11.3%	212	14.4%	115	8.0%
人事担当者	親類	76	2.6%	24	1.6%	52	3.6%
	友人	201	6.9%	122	8.3%	79	5.5%
	知り合い	399	13.8%	260	17.6%	139	9.6%
農業従事者	親類	434	15.0%	211	14.3%	223	15.5%
	友人	220	7.6%	142	9.6%	78	5.4%
	知り合い	442	15.3%	247	16.7%	195	13.5%
美容師・ 理容師	親類	181	6.2%	82	5.6%	99	6.9%
	友人	415	14.3%	179	12.1%	236	16.4%
	知り合い	602	20.8%	284	19.2%	318	22.1%
受付係	親類	37	1.3%	18	1.2%	19	1.3%
	友人	178	6.1%	78	5.3%	100	6.9%
	知り合い	252	8.7%	148	10.0%	104	7.2%
警察官	親類	188	6.5%	93	6.3%	95	6.6%
	友人	290	10.0%	188	12.7%	102	7.1%
	知り合い	387	13.4%	174	11.8%	213	14.8%

表 2 基礎統計：階層帰属意識

		全体 (N=2898)		男性 (N=1476)		女性 (N=1442)	
		度数	(%)	度数	(%)	度数	(%)
上		36	1.2%	27	1.8%	9	0.6%
中の上		643	22.2%	341	23.1%	302	21.2%
中の下		1146	39.5%	556	37.7%	590	41.5%
下の上		619	21.4%	315	21.3%	304	21.4%
下の下		354	12.2%	202	13.7%	152	10.7%
わからない		100	3.5%	35	2.4%	65	4.6%

ーシャル・キャピタルの性質を区別するために、親密な関係性を表す「ボンディング」型と外部の資源に繋がる「ブリッジング」型の 2 種類に分けたい。方法としては、「親類 PG 点数」と「友人 PG 点数」の平均値を「PG 点数（ボンディング）」に、「知り合い PG 点数」を「PG 点数（ブリッジング）」にする。

表 3 階層帰属意識を従属変数とする重回帰分析（全体）

	モデル1			モデル2		
	B	SE	β	B	SE	β
(定数)	2.216 ***	0.079		2.107 ***	0.080	
女性ダミー	0.134 ***	0.038	0.069	0.124 **	0.038	0.063
有配偶ダミー	0.435 ***	0.037	0.219	0.413 ***	0.037	0.208
年齢	0.009 ***	0.002	0.111	0.009 ***	0.002	0.112
正規職 (ref.)						
非正規職	-0.378 ***	0.047	-0.165	-0.343 ***	0.047	-0.149
自営	-0.228 ***	0.064	-0.065	-0.220 **	0.064	-0.063
学生	0.457 ***	0.095	0.091	0.477 ***	0.095	0.095
無職	-0.326 ***	0.051	-0.132	-0.279 ***	0.051	-0.113
短大以下卒	-0.452 ***	0.035	-0.227	-0.420 ***	0.035	-0.211
世帯収入	0.012 ***	0.002	0.096	0.011 ***	0.002	0.091
<ポジション・ジェネレーター>						
PG点数：ボンディング				0.423 ***	0.101	0.079
PG点数：ブリジング				0.154 **	0.052	0.055
N	2794					
R ²		0.170 ***			0.181 ***	
Adj. R ²		0.167 ***			0.178 ***	

** p<0.01, *** p<0.001

従属変数は、「階層帰属意識」である。質問項目「かりに現在の日本の社会全体を、このリストに書いてあるように5つの層に分けるとすれば、あなた自身はこのどれに入ると思いますか。(1 つだけ)」についての回答（表 2）を用いている。回答の選択肢の値を反転し（「下の下=1 上、下の上=2、中の下=3、中の上=4、上=5.）、分析に投入する。

3. 分析結果

3-1 ソーシャル・キャピタルによる階層帰属意識への影響

まずは、サンプル全体における階層帰属意識とソーシャル・キャピタルの関係を確認する。サンプル全体の分析の結果を表 3 にまとめている。モデル 1 はデモグラフィック変数のみを独立変数とするモデル、モデル 2 はソーシャル・キャピタルの変数を追加したモデルである。「PG 点数（ボンディング）」(B=0.423***)、**「PG 点数（ブリジング）」**(B=0.154**)の両方がともに有意な正の効果を示している。「PG 点数」の投入によって、Adj.R²が高くなっている (Adj.R²=0.167***→0.178***)。つまり、個人がアクセスするソーシャル・キャピタルが多いほど、質が高いほど、自身が属している階層を高く認識することになることが分かった。また、「ブリジング」型よりも、「ボンディング」型のソーシャル・キャピ

表 4 階層帰属意識を従属変数とする重回帰分析（男性）

	モデル1			モデル2		
	B	SE	β	B	SE	β
(定数)	2.182 ***	0.113		2.087 ***	0.115	
有配偶ダミー	0.435 ***	0.057	0.213	0.408 ***	0.057	0.200
年齢	0.009 ***	0.002	0.110	0.009 ***	0.002	0.107
正規職 (ref.)						
非正規職	-0.507 ***	0.075	-0.171	-0.473 ***	0.075	-0.160
自営	-0.182 ***	0.087	-0.052	-0.175 *	0.087	-0.050
学生	0.463 ***	0.125	0.097	0.465 ***	0.125	0.097
無職	-0.289 **	0.090	-0.083	-0.242 **	0.090	-0.069
短大以下卒	-0.421 ***	0.051	-0.200	-0.390 ***	0.051	-0.185
世帯収入	0.013 ***	0.003	0.098	0.013 ***	0.003	0.095
<ポジション・ジェネレーター>						
PG点数：ボンディング				0.336 *	0.141	0.062
PG点数：ブリジング				0.199 **	0.071	0.073
N			1439			
R ²		0.190 ***			0.202 ***	
Adj. R ²		0.186 ***			0.196 ***	

* p<0.05, ** p<0.01, *** p<0.001

表 5 階層帰属意識を従属変数とする重回帰分析（女性）

	モデル1			モデル2		
	B	SE	β	B	SE	β
(定数)	2.368 ***	0.107		2.228 ***	0.111	
有配偶ダミー	0.424 ***	0.055	0.216	0.408 ***	0.055	0.207
年齢	0.009 ***	0.002	0.112	0.009 ***	0.002	0.120
正規職 (ref.)						
非正規職	-0.293 ***	0.065	-0.149	-0.258 ***	0.066	-0.131
自営	-0.265 **	0.099	-0.077	-0.254 *	0.098	-0.074
学生	0.462 **	0.150	0.084	0.516 **	0.150	0.094
無職	-0.306 ***	0.071	-0.150	-0.262 ***	0.071	-0.129
短大以下卒	-0.488 ***	0.048	-0.259	-0.455 ***	0.049	-0.242
世帯収入	0.011 ***	0.003	0.097	0.010 **	0.003	0.088
<ポジション・ジェネレーター>						
PG点数：ボンディング				0.531 ***	0.145	0.099
PG点数：ブリジング				0.095	0.078	0.033
N			1355			
R ²		0.150 ***			0.162 ***	
Adj. R ²		0.145 ***			0.156 ***	

* p<0.05, ** p<0.01, *** p<0.001

タルの蓄積がより自己階層評価の高まりに繋がることも確認できた。

3-2 ソーシャル・キャピタルの効果における性差

続いて、男性・女性別で階層帰属意識とソーシャル・キャピタルの関係の差を確認する。分析の結果は表 4・表 5 にまとめている。結果を比較して分かるように、ソーシャル・キャピタルによる階層帰属意識への効果は、性別によって変化している。男性と女性のいずれの場合においても、「PG 点数」の投入によって、Adj.R²が高くなっている。ソーシャル・キャピタルによる効果が確認できた。

一方男性の場合、「PG 点数（ボンディング）」（ $B=0.336^*$ ）と「PG 点数（ブリジング）」（ $B=0.199^{**}$ ）の両方がともに有意な正の効果を示している。一方女性の場合、「PG 点数（ボンディング）」（ $B=0.531^{***}$ ）が有意な強い正の効果を示しながらも、「PG 点数（ブリジング）」が有意な効果を示していない。また、ボンディング型による自己階層評価を高める効果は、男性のそれよりも強い。

4. 考察

本稿の分析は、ポジション・ジェネレーターの方法を用いて、「ネットワークにおける資源へのアクセス」を社会的属性と見なして個人の階層帰属意識との関係を検討した。分析の結果から、ソーシャル・キャピタルへのアクセスは、学歴や職業などの社会的属性と同じく、個人の階層帰属意識に影響を与えることがわかった。日本では、「ボンディング」型のソーシャル・キャピタルが「ブリジング」型よりも階層帰属意識の高まりに寄与し、地縁・血縁を中心に社会関係を展開する日本社会の特徴と一致している。

また、男性と女性の階層帰属意識は、ともにアクセスするソーシャル・キャピタルに影響されている一方、性差によるアンバランスさも確認できた。男性は親密な関係性と外部への繋がり両方から恩恵を受け、自己階層評価を高めるのに対して、女性には親密な関係性のみが効果を有している。実際の社会生活において、男性よりも女性の方が外部の資源から受ける恩恵が少ないと考えられる。男性のほうが女性よりも社会進出の度合いが高いため、社会的資源を調達する範囲もより広く、異質の他者から「階層評価を高める有効な資源」を得やすい。一方女性の場合は、社会進出の度合いは男性のそれより低く、「階層評価を高める有効な資源」の調達も狭い関係性にとらわれやすい。

本稿での分析は、ポジション・ジェネレーター点数の有用性を確認しつつ、先行研究に基づいてソーシャル・キャピタルの「社会的属性」の性格を浮き彫りにした。前述したように、社会全体の「碎片化」が進む中で、個人がアクセスするネットワークにおける資源の性質もますます異なりになる。従って、「ソーシャル・キャピタル」を社会的属性として検討する意義はこれからも益々重要になっていくと考える。しかしながら、ポジション・ジェネレーター点数の精緻化や、ソーシャル・キャピタルと階層帰属意識の関係性のモデ

ルの構築に関しては、さらなる知見を重ねる必要がある。

文献

- Beggs, J. J. and Hurlbert, J. S., 1997, "The social context of men's and women's job search ties: Membership in voluntary organizations, social resources, and job search outcomes," *Sociological Perspectives*, 40(4), 601-622.
- Erickson, B. H., 2004., "A report on measuring the social capital in weak ties," *Policy Research Initiative Expert Workshop on Measuring Social Capital for Public Policy*, June (Vol. 8).
- Lin, N. and Dumin, M., 1986, "Access to occupations through social ties," *Social networks*, 8(4), 365-385.
- Lin, N, 2000, "Inequality in social capital," *Contemporary sociology*, 29(6), 785-795.
- Marx, J. and Leicht, K. T., 1992, "Formality of recruitment to 229 jobs: Variations by race, sex and job characteristics," *Sociology and Social Research*, 76, 190-196.
- 稲葉陽二, 2007, 『ソーシャル・キャピタル―「信頼の絆」で解く現代経済・社会の諸課題』生産性出版.
- 稲葉陽二, 大守隆, 近藤克則, 宮田加久子, 矢野聡, 吉野諒三編, 2011, 『ソーシャル・キャピタルのフロンティア: その到達点と可能性』ミネルバ書房.

科学観の多次元性

—「役に立つ理系」の反対は「役に立たない文系」か？—

渡辺 健太郎

(大阪大学／日本学術振興会)

1. 問題の所在

1-1 役に立つ理系？役に立たない文系？

選択と集中による効率化は、今日の高等教育政策の1つの特徴である。一連の国立大学改革プランのなかで実施された「ミッションの再定義」は、国立大学に対し、個々の学問分野の社会にとっての「有用性」を示すことを迫ったものであった（文部科学省 2014）。

こうした高等教育政策は、制度レベルでの、科学や学問についての異なる立場の存在を鮮明にしつつある。国内における象徴的な例の1つは、2015年6月の文部科学省の通知に端を発する「文系廃止論」と、それに対する反発だろう。同通知の詳細については触れないが、人文社会系学部についての廃止や転換といった内容を含む同通知に対しては、人文系の研究者たちによる反論が重ねられた（室井 2015; 三谷 2017）。吉見俊哉（2016）は、「文系廃止論」に関連する一連の議論をメディアの曲解にすぎないとしながらも、そうした議論自体が「役に立つ理系と役に立たない文系」という潜在的な認識が共有されている状況を示していること、そして、そこに文系の有用性が見過ごされてしまっている状況があることを指摘する。こうした動向は、日本に限ったものではない。2014年には、日本、欧州、アメリカ、東アジア、オーストラリア、イギリス、カナダの研究大学によって、Leiden Statement が採択された。同宣言では、人文社会科学の研究と教育の必要性が疑問視されている現状に関し、人文社会科学には、技術移転可能性という意味で、より社会的に有用であるとみなされやすい理工系分野とは異なる有用性があると主張されている（AAU et al. 2014）¹⁾。以上の議論は、人文社会科学と自然科学、それぞれ独自の「有用性」があるとみなされるべきなのにも関わらず、新自由主義的政策が要求する一次元的な知識のヘゲモニーのもとでは、人文社会科学の有用性が不当に扱われてしまうという主張を内包した、人文社会系の側からの反発として理解できる。

では、そうした科学観は、どれだけ一般的なものののだろうか²⁾？今日の日本社会における科学観は、「役に立つ理系と役に立たない文系」という一次元的なものなのだろうか？それとも、かつて C. P. Snow（[1959]1998）が「2つの文化」とよんだ、自然科学と人文社会科学、それぞれについての独自の科学観の併存という状況なのだろうか³⁾？以上が、本稿の扱う問いである。

1-2 先行研究

ある学問をどれだけ役に立つと考えるかという科学観についての経験的知見は、国内でも蓄積が進みつつある⁴⁾。例えば、教育社会学の領域では、職業的レリバンスへの関心から、個人の専門教育経験がどれだけ職業生活において役に立っているとみなされているかが、web モニターやナショナルサンプルなどを用いて検討されてきた（豊永 2018; 古田 2018）。

しかし、個人の職業生活という文脈によらない、より一般的な文脈での有用性に関わる科学観については、いまだ明らかなでないところが大きい。例外として、太郎丸博（2017）は、経済学、憲法学、物理学、歴史学、農学、教育学、文学、地学、これら 8 項目の有用性について因子分析を行ったところ、農学、地学、教育学の因子負荷が高い実学志向、歴史学と文学の因子負荷が高い人文志向という 2 つの科学観が確認されることを明らかにしている。この、実学志向と人文志向という科学観の存在という知見は、吉見（2016）などが指摘していた、自然科学的有用性と人文社会科学的有用性という次元とは異なる、科学観の次元が存在することを示唆しているようにみえる。しかし、上記の知見には、1 大学の大学生を対象とした調査データから得られたものであるという限界がある。そのため、前節で提示した、日本における科学観についての疑問に答えるためには、より代表性の高いデータによる検討が必要となる⁵⁾。

2. データと方法

以下では、SSP-W2018 データを用いた分析を進めていく。同データは、インターネット調査によって得られたものではあるものの、10 項目の科学観を含み、かつ、満 20～64 歳の男女を対象としている。なお、調査設計については、本稿では省略する。

科学観として使用するのは、「あなたは以下のそれぞれの学問が、社会のなかでどれくらい役に立っているとお考えですか」という質問に対し、[教育学／歴史学／哲学／経済学／政治学／数学／物理学／工学／農学／医学]のそれぞれについて、「役に立っている」、「どちらかといえば役に立っている」、「どちらかといえば役に立っていない」、「役に立っていない」の 4 件法で得られた回答である⁶⁾。分析では、値が大きいほど、役に立っていると考えていることをあらわす変数として使用する。なお、分析には、欠損のない 2,205 ケースを用いる。

分析は、以下の手順で進める。まず、平均値と相関係数によって、科学観項目の基本的傾向を把握する。そののち、因子分析によって、科学観がどのような次元から構成されているのかについて検証する。

3. 分析結果

3-1 基礎分析

各項目の平均値の比較からは、文系で平均値が低くなる傾向にあり、理系で平均値が高くなる傾向にあることがうかがえる（図1）。ただし、この傾向は「役に立つ理系」と「役に立たない文系」を必ずしも意味しているわけではない。なぜなら、文系に含まれる経済学が、物理学や農学、工学よりも「社会の中で役に立っている」とみなされているためである。平均値の比較からは、科学観は必ずしも「役に立つ理系と役に立たない文系」という一次元的基準のうえにはない様子うかがえる。

同様に、科学観項目の相関係数からも、科学観が一次元的な基準のうえにないことが確認できる。もし仮に、文理それぞれの有用性が二項対立的に捉えられることで科学観が形成されているという想定をした場合、相関係数は負の値をとるはずであるが、データはそうした関連を示していない（図2）。いずれの科学観項目間の相関係数も正の値をとっていることから、いずれかの学問が「社会の中で役に立っている」とみなしている場合には、同時に、他の学問の有用性も認める傾向にあるということがわかる。また、すべての学問の有用性を同程度に認めているというわけではなく、哲学と歴史学、政治学と経済学、物理学と工学、農学と医学といった、有用性を認めるパターンが存在している様子もうかがえる。

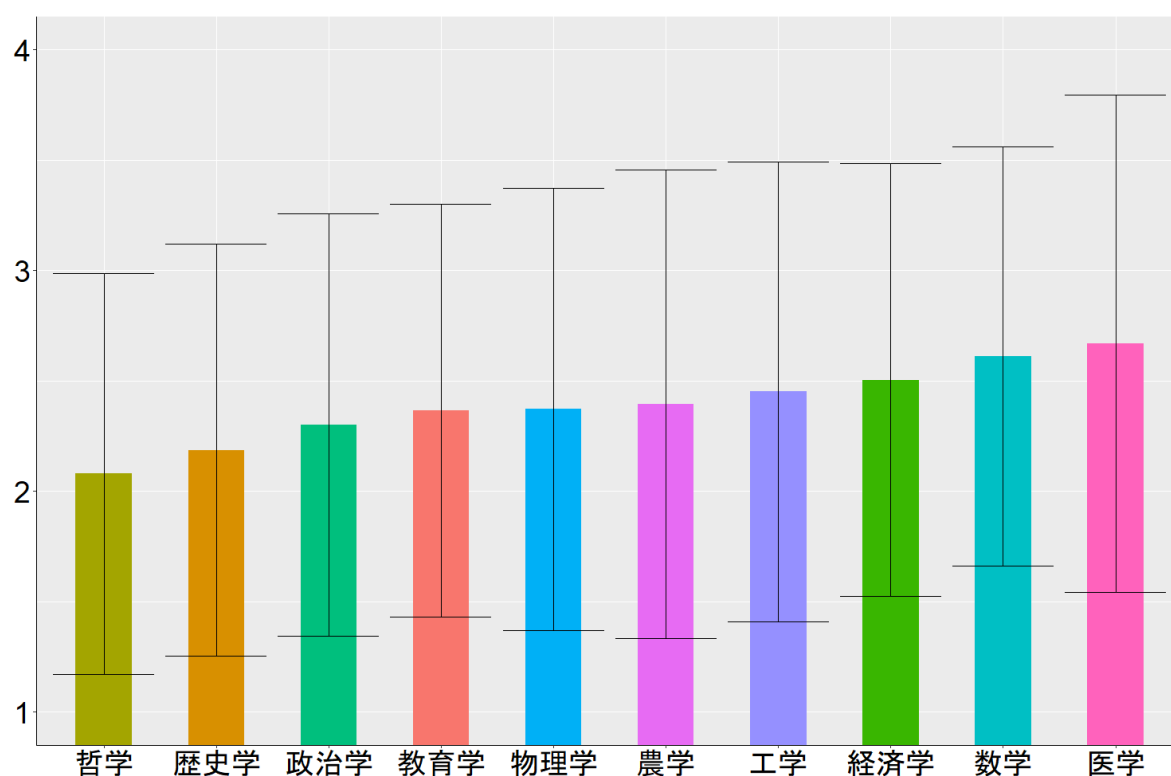


図1 科学観項目の平均値と標準偏差

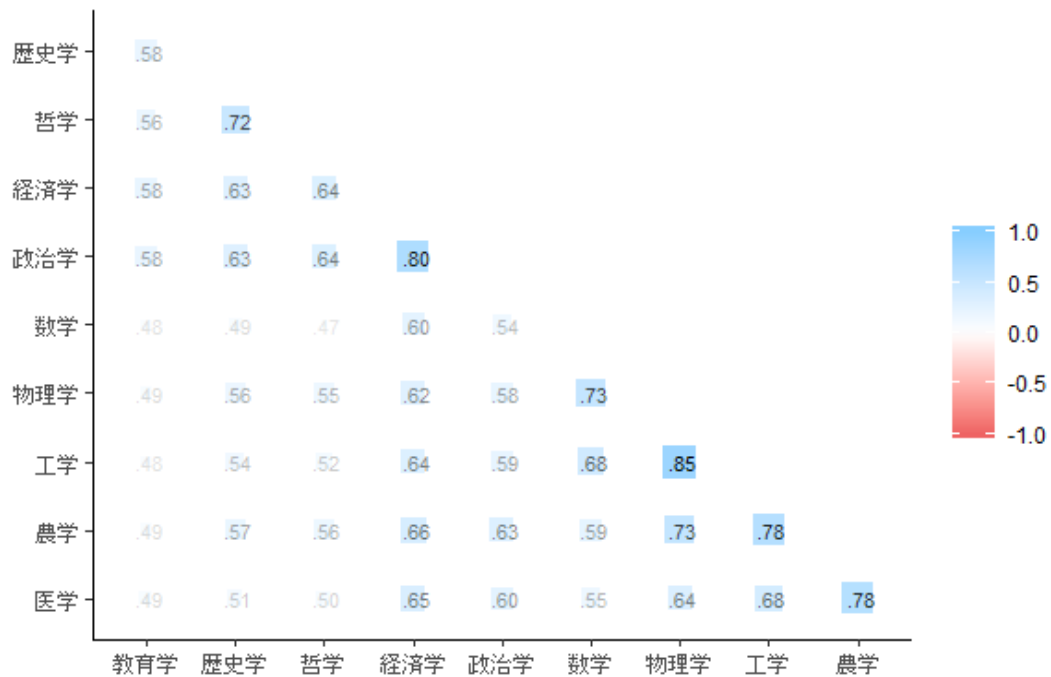


図 2 科学観項目の相関係数

3-2 因子分析

因子数の決定に関して、まず、平行分析を実施した。その結果、シミュレーションデータとリサンプルデータの重なりから確認しづらくなっているが、4 因子解が提案された（図 1）。一方で、MAP テストの結果からは、2 因子解が推奨された。そこで、RMSEA や BIC、SRMR などの適合度指標から総合的に判断し、いずれの値も最も低かった、4 因子解を採用した（表 1）。なお、いずれの分析も最尤法を用いて実施した。

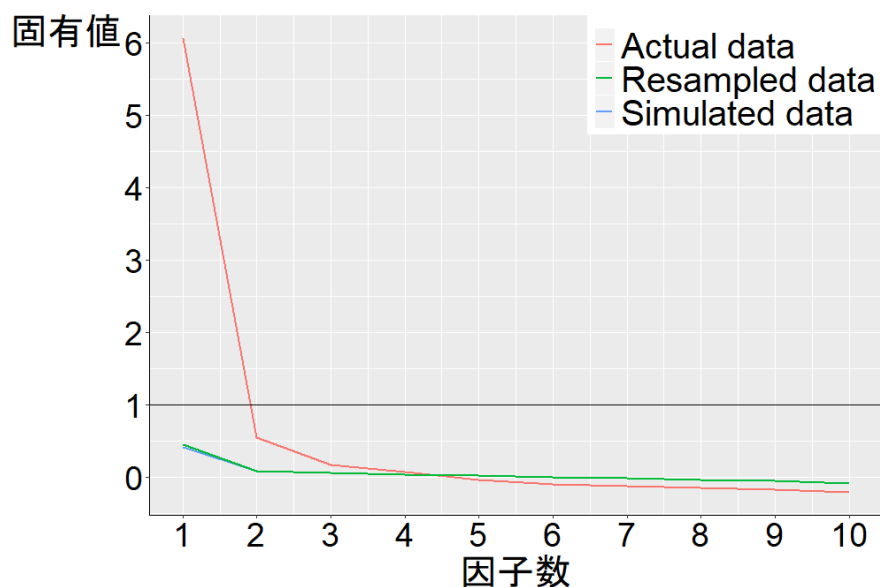


図 3 因子分析のスクリープロット

表 1 因子数と適合度指標

因子数	RMSEA	BIC(SABIC)	SRMR
1	0.191	2587(2698.1)	0.0704
2	0.135	862(944.8)	0.0334
3	0.112	375(431.9)	0.0216
4	0.038	-40(-4.6)	0.0068

4 因子解による因子分析の結果を示したのが、表 2 である⁷⁾。分析には最尤法、プロマックス回転を使用した。因子分析の結果、教育学、歴史学、哲学の因子負荷が大きい因子が確認された。この因子は歴史学と哲学での負荷量が特に大きいことから、人文科学的科学観とした。また、経済学と政治学の因子負荷が大きい因子については、社会科学的科学観とした。そして、数学、物理学、工学の因子負荷が大きい因子については、理工学的科学観、農学と医学の因子負荷が大きい因子については、生命科学的科学観とした。

以上の結果は、ある学問がどれだけ「社会の中で役に立っているか」という科学観については、人文科学的、社会科学的、理工学的、生命科学的な次元が存在するということを示している。そして、このことは、科学観が必ずしも 1 次元上にはないことに加えて、文系と理系それぞれの有用性という、2 次元でも捉えきれないものであることを示している。

表 2 因子負荷量と各因子の相関

因子負荷量	人文科学	社会科学	理工学	生命科学
教育学	0.46			
歴史学	0.86			
哲学	0.83			
経済学		0.88		
政治学		0.68		
数学			0.70	
物理学			1.00	
工学			0.75	
農学				0.95
医学				0.53
相関係数				
人文科学	1.00			
社会科学	0.78	1.00		
理工学	0.68	0.72	1.00	
生命科学	0.64	0.71	0.72	1.00

注 1: 0.4 以上の因子負荷量を記載

4. 考察

本稿の分析から明らかになったことは、次の2点である。第1に、科学観は、必ずしも、「役に立つ理系と役に立たない文系」という、一次元的な関係のうえに成り立っているわけではない。すなわち、今日の科学技術・高等教育政策に垣間見られるとされる、「役に立つ理系と役に立たない文系」という科学観は、ミクロレベルでは確認できないものである。つまり、「役に立つ理系」の一方にあるのは、必ずしも「役に立たない文系」ではない。人々が、ある学問をどれだけ「社会の中で役に立っているか」と考える際には、多次的にその有用性を捉えている様子が、本稿の分析からうかがえるのである。

第2に、本稿の分析からは、人文科学的、社会科学的、理工学的、生命科学的な科学観の次元が明らかとなった。このことは、文系と理系という「2つの文化」と対応した科学観が併存しているというよりかは、むしろ、文理だけでは捉えきれない、「4つの文化」と対応した科学観が併存することを示している。すなわち、Snow ([1959]1998) の示唆する文系的科学観と理系的科学観よりも細かに、人文科学、社会科学を異なるものとして、理工学と生命科学を異なるものとして捉える科学観の存在が、今日の日本においてうかがえるのである。

本稿では、今日の日本社会における科学観が、文理による一次元的なものであるのか、それとも、多次的なものであるのかに焦点を絞って分析を進めてきた。そのため、どのような人々がどのような科学観を持っているのかという問いは扱わなかったものの、こちらも重要な問いであることに変わりはない。例えば、表2の因子分析から得られた因子得点を偏差値得点化して、男女別に平均値を比較すると、理工学的科学観に関してのみ、女性の方が理工学分野の学問の社会的有用性を低く見積もる傾向にあることが確認できる(図4)。今日の高等教育における文理とジェンダーによる水平的分離の状況からすると、特に、理工学的科学観と人文科学的科学観のジェンダー差は対照をなすと予測されるが、データはそうした傾向を示してはいない。この非対称性が、調査法や項目の選定に由来する測定誤差に関わるものなのか、文系進学における合理的選択とは異なるメカニズムの存在を示唆しているのか、といった議論については、本稿の分析結果からは踏み込むことはできない。しかし、少なくとも本稿の結果が示しているのは、進学や入職といった、時点や文脈によらない、ジェンダーと理工学系の学問の意識レベルでの対応関係であることから、翻って、科学観は専攻分野選択やアカデミック・キャリアへの参入などの文脈でも議論されていく必要があるだろう。

なお、本稿の知見は、あくまでインターネット調査データの分析から得られたものであるという点には、留意が必要である。本稿では、web法による全国調査データによって、科学観についての知見を得ることはできたものの、その一般化可能性については疑問が残る。そのため、さまざまなデータによって、本稿の知見についての検証を重ねていくことが、今後の課題である。

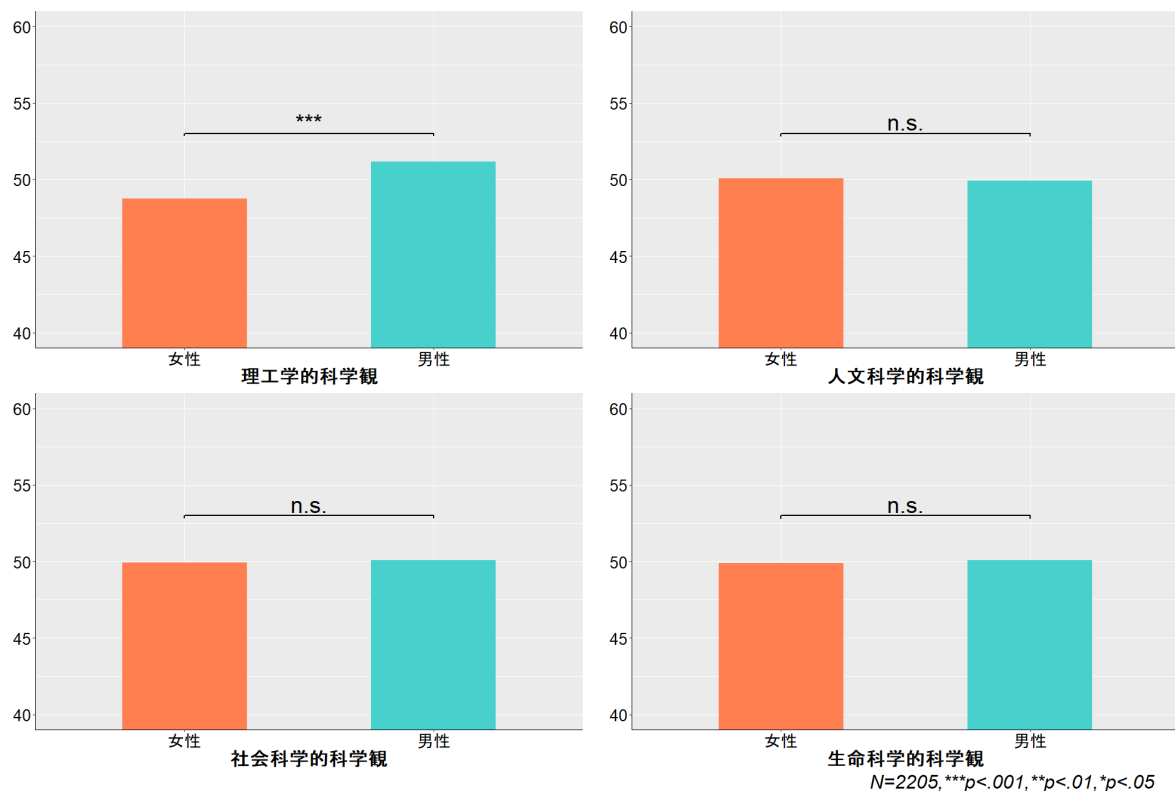


図 4 科学観得点の男女比較

付記

本研究は、JSPS 科研費 JP18J20998 の助成を受けたものです。

注釈

- 1) 同宣言で主張される具体的な人文社会科学の有用性は、市民的価値意識の涵養などであり、これは Leiden Statement に限らず、他の論者によっても指摘されているところである (E. W. Said 2004=2006; M. C. Nussbaum 2010=2013)。
- 2) 本稿では、ある科学や学問についての志向性を指して、科学観と呼ぶことにする。
- 3) Snow ([1959]1998) 自身は、自然科学と人文社会科学という用語を用いているわけではなく、「科学者 (scientist)」と「非科学者 (non-scientist)」という分類を行っているが、前者の代表に物理学者、後者の代表に文学的知識人 (literary intellectuals) を挙げている。
- 4) 「ある科学・学問をどれだけ役に立つと考えるか」ではなく、「ある科学・学問がどれだけ役に立っているか」という実態的な問いについては、本田由紀 (2018) に詳しい。
- 5) より一般的な有用性に関わる科学観については、近代化論を背景とした世俗化、脱物質主義、特に、環境保護主義などの文脈から、「世界価値観調査」や「日本人の国民性調査」等の、代表性の高い調査でも項目が設けられてはいる。しかし、科学観自体の多次元性というよりかは、上記背景のために、自然科学や科学技術についての科学観に特化した設問となっているという限界がある。

- 6) 項目の選定に関しては、太郎丸（2017）の各項目の因子負荷に加え、当該項目の一般的認知を基準としている。また、ワーディングに関しても、それぞれの科学・学問分野の有用性の具体的な文脈を示すのではなく、より一般的なかたちで質問することを意図して設計されている。
- 7) 完全情報最尤推定により、欠損を補完して分析を実施した場合でも、同様の因子負荷の構造が確認された。

文献

- AAU, AEARU, LERU, GO8, RU11, RUSSELL GROUP & the U15 CANADA, 2014, “*Leiden Statement —The Role of the Social Sciences and Humanities in the Global Research Landscape*”, (Retrieved June 15, 2019, <http://www.ru11.jp/wp/wp-content/uploads/2014/11/Leiden-Statement.pdf>).
- 古田和久, 2018, 「高学歴社会における『学校教育の意義』 学校経験に対する人々の認識をもとに」『教育と社会階層 ESSM 全国調査からみた学歴・学校・格差』東京大学出版会: 169-189.
- 本田由紀, 2018, 「人文社会科学系大学教育は『役に立たない』のか」本田由紀編『文系大学教育は仕事の役に立つのか 職業的レリバンスの検討』ナカニシヤ出版: 1-20.
- 三谷尚澄, 2017, 『哲学しててもいいですか？ 文系学部不要論へのささやかな反論』ナカニシヤ出版.
- 文部科学省, 2014, 「国立大学改革について」文部科学省ホームページ, (2019 年 6 月 15 日取得, http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/houjin/1341970.htm).
- 室井尚, 2015, 『文系学部解体』角川書店.
- Nussbaum, M. C., 2010, *Not for Profit: Why Democracy Needs the Humanities*, Princeton: Princeton University Press. (=2013, 小沢自然・小野正嗣訳『経済成長がすべてか？ デモクラシーが人文学を必要とする理由』岩波書店.)
- Said, E. W., 2004, *Humanism and Democratic Criticism*, New York: Columbia University Press. (=2006, 村山敏勝・三宅敦子訳『人文学の批評と使命 デモクラシーのために』岩波書店.)
- Snow, C. P., [1959]1998, *The Two Cultures*, Cambridge: Cambridge University Press.
- 太郎丸博, 2017, 「調査の概要と尺度の検討」太郎丸博編『京大生の科学観と保守性』京都大学文学部社会学研究室: 1-18.
- 豊永耕平, 2018, 「大学教育が現職で役立っていると感じるのはだれか 人文社会系の職業的レリバンスに関する潜在クラス分析」本田由紀編『文系大学教育は仕事の役に立つのか 職業的レリバンスの検討』ナカニシヤ出版: 89-103.
- 吉見俊哉, 2016, 『「文系学部廃止」の衝撃』集英社.

親の教育アスピレーションと教育期待に関する基礎的分析

—アスピレーションと期待は一致するのか—

須永 大智

(大阪大学)

1. 問題設定

本稿の目的は、現代日本における親の教育アスピレーションと教育期待の関係性を、クロス表による基礎的な分析を通じて明らかにすることにある。教育アスピレーションとは、親が子どもに進学してほしい教育段階や、子ども本人が進学したい教育段階を指す。すなわち、親や子どもの教育段階についての希望・願望である。一方、教育期待とは、親が子どもが進学できると考える教育段階や、子ども本人が進学できると考える教育段階を指す。すなわち、親や子どもの教育段階についての見込み・計画である。

親子の教育アスピレーションや教育期待は、階層研究において、地位達成を説明する社会心理学的要因として注目されてきた。William H. Sewell ら (1969) は、子どもの地位達成過程を説明するウィスコンシンモデルを提示し、子どもの教育達成・職業達成が、親・先生・友人など「重要な他者」の教育期待と、子どもの教育アスピレーション・職業アスピレーションから説明できることを明らかにしている。その後、多くの研究が蓄積するなかで、ウィスコンシンモデルの基本的な知見は繰り返し確認されている (Sewell et al. 2004)。

一見すると、教育アスピレーションと教育期待の差異は微細であるが、両者の差異は重要な概念上の差異を含む。Alan C. Kerckhoff (1976) は、ウィスコンシンモデルに対する批判として構造的制約の軽視を指摘する。ウィスコンシンモデルは子どもの教育アスピレーションの形成過程に焦点を当てているが、子どもの教育アスピレーションとして計測してきたものは、家族背景による拘束や教育選抜などの現実を認知した上で形成される教育期待に過ぎないという指摘である (片瀬 2005)。また、Sandra Hanson (1994) は、社会構造によって才能ある若者が地位達成できないことを「才能の喪失 (Lost Talent)」と表現し、「才能の喪失」を子どもの教育アスピレーションと教育期待のミスマッチから捉えている¹⁾。

どちらの研究においても、教育期待は、出身階層や人種、ジェンダーなどによる構造上の制約を認識上で反映したものとして捉えられている。それゆえ、教育アスピレーションと教育期待の差異から、個人の希望・願望がどのような現実的制約の認識によって、どの程度制約されているかを検証することができる。

このような問題関心から、従来の社会学的な研究では、子どもの教育アスピレーションと教育期待の関係性が注目されてきた。実際、多くの研究が、子どもの教育アスピレーションと教育期待における不一致の存在を指摘している。Hanson (1994) は、大学まで進学

を希望している子どものうち、16%の子どもが大学まで進学できる見込みをもっていないことを示している。そして、このような不一致は、女性や低階層で生じやすいことを明らかにしている。また、Nabil Khattab (2014) も、階級や文化資本が低いほど教育アスピレーションと教育期待と学業成績の高低が一貫しにくいことを示している。Claudia Finger (2016) は、教育アスピレーションがどのように教育期待に変換されるのかに着目し、高等教育機関の地理的距離がアスピレーションを制約していること、親学歴が低いほど中距離による制約が大きいことを示している。これらの研究は、出身階層やジェンダーなどに起因する制約の認識によって、子どもの希望・願望が制限されていることを示している。

同様の問題は、親の教育アスピレーションと教育期待においても指摘できる。なぜなら、実証研究から、日本において、子どもの教育期待における階層差が、ほとんど親の教育期待を介して生じていること(藤原 2009; 荒牧 2016)、国外において、親の教育期待の方が、子どもの教育期待よりも強く階層に規定されていること (Smyth 2018) が明らかにされているからである。これらの研究から、親の希望・願望がどのような現実的制約の認識によって、どの程度制約されているかという問いも重要な検討課題といえる。

また、近年、親のアスピレーションが及ぼす負の影響として、「過剰アスピレーション (Overaspiration)」の問題が指摘されている。Kou Murayama ら (2016) は、過剰アスピレーションを、子どもに対する親のアスピレーションが、子どもに対する親の現実的な期待を過度に上回ることとして定義する。また、過剰アスピレーションは、親の過剰な関与や過度な成績への圧力につながると想定する。分析の結果、Murayama ら (2016) は、過剰な学業アスピレーションをもつ親が 30% 以上におよぶこと、過剰アスピレーションが子どもの数学の成績に負の影響を与えることを示している。

以上から、親の教育アスピレーションと教育期待の関係性が重要な検討課題であることを述べた。このように親の教育アスピレーションと教育期待は異なる概念であり、その差異は重要な検討課題であるにもかかわらず、従来の日本の階層研究は、両者を交換可能な指標として扱ってきた。もちろん、親の教育アスピレーションと教育期待に強い関連があることを仮定すれば、分析上は大きな問題とはならないかもしれない。しかし、現代日本において親の教育アスピレーションと教育期待がどの程度一致しているのか、過剰な教育アスピレーションをもつ親がどの程度存在するのかは、確認されてこなかった。そこで、本稿では、親の教育アスピレーションと教育期待の関係性を記述的に検討する。

2. 分析方法

2-1 データ・分析対象

本稿では、SSP-W2018 調査のデータを用いる。調査対象者は 20-64 歳の成人男女であるが、本稿では親の教育アスピレーションと教育期待に着目するため、分析対象を高校生以下の子ども (2000 年生まれ以降の子ども) をもつ親に限定している。

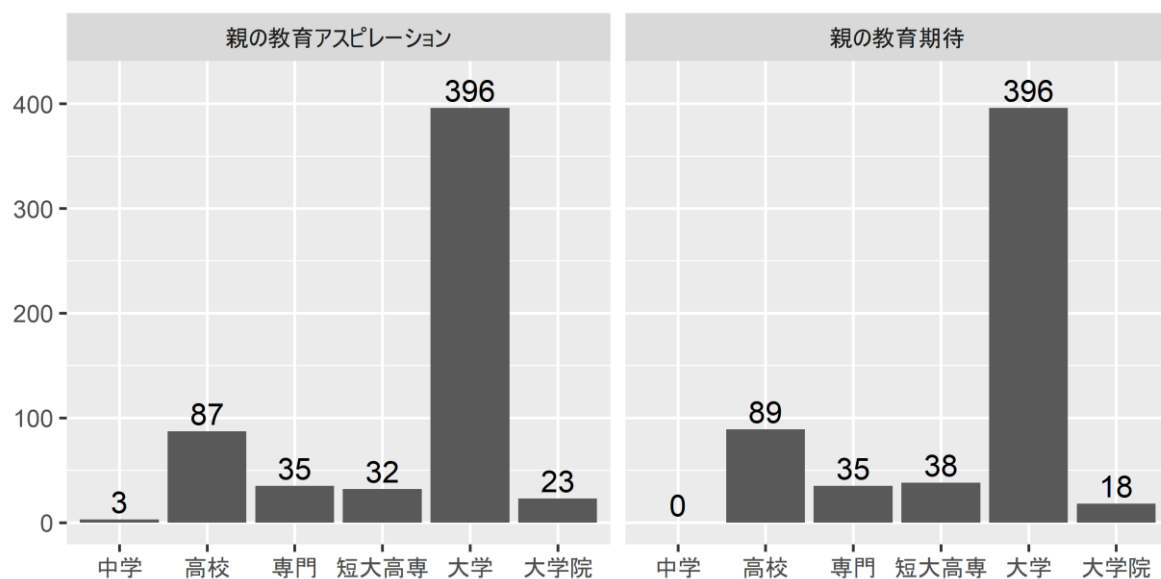


図1 親の教育アスピレーションと教育期待の度数分布

2-2 変数

本稿の分析では、親の教育アスピレーションと教育期待の変数を用いる。親の教育アスピレーションと教育期待の詳細については、以下の通りである。

リード文（共通）

「高校生以下のお子さんのうち、最近、お誕生日をおむかえになった方についておたずねします。」

質問項目（親の教育アスピレーション）

「あなたは、そのお子さんにどの程度の学歴を希望されますか。」

質問項目（親の教育期待）

「あなたは、そのお子さんが、現実的には、どの段階の学校まで進むと思いますか。」²⁾

回答選択肢（共通）

「中学」、「高校」、「専門学校」、「短大・高専」、「大学」、「大学院」、「その他」、「高校生以下の子どもはいない」、「わからない」

本稿では、親の教育アスピレーションと教育期待がどの程度一致しているのかを確認する。本稿の目的に対して、親の教育アスピレーションと教育期待のどちらかを「その他」、「わからない」と回答した場合、教育アスピレーションと教育期待のどちらが高いかを判断できない。そのため、「中学」、「高校」、「専門学校」、「短大・高専」、「大学」、「大学院」と答えた回答者に限定して、両変数の関係性を記述的に検討する³⁾。

表 1 親の教育アスピレーションと教育期待のクロス表

親の教育アスピレーション		親の教育期待					合計
		高校	専門	短大高専	大学	大学院	
中学	度数	2	0	0	1	0	3
	全体%	0.3%	0.0%	0.0%	0.2%	0.0%	0.5%
高校	度数	68	4	6	9	0	87
	全体%	11.8%	0.7%	1.0%	1.6%	0.0%	15.1%
専門	度数	6	21	3	5	0	35
	全体%	1.0%	3.6%	0.5%	0.9%	0.0%	6.1%
短大高専	度数	2	4	20	6	0	32
	全体%	0.3%	0.7%	3.5%	1.0%	0.0%	5.6%
大学	度数	11	6	9	368	2	396
	全体%	1.9%	1.0%	1.6%	63.9%	0.3%	68.8%
大学院	度数	0	0	0	7	16	23
	全体%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	2.8%	4.0%
合計	度数	89	35	38	396	18	576
	全体%	15.5%	6.1%	6.6%	68.8%	3.1%	100.0%

3. 分析結果

まず、親の教育アスピレーションと教育期待の度数分布を確認する（図 1）。どちらの分布からも、大学進学を希望する親、大学進学を期待する親が全体の 68.8%と大部分を占めていることが確認できる。一方で、高校や専門学校、短期大学・高等専門学校を希望する親、期待する親は、全体の 3 割弱であることがわかる。また、全体的なグラフの形状からも、親の教育アスピレーションと教育期待がほとんど同じ分布を示していることが読み取れる。以上から、両者の関連が強いことが予想される。そこで、クロス表から、個人内において、親の教育アスピレーションと教育期待の関連が強いかどうかを検討する。

表 1 から、親の教育アスピレーションと教育期待のクロス表を確認する。第一に、両者の一致率、その他の関連性指標から、親の教育アスピレーションと教育期待の関連が非常に強いことが読み取れる。まず、両者の一致率は、85.6%（493/576）と非常に高い値を示している。また、カイ二乗値 $\chi^2=1070.422$ 、自由度 $d.f.=20$ から、0.1%水準で両者の関連が確認され、Cramer's V も.682 と高い値を示している。さらに、親の教育アスピレーションと教育期待を教育年数に変換して両者の相関係数を計算すると、 $r=.798$ と 0.1%水準で有意な強い正の相関がみられた⁴⁾。以上から、親の教育アスピレーションと教育期待の間には、従来の日本の階層研究で暗黙に想定されていた、非常に強い関連が確認された。

一方で、第二に、親の教育アスピレーションと教育期待が一致していない親も、わずかなではあるが存在することがわかる。教育アスピレーションより教育期待が低い親は、全体の 7.8%（45/576）存在し、教育期待より教育アスピレーションが低い親は、全体の 6.6%

(38/576) 存在する。すなわち、現実的制約の認識によって希望・願望が制約されている親も、逆に、現実的制約が問題にならないにもかかわらず希望・願望が低い水準にとどまっている親も、一定数存在するといえよう。

4. 考察

本稿の分析から、以下の三点が明らかになった。(1) 親の教育アスピレーションと教育期待は非常に強く関連している。すなわち、日本において、85.6%の親は、子どもに対して一貫した希望・願望と見込み・計画をもっている。ここから、従来の実証研究が行っていたように、両者を交換可能な指標として扱うのは、一定程度妥当性があるといえよう。

一方で、(2) 教育アスピレーションより教育期待が低い親は、7.8%存在することが明らかになった。このような親は、現実的制約の認識によって希望・願望が制約されている親や、過剰アスピレーションをもつ親として位置づけられる。ここから、たしかに親の教育アスピレーションと教育期待は近しい概念ではあるものの、両者の差異に着目すると現実的制約によって希望・願望を果たすことのできない親が存在することが示された。そして、このような親がもつ教育期待より高い教育アスピレーションは、過剰アスピレーションとして子どもに負の影響を及ぼすことになる。ここから、教育アスピレーションより教育期待が低い親に対して、現実的制約を緩和するような政策的介入が必要になるだろう。

さらに本稿では、(3) 親の教育期待より教育アスピレーションが低い親が、6.6%存在することを指摘した。このような親は、現実的制約が問題にならないと認識しているにもかかわらず、希望・願望が低い親として位置づけられる。Murayama ら (2016) は過剰アスピレーションの負の影響を指摘し、単に教育アスピレーションを引き上げる政策的介入の問題を指摘した。しかし、教育期待より教育アスピレーションが低い親の存在は、教育アスピレーションを引き上げる政策的介入が必要な親もわずかながら存在することを示している。特に、「高等教育の無償化」が実施され、現実的制約が緩和されることが予想されるなかで、親の教育アスピレーションに対する政策的介入が相対的に重要になると考えられる。

ただし、本稿では、親の教育アスピレーションと教育期待の関係性についての基礎的な検討を行ったに過ぎない。今後の課題として、第一に、どのような要因によって親の教育アスピレーションと教育期待は一致しないのか、第二に、日本において、親の教育アスピレーションと教育期待のどちらが子どもの教育達成により強い影響を及ぼしているのかという問いを検証していく必要があるだろう。

注釈

- 1) Hanson (1994) は「才能の喪失」を三つの指標から操作化している。第一に、教育アスピレーションよりも教育期待が低いこと、第二に、初期の教育期待よりも後期の教

育期待が低いこと、第三に、教育期待よりも教育達成が低いことである。

- 2) 教育期待の質問項目に関しては、内閣府子ども若者・子育て施策総合推進室（2012）が実施した「親と子の生活意識に関する調査」の質問項目を参考に作成した。
- 3) なお、本稿では、中学、高校、専門学校、短期大学・高等専門学校、大学、大学院の順に親の教育アスピレーションと教育期待の高低が存在することを想定している。
- 4) 中学、高校、専門学校、短期大学・高等専門学校、大学、大学院の教育年数は、それぞれ 9、 12、 14、 14、 16、 18 とした。

文献

荒牧草平, 2016, 『学歴の階層差はなぜ生まれるか』 勁草書房.

Finger, Claudia, 2016, “Institutional constraints and the translation of college aspirations into intentions: Evidence from a factorial survey,” *Research in Social Stratification and Mobility*, 46: 112-128.

藤原翔, 2009, 「現代高校生と母親の教育期待——相互依存モデルを用いた親子同時分析」『理論と方法』 24(2): 283-299.

Hanson, Sandra L., 1994, “Lost Talent: Unrealized Educational Aspirations and Expectations among U.S. Youths,” *Sociology of Education*, 67(3): 159-183.

片瀬一男, 2005, 『夢の行方——高校生の教育・職業アスピレーションの変容』 東北大学出版会.

Kerckhoff, Alan C., 1976, “The Status Attainment Process: Socialisation or Allocation?,” *Social Forces*, 55(2): 368-381.

Khattab, Nabil, 2014, “How and when Do Educational Aspirations, Expectations and Achievement Align?,” *Sociological Research Online*, 19(4): 7.

Murayama, Kou, Reinhard Pekrum, Masayuki Suzuki, Herbert W. Marsh, Stephanie Lichtenfeld, 2016, “Don’t Aim Too High for Your Kids: Parental Overaspiration Undermines Students’ Learning in Mathematics,” *Journal of Personality and Social Psychology*, 111(5): 766-779.

内閣府子ども若者・子育て施策総合推進室, 2012, 『親と子の生活意識に関する調査報告書』.

Sewell, William H., Archibald O. Haller, and Alejandro Portes, 1969, “The Educational and Early Occupational Attainment Process,” *American Sociological Review*, 34(1): 82-92.

Sewell, William H., Robert M. Hauser, Kristen W. Springer, and Taissa S. Hauser, 2004, “As we age: a review of the Wisconsin Longitudinal Study, 1957–2001,” *Research in Social Stratification and Mobility*, 20: 3-111.

Smyth, Emer, 2018, "Shaping educational expectations: the perspectives of 13-year-olds and their parents," *Educational Review*, (Retrieved June 15, 2019, <https://doi.org/10.1080/00131911.2018.1492518>)

現代日本における社会的寛容

—「異なる他者」に対する意識の測定に向けて—

西田 文香
(大阪大学)

1. 問題の所在

1-1 寛容の定義

「寛容」という語は、一般的には「心が広い」「優しい」というような意味で日常的に使われるものである一方、宗教学、政治哲学や政治科学、そして社会学を舞台に用いられる学術用語でもある。政治哲学では、寛容の原理を次のように説明する。寛容は、ある対象を不快だと思っているという「拒絶の要素 objection component」と、それでも対象の不快さを我慢するという「容認の要素 acceptance component」の二つの要素によって成り立つ (King 1976)。そして、対象を「容認」するべきではない「却下 rejection」の根拠が示されているとき、寛容の限界が設けられることになる (Forst 2008)。

1-2 政治的寛容研究の系譜

政治科学、社会学における「寛容」は、1950年代のアメリカにおける反共産主義、反ソビエト連邦の気運が高まるなかで登場したものだ。「何を政治的に許容すべきか」という問いが、哲学的に考察するだけでなく、実証的に議論すべき差し迫った課題として現れたのである。その先駆けとなったのは、アメリカ市民と政治的指導者の政治意識を全国的な調査によって包括的に描写した初めての研究として位置づけられる (Finkel and Humphries 1999) Samuel Stouffer による 1955 年の著作 ‘Communism, Conformity, and Civil Liberties’ である。1972 年から始まったアメリカの大規模な社会調査である General Social Survey (以下、GSS) は Stouffer の問題意識を継承し、「政治的に異なる他者に対して政治的自由を認める」(Gibson and Bingham 1982: 604) 程度であると定義される「政治的寛容性」を、継続的に測定してきた。GSS に代表される政治的寛容性の測定方法は、固定グループ法と呼ばれるものだ。固定グループ法では、ある社会において政治的に「異なる他者」として想定されるいくつかの対象(無神論者、共産主義者など)を調査者が設定したうえで、その対象が特定の活動(スピーチやデモなど)をすることを許容するかどうかを問うことによって、政治的寛容性が測定される。

1-3 社会的寛容研究の登場

さまざまな差別研究で指摘されてきたように、「異なる他者」は、憲法や法律が定める政

治的権利や自由が制限されているという制度的差別だけではなく、日常における対人関係から排除されているという非制度的差別も経験している。この両方の差別に注目しなければ、他者が抱える「生きづらさ」への理解を深めることはできない。また、グローバル化と価値観やライフスタイルの多様化が進むにつれて、政治的立場が「異質」である他者だけではなく、社会的カテゴリが「異質」である他者にも注目する必要性が高まってきている。ここで、政治的寛容という概念と実証がカバーできないこのような問題を補完するように登場したのが、「社会的寛容」であると考えられる。社会的寛容とは、論者によって定義が異なるものの、おおよそ「日常において異なる他者と共存し協同することを受け入れる」ということであると理解される（Dražanová 2017: 27）。政治的寛容が、極端な政治的思想をもっているという意味での「異なる他者」の政治的自由を許容するということであるのに対し、社会的寛容は、民族的マイノリティである他者や、スティグマ化されやすく潜在的な差別の対象になりえるような他者を受け入れるということであるとされる（Viegas 2007; Weldon 2006; Widmalm and Oskarsson 2008）。

社会的寛容という概念が実証研究の場に現れた時期は 1990 年代から 2000 年代にかけてであると考えられ、研究の蓄積は量的にも質的にも十分ではない。というのも、前述したように社会的寛容の定義は論者によってばらつきがあり、どのように社会的寛容性を操作化するのが適切かという問題についての合意が得られていないのだ。たとえば、国際的なプロジェクトである World Values Survey（以下、WVS）では、固定グループ法と同じように「異なる他者」と想定されるいくつかの対象（同性愛者、移民や外国人労働者など）を調査者が設定したうえで、その対象が回答者の近所に住むことを許容するかどうかを問うという設問をもつ。このような設問は、1920 年代のアメリカ社会における人種間の親密度を量的に測定するために Bogardus が考案した、「社会的距離尺度 social distance scale」を構成する項目の 1 つである¹⁾。管見の限り、社会的寛容を題目に掲げる実証研究の多くが、社会的距離尺度を「流用」して「社会的寛容性」と名付け、分析を行っているように思われる。

1-4 寛容の概念と操作化をめぐる批判

GSS に代表される固定グループ法や、社会的距離尺度を用いた計量的な寛容性研究に対しては、寛容の概念と操作化をめぐるクリティカルな批判が存在する。1 つ目の批判は、固定グループ法や「流用」された社会的距離尺度は、調査者が「異なる他者」を設定してしまうことで、回答者の寛容の「拒絶」の前提を必ずしも満たさなくなってしまうということである。GSS において設定される「異なる他者」は、1976 年に無神論者・人種差別主義者・共産主義者・軍国主義者・同性愛者で固定されてから変わっておらず、人びとはこうした他者に対して寛容になっているという報告もある（たとえば、Schwadel and Garneau 2014; Twenge et al. 2015）。しかしながら、GSS の固定グループ法で提示される「他者」を、

回答者は必ずしも不快に思っていない可能性がある。言い換えれば、固定グループ法によっては、寛容の「拒絶」の前提を満たさない場合があるのだ²⁾。つまり、人びとがこうした他者の政治的自由を許容する理由が、他者を「容認」しているからなのか、それともそもそも他者を不快に思っていないからなのかが、判別できないのである。同様に、「流用」された社会的距離尺度も、提示される「他者」に対する回答者の「拒絶」の前提を満たしていない可能性がある³⁾。

2つ目の批判は、寛容と不寛容が、1次元的な量によって捉えられてきたということである。GSSの固定グループ法では、5つの「異なる他者」について、3つの政治的自由を許容するか、しないかという2値をとる変数を合算し、15のスケールをもつ政治的寛容性スコアを作成して分析することが多い。このとき前提としているのは、政治的寛容性スコアが0ならば寛容、15ならば不寛容というように、寛容と不寛容は数直線上の対極に付置することのできるような、量的に捉えられる意識であるということだ。しかしながら、寛容と不寛容のこのような捉え方では、1から14という値が何を意味しているのかが不明であるうえに、政治的寛容性スコアが同じ点数を示したとしても、その内実が違っている可能性を見逃してしまう(Mondak and Sanders 2003)。同様に、社会的距離尺度を「流用」した研究では、いくつかの「異なる他者」が回答者の近所にすむことを許容するか、しないかという2値をとる変数を合算し、社会的寛容性スコアを作成して分析することがある(たとえば、Drazanova 2017)。このような社会的寛容性スコアも、寛容と不寛容が1次元的な量によって捉えられるということを前提としている。

1-5 無関心という態度への着目

本稿では、従来の寛容性尺度が抱えてきた問題点を認識するだけでなく、従来の寛容性研究は無関心という態度を見逃してきたということを指摘する。前述したように、寛容とはある対象を「拒絶」していることが前提とされる。しかしながら、この「拒絶」の条件によって見逃されてしまう存在がいる。それは、他者を「拒絶」しているかどうかを認識していない人びと、つまり他者に対して無関心な人びとである。人びとは、自分とは異なる他者が不快か、そうでないかを必ずしも強く認識しているわけではない。自身の身近に「異質さ」を感じる他者がいなければ、他者に対する態度を明確にする動機も機会もないからだ。しかし、他者への無関心さは存在する差別を持続させてしまうという望ましくない結果を生み出す可能性もある。したがって、本稿では、無関心な態度をも含めうるように寛容研究を展開する。

1-6 本稿の目的

本稿では、このような批判に対する応答として、計量的な寛容性研究においては、「異なる他者」に対する態度と、他者を許容する程度の組み合わせによって類型化される、カテ

ゴリカルな意識として捉えるという方針を提案する。「異なる他者」に対する態度を測定するためには、他者を「拒絶」するかどうかということに加えて、他者への無関心さも捉えるような設問を創る必要がある。他者を許容する程度を測定するためには、他者の政治的自由を許容するかどうかということや、他者との共存を受け入れるかどうかということ捉える設問を創る必要がある。

本稿の目的は、「異なる他者」に対する寛容性のカテゴリーカルな類型を測定することである。特に、計量研究における操作化のひな形が定まっていない社会的寛容性の類型に注目し、測定の有効性を検討する。

2. 方法

本稿で使用するデータは 2018 年「暮らしと社会意識についての Web 調査」である。

社会的寛容性は、以下の 2 段階の設問によって測定した。

問 25 では、まず「社会には様々な背景をもち、異なるライフスタイルを送る人がいます。次に挙げるような人に対するあなたのふだんの気持ちに最も近いものを選んでください。」という質問文に続き、調査者が「異なる他者」として設定した対象が提示される。それは「同性どうしで恋愛をする人」（以下、同性愛者と記す）と「移民や外国人労働者」（以下、移民と記す）である。2 つの対象に対する「好ましさ」を 4 件法によって尋ねる選択肢に加えて、「好ましさを考えたことがない」という選択肢も提示した。好ましさを尋ねる 4 件法によって他者への「拒絶」を捉え、「好ましさを考えたことがない」という選択肢によって「異なる他者」への無関心を測定しようというねらいがある。

問 26a および問 26b は、それぞれの「異なる他者」との共存を受け入れる意志を問う設問である。2 種類の他者について、それぞれ「あなたの近所に住むこと」「あなたと同じ職場で働くこと」「あなたの地域の福祉サービスや補助金を利用すること」「あなたの家族の誰かと結婚したり、養子縁組したりすること」（以下、「近所」「職場」「福祉」「結婚」と記載）という 4 つの項目についての賛否を 4 件法によって尋ねている。この設問のうち「近所」「職場」「結婚」は、社会的距離尺度を参考に作成したものである。「福祉」は、「あなたの地域の」という表記をすることで、国家よりも小規模で身近な共同体において「異なる他者」を受け入れるかどうかを測定しようというねらいがある。

3. 分析準備

3-1 分布の確認

表 1～3 は、社会的寛容性を測定するための 2 段階の設問の回答の度数を示している。

この分布から読み取ることができる特徴がある。それは、社会的寛容性を測定するための設問に対する「わからない」という回答が、他の変数と比較して非常に多いということである。回答者の意識や行動を尋ねる他の設問において、DK 回答の比率は 1%～3%ほど

表1 「異なる他者」への態度

		同性愛者への態度		移民への態度	
		度数	%	度数	%
有効	好ましい	248	8.6	133	4.6
	やや好ましい	335	11.6	510	17.6
	あまり好ましくない	498	17.2	801	27.6
	好ましくない	294	10.1	451	15.6
	好ましさを感じたことがない	1083	37.4	705	24.3
	合計	2458	84.8	2600	89.7
	わからない	440	15.2	298	10.3
合計		2898	100	2898	100

表2 同性愛者を受け入れる意志

		近所		職場		福祉サービス		結婚	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
有効	賛成	573	19.8	638	22.0	662	22.8	440	15.2
	やや賛成	563	19.4	659	22.7	672	23.2	445	15.4
	やや反対	466	16.1	438	15.1	379	13.1	558	19.3
	反対	307	10.6	299	10.3	343	11.8	655	22.6
	合計	1909	65.9	2034	70.2	2056	70.9	2098	72.4
	わからない	989	34.1	864	29.8	842	29.1	800	27.6
合計		2898	100	2898	100	2898	100	2898	100

表3 移民を受け入れる意志

		近所		職場		福祉サービス		結婚	
		度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
有効	賛成	325	11.2	454	15.7	369	12.7	295	10.2
	やや賛成	595	20.5	884	30.5	685	23.6	585	20.2
	やや反対	856	29.5	574	19.8	643	22.2	614	21.2
	反対	497	17.1	389	13.4	531	18.3	669	23.1
	合計	2273	78.4	2301	79.4	2228	76.9	2163	74.6
	わからない	625	21.6	597	20.6	670	23.1	735	25.4
合計		2898	100	2898	100	2898	100	2898	100

のものが多かった（詳細はコードブックを参照）。一方で、社会的寛容性を捉える設問は、DK 回答の比率が、高いものだと 34%を超える。この設問を使用した分析を行う際には、DK 回答を欠損値として除外するか、あるいは「DK 回答が得られた」ということそのものに意味を見出さなければならない。

3-2 DK 回答をどのように扱うか

日比野（2010）が指摘するように、使用するデータに DK 回答が見られたとき、分析段階では DK 回答を欠損値として無視することが多い。このように DK 回答を欠損値として扱う方針を支持できるのは、第 1 に「DK 回答は低頻度かつ非系統的に出現する」という前提、および第 2 に「賛成もしくは反対の意見をもってしかるべき個人」という前提を置いているからである（日比野 2010: 554-5）。それでは、社会的寛容性を捉える 2 つの項目は、この前提を満たしているといえるのだろうか。

第 1 の項目である「異なる他者」への態度を捉える項目については、前提 1、および 2 を満たしていると考えられる。なぜなら、第 1 の項目は、DK 回答率が決して少なくはないものの、他の設問と比較してみると、高頻度とまでは言えないと考えられるからだ。加えて、第 1 の項目は、賛成または反対のどちらでもない意見を持つ回答者を捉えるための「好ましさを考えたことがない」という選択肢を備えているからだ。実際、「好ましさを考えたことがない」という選択肢を選んだ回答者が一定数存在している。

しかしながら、第 2 の項目である「異なる他者」を行け入れる意志を捉える項目については、前提 1、2 のどちらも満たしていないと考えられる。なぜなら、第 2 の項目は、他の設問と比較しても高頻度で DK 回答が出現していることに加えて、賛成または反対のどちらでもない回答を備えていないことにより、意見を保留する回答者を捉え損ねている可能性が高いと考えられるからだ。

したがって本稿では、第 1 の項目の DK 回答は欠損値として扱い、第 2 の項目の DK 回答については、設問に対する「わからない」という回答そのものが、立場を賛成とも反対とも決めかねる意見保留を示していると考えて、分析を進める⁴⁾。

3-3 社会的寛容性の類型を特定するために—潜在クラス分析

本稿では、「異なる他者」に対する社会的寛容性の類型を特定するために、潜在クラス分析を用いる。潜在クラス分析とは、複数のカテゴリカルな顕在変数に対して、個人間で異なるパターンの反応を、異なるグループへの所属確率として抽出する分析である（藤原・伊藤・谷岡 2012）。潜在クラス分析によって、「異なる他者」への態度と、他者を受け入れる意志という 2 つのカテゴリカルな変数への反応のパターンを捉えることができる。

表 4 モデルの適合度比較 (N=2989、* Approximate p-value)

同性愛者に対する社会的寛容性の類型							
クラス数	モデル適合度						
	G2	d.f.	p-value	AIC	BIC	ABIC	Entropy
5クラス	394.935	188	0.000	19890.840	20213.316	20041.739	0.828
6クラス	245.547	177	0.000	19756.872	20145.038	19938.509	0.827
7クラス	179.199	166	0.228	19703.310	20222.855	19946.424	0.850
モデル対比	$\Delta G2$	$\Delta d.f.$	p-value *				
4 vs. 5	170.148	11	0.000				
5 vs. 6	149.388	11	0.000				
6 vs. 7	75.348	11	0.000				

移民に対する社会的寛容性の類型							
クラス数	モデル適合度						
	G2	d.f.	p-value	AIC	BIC	ABIC	Entropy
5クラス	324.901	188	0.000	20684.058	21006.534	20834.956	0.834
6クラス	205.612	177	0.041	20555.020	20943.186	20736.657	0.831
7クラス	178.716	166	0.237	20550.285	21004.140	20762.660	0.826
モデル対比	$\Delta G2$	$\Delta d.f.$	p-value *				
4 vs. 5	155.657	11	0.000				
5 vs. 6	119.289	11	0.000				
6 vs. 7	26.896	11	0.000				

4. 分析

4-1 変数の説明

潜在クラス分析に用いる設問は、問 25（「異なる他者」に対する態度）、問 26a および問 26b（「異なる他者」を受け入れる意志）である。「異なる他者」に対する態度については、「好ましい」と「やや好ましい」、および「あまり好ましくない」と「好ましくない」をそれぞれ足し合わせ、「好ましい／好ましくない／無関心」という 3 カテゴリーの変数として使用する。「異なる他者」を受け入れる意志については、「賛成」と「やや賛成」、および「やや反対」「反対」を足し合わせ、「賛成／反対／わからない」という 3 カテゴリーの変数として使用する。

4-2 モデルの適合度の確認

表 4 は、クラスをいくつに分類するのが妥当なのかを確認するための、クラス数の異なる複数のモデルごとの適合度の比較を示している。潜在クラス分析によって得られた分類が妥当であるかを判断するためには、情報量基準、BRLT の検定結果、エントロピー、および各クラスへの所属確率を総合的に評価する必要がある（小杉・清水 2014: 235-236）。

表 5 6 クラスモデルにおける構成割合と条件付き応答確率 (N=2989)

		同性愛者に対する社会的寛容性の類型					
		積極的 受容	消極的 受容	寛容	日和見反 リベラル	不寛容	無関心
		584(20%)	928(32%)	660(23%)	288(10%)	243(8%)	195(7%)
態度	好ましい	0.603	0.139	0.159	0.000	0.013	0.022
	好ましくない	0.051	0.138	0.622	0.634	0.648	0.226
	無関心	0.346	0.723	0.219	0.366	0.339	0.752
近所	賛成	0.996	0.447	0.457	0.018	0.000	0.007
	反対	0.000	0.005	0.469	0.342	0.992	0.015
	わからない	0.004	0.549	0.074	0.640	0.008	0.978
職場	賛成	0.996	0.804	0.645	0.030	0.015	0.000
	反対	0.004	0.018	0.355	0.316	0.985	0.000
	わからない	0.000	0.178	0.000	0.654	0.000	1.000
福祉	賛成	0.973	0.744	0.670	0.089	0.029	0.075
	反対	0.020	0.037	0.330	0.351	0.914	0.001
	わからない	0.008	0.220	0.022	0.560	0.057	0.923
結婚	賛成	0.819	0.258	0.260	0.023	0.009	0.010
	反対	0.091	0.243	0.718	0.810	0.981	0.179
	わからない	0.09	0.500	0.022	0.166	0.010	0.811

さらに、抽出されたクラスの解釈可能性と儉約性も併せて考慮した結果、本稿では同性愛者に対する社会的寛容性、および移民に対する社会的寛容性のどちらも、6 クラスに分類するモデルを採用した。

表 5 は、6 クラスモデルの条件付き応答確率を示している。同性愛者に対する社会的寛容性、移民に対する社会的寛容性のどちらにおいても、「積極的受容」、「消極的受容」、「寛容」「日和見反リベラル」(Merton 1949)、「不寛容」、「無関心」と名付けられる特徴をもつ 6 つのクラスが抽出された。

それぞれのクラスの特徴を説明する。「積極的受容」グループは、「異なる他者」を好ましいと考え、その態度と一貫するように、他者を受容する意志をもっている。「消極的受容」グループは、「異なる他者」の好ましさを考えたことはないが、「職場」と「福祉」においては他者を受容する意志を見せる。積極的受容グループに対する消極的受容グループの違いは、他者に対する態度を明確にしないということ、そして他者との共存の必要が要請される場がどこなのかによって、他者を受容するか、それとも立場を保留するかを決めているということである。積極的受容グループは、他者との共存が要請される場が自身の「近所」や「職場」、地域の「福祉」、そして「結婚」による親戚関係のいずれであっても他者

表5 6クラスモデルにおける構成割合と条件付き応答確率 (N=2989)

		移民に対する社会的寛容性の類型					
		積極的 受容	消極的 受容	寛容	日和見反 リベラル	不寛容	無関心
		752(26%)	206(7%)	386(13%)	258(9%)	898(31%)	398(13%)
態度	好ましい	0.694	0.271	0.206	0.056	0.026	0.063
	好ましくない	0.070	0.217	0.678	0.664	0.797	0.242
	無関心	0.236	0.512	0.116	0.281	0.177	0.694
近所	賛成	0.977	0.427	0.325	0.005	0.002	0.007
	反対	0.023	0.073	0.675	0.600	0.988	0.000
	わからない	0.000	0.500	0.000	0.395	0.010	0.993
職場	賛成	0.996	0.908	0.725	0.185	0.051	0.061
	反対	0.004	0.004	0.261	0.193	0.916	0.000
	わからない	0.000	0.088	0.014	0.621	0.033	0.939
福祉	賛成	0.980	0.585	0.519	0.011	0.009	0.022
	反対	0.018	0.092	0.481	0.380	0.951	0.000
	わからない	0.002	0.323	0.000	0.609	0.040	0.978
結婚	賛成	0.884	0.400	0.376	0.000	0.016	0.007
	反対	0.044	0.169	0.515	0.441	0.973	0.053
	わからない	0.073	0.431	0.110	0.559	0.010	0.940

を受け入れるのに対して、消極的受容グループは、他者が自身の近所に住む場合や、結婚によって自身の親戚になる場合は、立場を保留しているのだ。

「近所」の関係や「結婚」による親戚関係、つまり回答者自身と親密になりえる関係において他者を受け入れる意志をもつということは、積極的受容グループに特徴的な傾向である。「寛容」グループは、「異なる他者」を好ましくないと考えながらも、他者が同じ職場で働くことや福祉サービスを利用することには賛成する。その一方で、他者が近所に住むことや自身の親戚になることは反対している。同様に、「日和見反リベラル」グループは、「異なる他者」を好ましくないと考えながらも、「職場」や「福祉」において他者を受け入れるかどうかの立場は保留する。その一方で、同性愛者が自身の親戚になることや、移民が近所に住むことには反対している。Merton (1949) は、他者に対して偏見をもつが、差別を禁止するルールがある場では差別を控える者のことを「日和見反リベラル」と呼んだ。差別を禁止するルールが比較的定められやすいと思われる職場や福祉という領域における他者との共存には明確な反対をしないが、ルールが定められにくい近隣関係や親戚関係における他者との共存が問われると不寛容を見せている点で、「日和見反リベラル」なのである。寛容グループと日和見反リベラルグループは、裏を返せば部分的な不寛容グループで

あるともいえる。

「不寛容」グループは、「異なる他者」を好ましくないと考えており、その態度と一貫するように、他者を受け入れることにも反対する。「無関心」グループは、「異なる他者」の好ましさを考えたことがなく、その態度と一貫するように、他者を受け入れるかどうかについての立場も保留する。

本稿における社会的寛容性の測定方法とその結果に関する次の3点の特長を指摘することができる。第1に、「異なる他者」への態度と他者を受け入れる意志という2段階の設問をもっているという点だ。本稿では、固定グループ法のような従来の測定方法では寛容であると分類される人びとの中に隠されてしまうような、実は他者への肯定的態度をもち積極的に受容する人びとを抽出することができた。第2に、他者に対する「無関心」を捉えることができたという点だ。従来の研究では「異なる他者」に対する無関心と立場の保留という回答の選択肢がなかったために、本稿において無関心グループに分類されるような人びとは、強制的に肯定的か否定的な回答を選ばざるを得ないか、あるいはDK回答者として無視される存在だった。本稿は、「好ましさを考えたことがない」という選択肢を組み込み、そして「わからない」という回答に意味を見出すことで、そのような無関心な人びとをも抽出することができた。第3に、人びとの「異なる他者」に対する「寛容の限界」に関する示唆を与えることができた。6クラスの中で、「異なる他者」に対する態度と他者を受け入れる意志が一貫していないのは、消極的受容グループ、寛容グループ、日和見反リベラルグループである。消極的受容グループは、「異なる他者」との「職場」や「福祉」における共存には肯定的だが、近隣関係や親戚関係において他者と共存することには慎重な姿勢をとる。寛容グループと日和見反リベラルグループは、「職場」や「福祉」においては他者への否定的な態度の表出を抑制するが、近隣関係や親戚関係においては否定的立場を表明する。この結果が示唆しているのは、人びとの「寛容の限界」が、より親密な社会関係において厳しく設けられるということである。

5. 考察

本稿は、寛容の概念と操作化をめぐる問題を抱えていた従来の寛容性研究に、新たな方針を提案するものである。それは、「異なる他者」に対する態度と他者を受け入れる意志を問う設問の組み合わせによって、寛容性をカテゴリーカルな類型によって捉えるという方針である。ただし、本稿は社会的寛容性の類型の実態を報告するものであり、なぜその実態が形成されているのかという問いに答えるものではない。この問いについては、今後の研究で明らかにすることが期待される。

本稿は、操作化をどのように行うべきかについての合意がないという理由から、社会的寛容性に主眼をおいた。政治的寛容性と社会的寛容性の両方を Least-liked 法によって測定できる設計をもつ調査に、Henry Institute National Survey on Religion and Public Life という

ものがある。Least-liked 法とは、「異なる他者」として想定されるいくつかの他者のリストを回答者に提示し、その中から最も好ましくないと思う他者を選んでもらい、その他者に対する意識を問うという方法である。つまり、Least-liked 法は、寛容の「拒絶」の前提を捉えられる方法だ。この調査を用いた研究によれば、政治的寛容性と社会的寛容性は強い相関関係にありながらも、独立の関係であるという (Mather and Tranby 2014)。今後の調査では、政治的寛容性と社会的寛容性の両方について、その類型を捉え、実態と形成要因の比較を行うことが望まれる。

このように、「どのような人が、なぜ社会的寛容を示すのか」という問いに関する知見を積み重ねることは、マイノリティの人びとが受ける差別の解消に向けた施策を論じる際には欠かすことのできないものだろう。マイノリティの社会運動の際に「良心的支持者」(Mccarthy and Zald 1977: 1222) となりえるような、他者の積極的な受容を促進し、そして他者に無関心な人びとを議論に巻き込むためである。

最後に、本調査データを用いる際の注意点を述べる。本稿では記述の便宜上の理由から、「異なる他者」という表記の仕方をしたが、それはあくまで同性愛者、および移民という限定された他者を意味している。したがって、本調査データとその分析は、あくまで同性愛者、および移民に対する寛容性に言及するものである。

注釈

- 1) 社会的距離尺度は、提示されたさまざまな人種に対して、回答者が次の7つの項目に該当するかどうか問われる。①婚姻によって親戚関係になってもよい、②親友として社交クラブに参加してもよい、③隣人として近所に住んでもよい、④同僚として職場に来てよい、⑤市民として自分の国に来てよい、⑥訪問者としてのみ来てよい、⑦自分の国から出て行ってほしい。この尺度は Bogardus scale と呼ばれ、改訂されながら多くの実証研究において使用されている (徳田 2002)。
- 2) 固定グループ法による政治的寛容性の測定は、クロスセクショナルな調査には向いているが、経年変化を明らかにするには適切ではないということでもある (Gibson 1992)。
- 3) ただし、「異なる他者」に対する不寛容は測定できると考えられる。なぜなら、他者の政治的自由を許容しないということや、他者を受け入れないということは、他者を「拒絶」しているからこそ選択されることだからだ。
- 4) 分析の際、欠損値のあるケースは完全情報最尤法によって推定した。

文献

Merton, 1949, "Discrimination and the American Creed," Robert, M. MacIvel ed., *Discrimination and National Welfare*, NewYork: Harper and Brothers, 99-126.

Dražanová, Lenka, 2017, *Education and Tolerance: A Comparative Quantitative Aalysis of the*

- Education Effect on Tolerance*, New York: Peter Lang.
- Finkel, Steven E. and Stan, Humphries, 1999, “Democratic Values and Political Tolerance,” John P. Robinson, Phillip R Shaver, Lawrence Wrightsman eds., *Measures of Political Attitudes*: Academic Press, 203–96.
- Forst, Rainer, 2008, “The Limits of Toleration,” Ingrid, Creppel, Hardin, Russell and Stephen Macedo eds., *Toleration on Trial*, Plymouth: Lexington Books, 17–30.
- 藤原翔・伊藤理史・谷岡謙, 2012, 「潜在クラス分析を用いた計量社会学的アプローチ：地位の非一貫性、格差意識、権威主義的伝統主義を例に」『年報人間科学』 33: 43–68.
- Gibson, James L. and Bingham, Richard D., 1982, “On the Conceptualization and Measurement of Political Tolerance,” *The American Political Science Review*, 76(3): 603–20.
- Gibson, James L., 1992, “Alternative Measures of Political Tolerance: Must Tolerance Be ‘Least-Liked’?”, *American Journal of Political Science*, 36(2):560–77.
- 日比野愛子, 2010, 「科学技術に対する態度における DK 回答の意味」『社会学評論』 60(4): 554–69.
- King, Preston, 1976, *Toleration*, New York: St. Martin's Press.
- 小杉孝司・清水裕士, 2014, 『M-plus と R による構造方程式モデリング入門』北大路書房.
- Mather, Darin and Tranby, Eric, 2014, “New Dimensions of Tolerance: A Case for a Broader, Categorical Approach,” *Sociological Science*, 1: 512–31.
- McCarthy, John D. and Zald, Mayer N., 1977, “Resource Mobilization and Social Movements: A Partial Theory,” *American Journal of Sociology*, 82(6): 1212–41.
- Mondak, Jeffery J. and Sanders, Mitchell S., 2003, “Tolerance and Intolerance, 1976–1998,” *American Journal of Political Science*, 47(3): 492–502.
- Schwadel, Philip and Garneau, Christopher R. H., 2014, “An Age-Period-Cohort Analysis of Political Tolerance in the United States,” *The Sociological Quarterly*, 55(2): 421–52.
- Stouffer, Samuel, A., 1955, *Communism, Conformity, and Civil Liberties*, New York: John Wiley & Sons.
- 徳田剛, 2002, 「「社会的距離」概念の射程」『ソシオロジ』 46(3): 3-18, 226.
- Twenge, Jean M, Carter, Nathan T. and Campbell, W. Keith, 2015, “Time Period, Generational, and Age Differences in Tolerance for Controversial Beliefs and Lifestyles in the United States, 1972–2012,” *Social Forces*, 94(1): 379–99.
- Viegas, José Manuel Leite, 2007, “Political and Social Tolerance,” Deth, Jan W. Van, José Ramón Montero, and Anders, Westholm eds., *Citizenship and Involvement in European Democracies: A Comparative Analysis*, London: Routledge, 109–32.
- Weldon, Steven A., 2006, “The Institutional Context of Tolerance for Ethnic Minorities: A Comparative, Multilevel Analysis of Western Europe,” *American Journal of Political Science*,

50: 331–49.

Widmalm, Sten and Oskarsson, Sven, 2008, “Tolerance and Democracy in Liberal and Authoritarian Market Economies,” Report from Conference Proceedings on Authoritarian Capitalism, Glasshouse forum, Stockholm.

地位不安の 2 つの相

—「地位を失う不安」と「見下される不安」の比較—

神林 博史
(東北学院大学)

1. 問題の所在

1-1 「静かな変容」とその帰結

階層帰属意識と社会経済的地位の関連は、1980 年代以降強まっていることが確認されている（吉川 199; 神林 2010; 吉川 2014）。これを吉川徹は、階層帰属意識の「静かな変容」と呼んだ（吉川 1999）。

階層帰属意識と社会経済的地位の関連が強まったことは、人びとが社会の不平等構造とそこでの自分自身の位置をより正確に判断するようになったことを含意する。ここから、「なぜそのような変化が生じたのか」と「この変化は人びとの意識や行為にいかなる影響を与え、社会にどのような帰結をもたらすか」という 2 つの大きな問いを立てることができる。「静かな変容」をめぐる先行研究は、基本的に 1 つ目の問いに答えようとしてきた（たとえば数土 2010; 神林 2011）。これに対し、2 つ目の問いはこれまで必ずしも十分に検討されてこなかった。しかし、「静かな変容」の指摘からすでに 20 年が経過し、「静かな変容」についての基本的な事実確認はほぼ完了した段階にある。それゆえ今後は 2 つ目の問いの探求が重要となるだろう。

人びとが社会の不平等構造と自分自身の位置をより正確に判断するようになったとして、そのことは人びとの意識や行為にどのような影響を与えるだろうか。2 つの相反するシナリオを考えることができる。1 つは楽観的なシナリオである。社会の不平等構造と不平等の問題性が広く認識されることで、「このままではいけない」という危機感人びとの間で共有される。その結果、人びとは平等と反格差を志向するようになり、不平等の進行に歯止めがかかると共に社会経済的地位の異なるグループの間に連帯と友愛が形成されるだろう。もう 1 つは悲観的なシナリオである。社会の不平等化の進行は社会経済的地位による有利・不利の拡大をもたらす。それゆえ地位の高い人びとは自らの地位を維持または上昇させることに汲々とし、地位の低い人びとの境遇を慮ろうとはしないだろう。むしろ地位の低い人びとを怠惰な敗者として蔑視するかもしれない。一方で地位の低い人びと、とりわけ上層移動の可能性が低い人びとは自らの境遇に絶望し、努力が報われない社会あるいはその上層に君臨する人びとを憎悪するか、さもなければ無気力や自暴自棄に陥るだろう。結果として社会は分断・無理解・不寛容が蔓延する殺伐としたものになると予想できる。

不平等化が進行する日本社会は、この 2 つのシナリオのどちらの方向に進むのだろうか。

私たちは社会調査データからその答えあるいはヒントを見つけることができるだろうか。本稿では社会の不平等化の進行が人びとの意識に与える影響を考えるための手がかりとして「地位不安」に注目し、基礎的な分析を行う。

1-2 不平等化の進行と社会的アイデンティティ

社会の不平等化の進行がどのような帰結をもたらすかを考える上で興味深いのが、R・ウィルキンソンとK・ピケットの著書『平等社会』（Wilkinson and Pickett 2009=2010）である。彼らの議論は以下のように要約できる。社会の不平等度が高まると、社会経済的地位の重要性もその分だけ増す。このため人びとは自身の社会経済的地位に敏感にならざるを得ず、自己と他者を互いに値踏みしあうようになる。このことは人びとの地位不安を高める。地位不安は現代社会における最も強力なストレス源のひとつであり、これが様々な社会問題——たとえば健康への悪影響、犯罪や薬物乱用の増加、一般的信頼の低下など——を引き起こす。これは前節で述べた2つのシナリオのうち2つ目と合致する。「覚醒的であるがゆえに幸福ではない社会」（吉川 2014: 138）の具体的な形といってもいいだろう。

『平等社会』では、不平等度の高い社会において地位アイデンティティの重要性が高まることが指摘されている。いくつか印象的な部分を引用しておこう。「高い地位にあることはほぼ常に、より優れている、成功している、そしてより有能であるという含みを持つ」（Wilkinson and Pickett 2009=2010: 45）。「人間同士の出会いの核には、社会的な評価や値踏みへの不安がある。人からどうランクづけされるか、自分をよく見せられているだろうか、を気にしているのだ」（Wilkinson and Pickett 2009=2010: 48）。「格差が高まると、社会的地位の重要性が増し、いっそう人目を気にするようになるようだ。互いを対等に認め合うのではなく、値踏みし合う意識が高まる。ある人物のアイデンティティにおいて社会的地位がより重視される要素となるのだ」（Wilkinson and Pickett 2009=2010: 49）。

日本社会の現状を鑑みると、社会経済的地位の不平等に人びとが敏感になっており、社会的地位に関する刺激的な言葉が多く使われるようになった印象を受ける。たとえば「下流」「底辺」「分断」「スクールカースト」「アンダークラス」などが一般向け書籍のタイトルになったし¹⁾、「上級国民」「マウンティング」といったネットスラングも存在する。これらの事実は、日本においても『平等社会』の議論に整合的な変化——不平等の進行によって人びとが社会経済的地位に敏感になり、その観点から互いを敵視・蔑視しあう状況の出現——が生じていることを示唆しているのかもしれない。

1-3 地位不安とは何か

『平等社会』におけるキー概念が「地位不安」である。地位不安とは文字通り社会経済的地位についての不安のことだが、ウィルキンソンとピケットはこの言葉を「他者から見下される不安」の意味で用いている（Wilkinson and Pickett 2009=2010）。ただし、これはあく

までもウィルキンソンとピケットの流儀であって、地位不安が意味するものは論者によって様々である（神林 2018）。そしてどのような意味内容かに関わらず、社会の不平等化と地位不安の関係を計量的に扱った先行研究はそれほど多くない。『平等社会』では、地位不安はマクロレベルの社会経済的不平等と各種の社会問題の相関を説明するための道具として解釈レベルで導入されているに過ぎず、社会経済的不平等の程度と地位不安、あるいは地位不安と様々な問題行動の直接的な関連は分析されていない。ウィルキンソンとピケットの理論の直接的な検証（「見下される不安」としての地位不安と社会経済的地位との関連の検証、あるいは地位不安が健康に与える影響の検証）を試みる研究もいくつか行われているが（詳細は神林（2018）参照）、筆者の知る限りでは日本における同種の調査研究はまだ存在しない²⁾。

そこで本稿では、現代日本における「見下される不安」としての地位不安の基本的な性質を、大規模社会調査データを用いて検討する。分析に際しては、日本でもすでに先行が存在する「地位を失う不安」としての地位不安（たとえば今田 2000、神林 2018）と比較しつつ、（1）社会経済的地位は地位不安にどのような影響を与えるか、（2）地位不安は他の変数（本稿では特に健康に注目する）にどのような影響を与えるか、の2点について探索的な分析を行う。

2. 方法

2-1 データ

本稿で主に使用するデータは 2018 年「暮らしと社会意識についての Web 調査」（SSP-W2018）データである（調査概要は本報告書の第 1 章を参照）。また、調査結果の比較用に 2015 年「階層と社会移動」全国調査（SSP 調査）データも使用する（2015 年 SSP 調査については SSP プロジェクト（2016）を参照）。

2-2 変数

（1）従属変数

社会調査データを用いて「他者から見下される不安」を検討した先行研究の中には、European Quality of Life Survey (EQLS) の調査票に含まれる「社会的排除感」Sense of Social Exclusion の一部を地位不安の指標として使用したものがいくつかある（たとえば Layte 2012; Delhey and Dragolov 2014; Layte and Whelan 2014; Delhey et al. 2017）。

社会的排除感は以下の 5 項目からなる³⁾（1）自分は社会からのけ者にされている。（2）今や人生はとても複雑なものになってしまったので、自分がどうすればいいか、ほとんどわからない。（3）自分のすることの価値を、他の人たちは認めてくれない。（4）自分の仕事や収入のせいで、他の人たちから見下される。（5）自分が住んでいる地域の人たちに親しみをを感じる。選択肢は「そう思う」「どちらかといえばそう思う」「どちらともいえない」

「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の5件法である。先行研究では(3)と(4)を合成したもの(Delhey and Dragolov 2014)、あるいは(4)を単独で(Layte and Whelan 2014)地位不安の指標として使用している。本研究でも社会的排除感の質問項目をベースに地位不安を検討する(これらの質問をどのように処理するかは後述)。

他方、「地位を失う不安」については、1995年「社会階層と社会移動」全国調査(SSM調査)や「勤労生活に関する調査」(労働政策研究・研修機構)、および2015年SSP調査で使用実績のある「まごまごしていると、他人に追い越されそうな不安を感じる」(地位競争不安)、「うかうかしていると、自分がこれまで獲得したものを失ってしまいそうな不安を感じる」(地位喪失不安)の2項目を使用した。選択肢は先述の社会的排除感と同じ5件法である。

(2) 独立変数

地位不安を説明する独立変数は以下の7つである。(1)年齢、(2)性別、(3)婚姻関係、(4)教育、(5)職業、(6)世帯収入、(7)階層帰属意識。

年齢は調査時点での年齢をそのまま使用する。性別は男性を1、女性を0とするダミー変数である。婚姻関係は既婚を1、それ以外を0とするダミー変数である。教育は短大以上卒を1、高卒以下を0とするダミー変数である。職業は、(1)上層ノンマニュアル(専門・管理)、(2)下層ノンマニュアル(販売・事務・サービス)、(3)マニュアル、(4)無職、の4カテゴリからなる。無職を基準とするダミー変数として扱う。世帯収入は等サイズの4グループに分割して扱う(四分位数による分割)。第1四分位グループの収入が最も低く、第4四分位グループが最も高い。ただしSSP-W2018調査データでは世帯収入の無回答率が19.8%と高く、無回答を欠損値扱いすると有効ケースが大きく減少してしまう。これを避けるため、世帯収入の無回答を独立したカテゴリとし無回答も含めて分析する。第3四分位グループを基準カテゴリとするダミー変数として扱う。階層帰属意識は「上」と「中の上」を合併して「上+中の上」「中の下」「下の上」「下の下」の4カテゴリとし、「中の下」を基準カテゴリとするダミー変数として扱う。

(3) 健康関連指標

ウィルキンソンとピケットの議論は社会疫学をベースとしており、地位不安と健康の関連が議論の出発点となっている。そこで本稿では、地位不安と健康がどのように関連するかも併せて検討する。分析で使用する変数は、主観的健康と精神的健康である。主観的健康は「あなたは、現在のご自分の健康状態をどう思いますか」という質問で測定される。選択肢は「よい」「まあよい」「ふつう」「あまりよくない」「わるい」の5件法で、「よい」を5点、「わるい」を1点とコードする。したがって、数値が大きいほど健康状態が良いことを示す。

精神的健康は標準的な尺度の 1 つである K6 を使用する。K6 は過去 30 日における精神的健康の状態を尋ねるもので、6 つの質問からなる。5 件法の選択肢を「まったくない＝0」から「よくある＝4」とコードし、6 項目の回答を合計することで精神的健康度のスコアが得られる。K6 の場合、数値が大きくなるほど精神的健康度が悪いことを示す。

3. 分析結果

3-1 地位不安の基礎集計

まず地位不安がどのように分布するかを確認しよう。表 1 は社会的排除感 5 項目の度数分布表である。

2016 年にヨーロッパ 33 か国で実施された EQLS の結果によれば、社会的排除感の同意率（「そう思う」と「そう思わない」の合計比率）は、「のけ者にされている」が 8%、「ほとんどわからない」が 17%、「認めてくれない」が 19%、「見下される」が 14%、「親しみを感じる」が 34%だった（Eurofound 2017: 91）。したがって、SSP-W2018 の結果は EQLS のそれと大きな差異はないといえる。

表 2 は、「地位を失う不安」の 2 項目の度数分布表である。この質問は調査時期の近い SSP2015 でも質問されたため、その結果も併せて表示した。なお、SSP-W2018 と SSP2015 では選択肢のワーディングが異なることに注意が必要である。

同意率（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計比率、または「よくあてはまる」と「ややあてはまる」の合計比率）は 2 つの調査でほぼ同じである。しかし、それ以外の選択肢の比率は比較的大きく異なっており、SSP-W2018 の方が強い否定（「そう思わない」）の割合が多いことがわかる。この原因はおそらく調査法に起因すると思われる。

2-2 で説明したように、地位不安（見下される不安）を扱った先行研究の中には、社会的排除感のうち「自分のすることの価値を、他の人たちは認めてくれない」と「自分の仕事や収入のせいで、他の人たちから見下される」の 2 項目から地位不安指標を合成したものがある。本稿でもこれに倣い、この 2 項目を合計することで地位不安スコアを計算する。回答は「そう思う」を 5 点、「そう思わない」を 1 点として処理するので、数値が大きいほど地位不安が高いことを示す。なお、これら 2 項目の信頼性係数（クロンバックの α ）は.806 であった。

「地位を失う不安」についても 2 項目を合計して指標化する（ $\alpha=.860$ ）。回答のコードは「見下される不安」と同じで、数値が大きいほど地位不安が高いことを示す。以下では「見下される不安」の地位不安を「地位不安 A」、「地位を失う不安」の地位不安を「地位不安 B」と呼ぶことにする。

社会的排除感の 5 項目を因子分析すると「自分が住んでいる地域の人たちに親しみを感じる」以外の 4 項目が 1 つの因子を構成する（結果は略）。そこで「地域の人たちに親しみを感じる」以外の 4 項目を合計した「社会的排除感」指標を作成し（ $\alpha=.871$ ）、地位不安

表 1 社会的排除感の度数分布表

数値：％

	自分は社 会からのけ 者にされて いる	どうすべ ばいいか、 ほとんどわ からない	自分のする ことの価値 を、他の人 たちは認め てくれない	仕事や収 入のせいで、 他の人から 見下される	自分が住 んでいる地 域の人たち に親しみを 感じる
そう思う	2.6	5.7	3.5	4.1	5.9
どちらかといえばそう思う	5.9	14.9	10.0	8.2	26.9
どちらともいえない	19.7	27.6	30.6	23.5	37.0
どちらかといえばそう思わない	18.8	16.8	18.8	17.0	11.4
そう思わない	50.0	32.0	33.3	43.9	16.0
わからない	3.0	3.0	3.8	3.3	2.8
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

N=2898。質問文は文意を損なわないと思われる範囲で省略した。

表 2 地位を失う不安の度数分布表（SSPW2018、SSP2015）

数値：％

	SSPW2018			SSP2015	
	他人に追 い越されそ うな不安を 感じる	獲得したも のを失って しまいそう な不安を感 じる		他人に追 い越されそ うな不安を 感じる	獲得したも のを失って しまいそう な不安を感 じる
そう思う	5.3	5.0	よくあてはまる	3.5	2.3
どちらかといえばそう思う	14.0	14.7	ややあてはまる	16.1	13.6
どちらともいえない	27.0	27.5	どちらともいえない	20.5	20.5
どちらかといえばそう思わない	19.4	18.9	あまりあてはまらない	41.0	42.2
そう思わない	32.4	32.6	まったくあてはまらない	18.6	21.1
わからない	1.9	1.3	DK	0.3	0.3
計	100.0	100.0		100.0	100.0
N	2898			3575	

質問文は文意を損なわないと思われる範囲で省略した。

A との比較を行うことにした。回答のコードは地位不安 A と同じなので、数値が大きいほど社会的排除感が強いことを示す。

地位不安 A、地位不安 B および社会的排除感の記述統計量を表 3 にまとめた。次節以降は、特に断りがない限りこれら 3 種の得点を分析で使用する。

なお、3 変数間の相関係数は、(1) 地位不安 A と地位不安 B が.531、(2) 地位不安 A と社会的排除感が.943、(3) 地位不安 B と社会的排除感が.550、であった（いずれも 1%水準で有意）。したがって、地位不安 A と社会的排除感の実質的にほとんど同じものであること

表 3 地位不安スコアおよび社会的排除感スコアの記述統計量

	平均	標準偏差	最小値	最大値	N
地位不安A(見下される不安)	4.363	2.141	2	10	2311
地位不安B(地位を失う不安)	4.729	2.262	2	10	2311
社会的排除感	8.636	3.947	4	20	2311

全ての項目に欠損値を含まないケースに限定。

表 4 地位不安および社会的排除感の重回帰分析(1)

独立変数	地位不安A (見下される不安)		地位不安B (地位を失う不安)		社会的排除感	
	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.
切片	5.467 ***	.227	6.350 ***	.243	11.450 ***	.414
男性	.636 ***	.094	.340 **	.100	1.087 ***	.171
年齢	-.025 ***	.004	-.041 ***	.004	-.057 ***	.007
短大以上	-.129	.090	.146	.097	-.225	.165
既婚	-.425 ***	.099	-.241 *	.106	-1.024 ***	.180
上層NM	-.386 **	.128	-.020	.137	-.832 ***	.233
下層NM	-.185	.112	.173	.120	-.516 *	.204
マニュアル	-.009	.160	.245	.171	-.147	.291
世帯収入(1/4)	.650 ***	.140	.058	.150	1.173 ***	.255
世帯収入(2/4)	.237	.129	.007	.138	.389	.235
世帯収入(4/4)	-.178	.136	-.013	.146	-.347	.248
世帯収入DK	.262	.142	-.031	.153	.449	.260
R ²	.091 ***		.065 ***		.111 ***	
N			2307			

方法: OLS, *** p<.001, ** p<.01, * p<.05

がわかる。

3-2 地位不安の重回帰分析

地位不安は社会経済的地位とどのように関連するのだろうか。前節で説明した3種の地位不安関連指標を従属変数、客観的な社会経済的変数(性別、年齢、学歴、婚姻状態、職業、世帯収入)を独立変数とした重回帰分析の結果をまとめたものが表4である。

地位不安Aに対しては性別、年齢、婚姻状態、職業、世帯収入が統計的に有意な効果を持っている。性別(男性)の効果は正なので、男性の方が女性に比べて地位不安が高いことを意味する。年齢が高いほど地位不安が低く、既婚者は未婚者に比べると地位不安が低い。職業では上層ノンマニュアルの効果が負となっているが、職業の基準カテゴリは無職なので、上層ノンマニュアルは無職に比べて地位不安が低いことを意味する。世帯収入で

は低収入層（第1四分位層）の効果が負となっている。世帯収入の基準カテゴリは第3四分位層なので、中間層と比べて低収入層は地位不安を感じやすいことを意味する。ここでの地位不安は、「他者から見下される」という経験の程度を意味するので、いずれの効果も常識的に了解可能な結果となっている。決定係数は.091で、社会意識の分析では中程度の値といえる。

地位不安Bの結果は地位不安Aと類似しているが、統計的に有意な効果を持つ変数は性別、年齢、婚姻状態のみとなっており、決定係数も地位不安Aに比べると低い。地位不安Bと社会経済的地位の関連が弱いことは神林（2018）で指摘されているが、今回の結果はそれを再確認するものとなった。社会的排除感の結果は地位不安Aとほぼ同じである。前節で指摘したように、両者の相関係数がきわめて高いことをふまえれば当然の結果と言える。

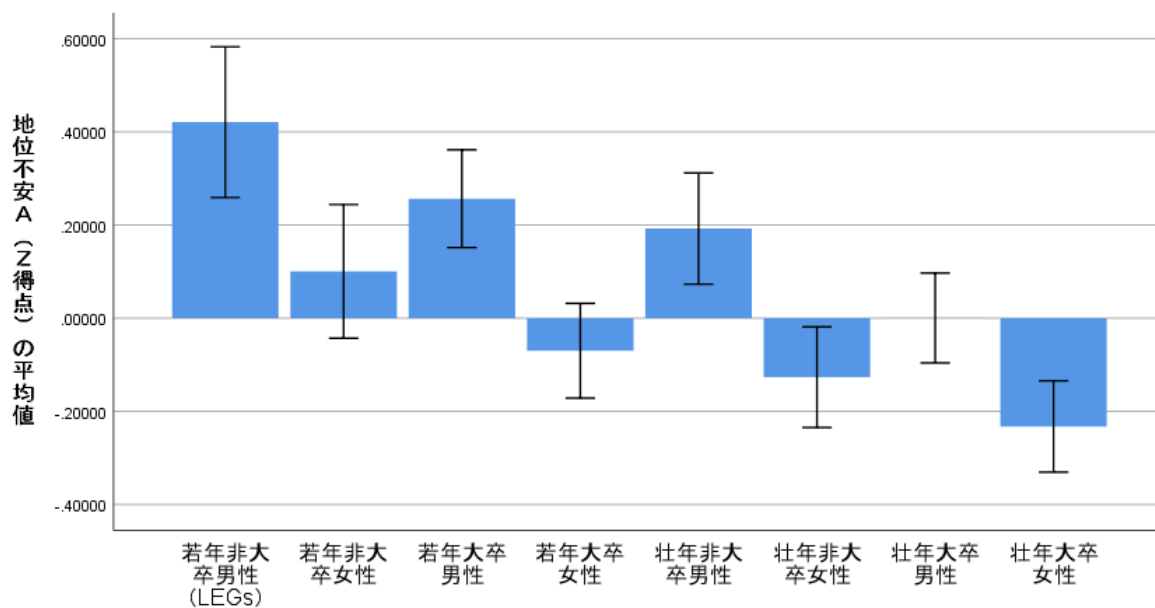
以上の分析結果をわかりやすく把握するために、地位不安の平均値を社会経済的地位によるグループ別に比較した。図1は地位不安Aを標準得点（Z得点）に変換し、性別×学歴×年齢層別に平均値を比較したものである。グループ化の方法は吉川（2018）に準じた。

地位不安Aが最も高いのは若年非大卒男性であることがわかる。その他の特徴としては、（1）女性より男性の地位不安が高く、（2）大卒層より非大卒層の地位不安が高く、（3）壮年層より若年層の地位不安が高い、という傾向が見て取れる。これらの特徴は表4の分析結果に示された通りである。

図2は地位不安Bについて同様の分析を行った結果である。地位不安Bが最も高いのは、地位不安Aの場合と異なり若年大卒男性となっている。「地位を失う不安」は、ある程度の地位をすでに有していることが前提となるので、当然の結果といえるだろう。その他の特徴は、地位不安Aの場合とほぼ同じである。なお、社会的排除感の分析結果は図1とほぼ同じだったので、グラフの掲載と結果の説明は省略する。

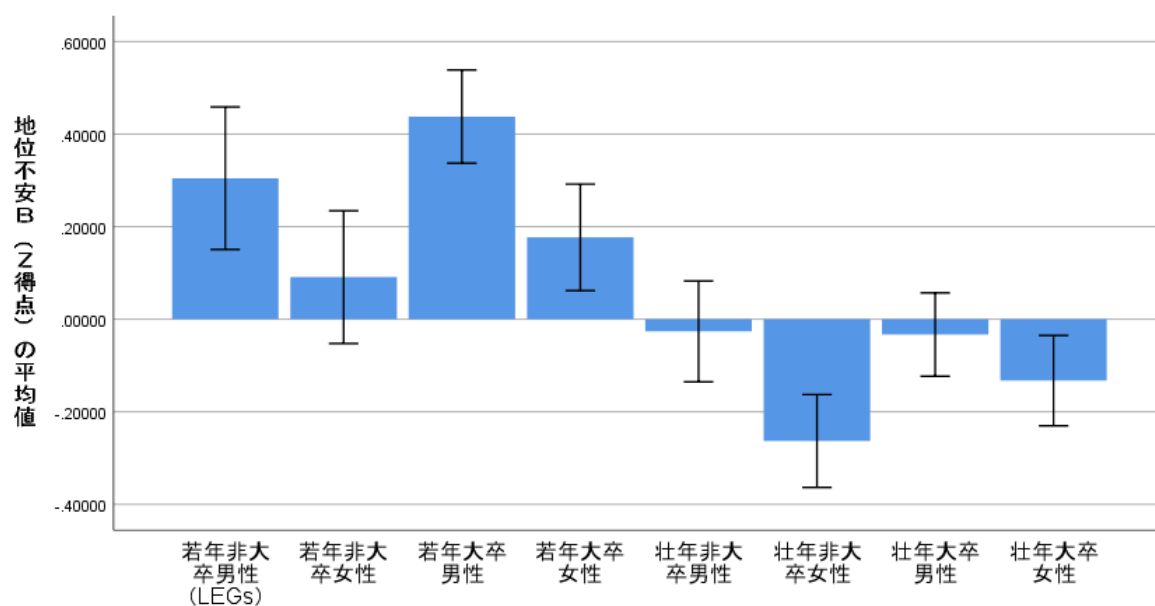
さて、表4から地位不安Aと社会的排除感は地位不安Bに比べて社会経済的地位との関連が強いことが示された。このことは、主観的な社会経済的地位（階層帰属意識）との関連についてもあてはまるだろうか。表5は、表4のモデルに階層帰属意識を追加したモデルの結果をまとめたものである（表4で提示された客観的な社会経済的変数の部分の結果は省略）。表中の「 R^2 変化量」は、表4のモデル（客観的な社会経済的変数のみを独立変数とするモデル）に階層帰属意識を追加した場合の決定係数の増加量を示す。

階層帰属意識の効果は3つの従属変数に対して共通しており、階層帰属意識が高いと地位不安が低く、逆に階層帰属意識が低いと地位不安が高くなる。階層帰属意識との関連はB（非標準化偏回帰係数）で見ても決定係数で見ても地位不安Aとの関連が強いことがわかる。ただし、「他者から見下される」ことは回答者が低地位であることを含意するから、階層帰属意識と関連が生じるのはある意味で当然といえる。また、他者から見下される経験をすることが階層帰属意識を低めるというメカニズムも十分にありうるので、地位不安



エラーバー: 95% CI

図1 地位不安A（見下される不安）のグループ別平均



エラーバー: 95% CI

図2 地位不安B（地位を失う不安）のグループ別平均

表 5 地位不安および社会的排除感の重回帰分析 (2)

独立変数	地位不安A (見下される不安)		地位不安B (地位を失う不安)		社会的排除感	
	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.
上+中の上	-.565 ***	.109	-.252 *	.120	-1.176 ***	.197
下の上	.425 ***	.113	.213	.124	.756 ***	.204
下の下	1.453 ***	.142	.844 ***	.157	2.998 ***	.257
R ²	.152 ***		.081 ***		.188 ***	
R ² 変化量	.062 ***		.016 ***		.076 ***	
N			2307			

方法: OLS, *** p<.001, ** p<.01, * p<.05

R²変化量は表4のモデルに階層帰属意識を追加した場合の変化量を示す。階層帰属意識以外の独立変数の効果の表示は省略した。

と階層帰属意識の因果関係については慎重に考える必要がある。

ともあれ以上の分析結果から、地位不安（および社会的排除感）は社会経済的地位の低い人が感じやすいことが示された。この結果はウィルキンソンとピケットの議論とも整合的である。また、地位不安 A は地位不安 B に比べ客観的にも主観的にも階層性の高い意識であることが確認された。

3-3 地位不安と健康の関係

既に説明したように、ウィルキンソンとピケットの議論では、地位不安と健康の関連が彼らの議論の出発点となっている。そこで本節では、地位不安と健康がどのように関連するかを検討しよう。

ここでは主観的健康と精神的健康（K6）を従属変数、客観的な社会経済的変数（表 4 のモデルで使用したもの）および地位不安を独立変数として地位不安と健康の関連を検討する。3-1 で述べたように 3 つの地位不安関連変数の相関はかなり高いので、そのまま重回帰モデルに同時投入すると多重共線性を引き起こす可能性が高い。そこで、社会経済的変数のみを独立変数とするモデルをベースモデルとし、それに地位不安を個別に追加することで地位不安の効果を比較した。

主観的健康を従属変数とした場合の分析結果を表 6 にまとめた。ベースモデルでは、独立変数のほぼ全てが従属変数に対し何らかの効果を有している。これに地位不安 A（見下される不安）を追加したのがモデル 1、地位不安 B（地位を失う不安）を追加したのがモデル 2、社会的排除感を追加したのがモデル 3 である。

いずれのモデルでも地位不安の回帰係数は有意な負の効果を有しており、地位不安が高いほど主観的健康状態が悪いことを意味する。決定係数をみると、地位不安 A と社会的排除感を追加した場合の決定係数はベースモデルの 2 倍以上となっており、強い影響力を持

表 6 主観的健康に対する地位不安の影響

	ベースモデル		モデル1		モデル2		モデル3	
独立変数	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.
切片	3.126 ***	.109	3.899 ***	.117	3.733 ***	.122	4.113 ***	.120
男性	-.222 ***	.045	-.132 **	.044	-.190 ***	.044	-.128 **	.043
年齢	-.005 **	.002	-.009 ***	.002	-.009 ***	.002	-.010 ***	.002
短大以上	.253 ***	.043	.233 ***	.042	.265 ***	.042	.231 ***	.041
既婚	.179 ***	.047	.118 *	.045	.156 **	.046	.090 *	.045
上層NM	.301 ***	.062	.246 ***	.059	.300 ***	.060	.231 ***	.058
下層NM	.192 ***	.053	.163 **	.051	.208 ***	.052	.146 **	.051
マニュアル	.275 ***	.077	.272 ***	.073	.296 ***	.075	.260 ***	.072
世帯収入(1/4)	-.225 **	.067	-.140 *	.065	-.220 **	.066	-.130 *	.064
世帯収入(2/4)	-.091	.062	-.058	.060	-.090	.061	-.059	.059
世帯収入(4/4)	.083	.066	.062	.063	.085	.064	.058	.062
世帯収入DK	-.112	.068	-.080	.065	-.115	.066	-.080	.064
地位不安A			-.140 ***	.010				
地位不安B					-.095 ***	.009		
社会的排除感							-.086 ***	.005
R ²	.067 ***		.144 ***		.108 ***		.163 ***	
R ² 変化量			.077 ***		.041 ***		.096 ***	
N				2362				

方法: OLS, *** p<.001, ** p<.01, * p<.05

つことがわかる。これに比べると、地位不安 B の効果はそれほど大きくない。

表 7 は、精神的健康 (K6) を従属変数とした場合の結果をまとめたものである。主観的健康の場合とは逆に、いずれのモデルでも地位不安の回帰係数は有意な正の効果を有している。これは、K6 の得点が高いほど精神的健康度が悪くなるからである。地位不安関連変数の効果を比較すると、地位不安 A と社会的排除感は地位不安 B に比べて強い効果を有していることがわかる。健康との関連を考える場合、「地位を失う不安」よりは「見下される不安」の方が重要な意味を持つのである。

ただし、地位不安と健康の関係は地位不安と階層帰属意識の関係の場合と同様、その因果関係の解釈に注意が必要である。地位不安が健康状態を悪化させるという因果関係は当然ありうるが (ウィルキンソンとピケットの議論はこれを想定している)、逆に「健康状態が悪いことが地位不安を高める」という因果関係も十分にありうる。したがって、健康と地位不安の関係についても、因果関係の解釈は慎重におこなう必要がある。

表 7 精神的健康（K6）に対する地位不安の影響

	ベースモデル		モデル1		モデル2		モデル3	
独立変数	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.
切片	10.829 ***	.563	4.097 ***	.552	5.444 ***	.597	2.513 ***	.554
男性	.675 **	.232	-.110	.205	.389	.216	-.115	.199
年齢	-.094 ***	.010	-.062 ***	.009	-.059 ***	.009	-.052 ***	.008
短大以上	-.657 **	.224	-.481 *	.195	-.761 ***	.208	-.470 *	.190
既婚	-.934 ***	.244	-.397	.214	-.731 **	.227	-.179	.209
上層NM	-.764 *	.317	-.292	.278	-.756 *	.295	-.173	.270
下層NM	-.536	.275	-.283	.241	-.676 **	.257	-.147	.235
マニュアル	-.732	.394	-.699 *	.344	-.917 *	.367	-.604	.335
世帯収入(1/4)	1.277 ***	.346	.539	.304	1.234 ***	.323	.477	.296
世帯収入(2/4)	.378	.321	.097	.281	.370	.299	.108	.273
世帯収入(4/4)	-.212	.338	-.022	.296	-.227	.315	.002	.288
世帯収入DK	.620	.350	.341	.306	.646	.326	.345	.298
地位不安A			1.219 ***	.045				
地位不安B					.846 ***	.045		
社会的排除感							.721 ***	.024
R ²	.085 ***		.301 ***		.205 ***		.337 ***	
R ² 変化量			.216 ***		.120 ***		.252 ***	
N				2362				

方法: OLS, *** p<.001, ** p<.01, * p<.05

4. 考察

以上のように、「見下される不安」としての地位不安（および社会的排除感）は、「地位を失う不安」よりも社会経済的地位との関連が強く、健康との関連も強いことが明らかになった。

2つの地位不安の性質を改めて考えてみると、「地位を失う不安」は1990年代の格差論に対応した概念と言える。この時期には中高年サラリーマンの「リストラ」が話題になったように、それまでは制度的に手厚く保護されていた労働市場の中核層（典型的には大企業勤務の大卒ホワイトカラー男性）にも不況の波が押し寄せるようになった。「地位を失う不安」の2つの質問はいずれも1990年代に作られたが（詳細は神林2018を参照）、そこにはこうした状況が反映されていると考えられる。そもそも「地位を失う」ためには、ある程度の地位をすでに獲得していなければならない。

これに対し、「見下される不安」は2000年代以降の格差論に対応している。2000年代以降の格差論は労働市場の周辺層（典型的には非正規雇用労働者）が直面する様々な困難に

主な関心が向けられてきた。「他者から見下される」ことは、見下される主体がすでに低い地位に置かれていることを含意するので、内容的に「地位を失う不安」とは対極にある。

2019年現在、非正規雇用労働者の数は増加を続け、低所得層の割合も増加を続けている。このことは「見下される」立場の人が今なお増え続けていることを意味する。つまり、「見下される不安」は「地位を失う不安」よりも現在の日本社会にフィットする意識であると言えそうだ。

また、詳しい分析結果は省略するが、地位不安（特に「見下される不安」）は SSP-W2018 調査データに含まれる様々な調査項目の多くと有意な関連を示す。いくつか例をあげておこう。(1) 地位不安は無批判パトリオティズムと正の相関を示す。すなわち、地位不安が高い人は無批判パトリオティズムを受容する傾向がある。(2) 地位不安は現代的レイシズムおよび古典的レイシズムと正の関係を示す。すなわち、地位不安が高い人ほどレイシズム傾向がある。(3) 地位不安は相補的世界観と負の相関を示す。すなわち、地位不安が高い人は相補的世界観を受容しない傾向がある。(4) 地位不安は宿命主義と正の相関を示す。すなわち、地位不安が高い人は宿命主義を受け入れる傾向がある。

これらの意識間関係をどのように読み解くかは今後の課題であるが、興味深い結果といえるだろう。1つの可能性として、地位不安は社会意識の中で基底的な意識であり、地位不安が様々な意識に影響を与えていると考えることができる（ウィルキンソンとピケットの議論はそのような因果関係を想定している）。もしこれが正しいとすれば、現代日本の社会意識の特徴を考える上で、「見下される不安」としての地位不安あるいは社会的排除感は重要な役割を果たすことになるだろう。

とはいえ、地位不安は理論的にも実証的にも完成された概念とはいえない。そもそも「不安」という概念自体が曖昧であるし（たとえば「不安」は「恐れ」「恐怖」「心配」といった類似概念とどう区別されるのか）、ウィルキンソンとピケットの議論における「地位不安」概念も曖昧な部分を多く残している。また、地位不安の概念と今回使用した質問項目（社会的排除感の一部）が適切に対応しているかどうかについても検討の余地がある。あるいは「地位不安」という語に拘る必要はなく、質問文の意味内容（社会的排除）に即してより適切な理論を構築する方が良いかもしれない。

注釈

- 1) たとえば『下流社会』（三浦 2005）、『分断社会・日本』（井出・松沢 2016）、『教室（スクール）カースト』（鈴木 2012）、『アンダークラス』（橋本 2018）、『底辺への競争』（山田 2017）など。この他にも「格差」「貧困」「ワーキングプア」「非正規雇用」など格差・不平等に関連して一般的に使用されるようになった言葉は枚挙に暇がない。
- 2) 日本の場合、「地位を失う不安」としての地位不安に注目した先行研究がいくつか存在

する（たとえば今田 2000、神林 2018）。このうち神林（2018）は 1995 年と 2015 年の社会調査データを用いて地位不安の分布および社会経済的地位との関連を分析し、「地位を失う不安」としての地位不安は分布・社会経済的地位との関連ともこの 20 年間に大きく変化しておらず、ウィルキンソンとピケットの議論とは必ずしも一致しないことが示された。

- 3) 原文は以下の通り。1) I feel left out of society, 2) Life has become so complicated today that I almost can't find my way, 3) I feel that the value of what I do is not recognized by others, 4) Some people look down on me because of my job situation or income, 5) I feel close to people in the area where I live. 日本語訳は筆者（神林）による。

文献

Delhey, J. and G. Dragolov, 2014, "Why Inequality Makes Europeans Less Happy: The Role of Distrust, Status Anxiety, and Perceived Conflict," *European Sociological Review*, 30(2):151-165.

Dalhey, J., C. Schneickert, and L. Steckermeier, 2017, "Sociocultural Inequalities and Status Anxiety: Redirecting the Spirit Level Theory," *International Journal of Comparative Sociology*, 58(3): 215-240.

Eurofound, 2017, *European Quality of Life Survey 2016: Quality of Life, Quality of Public Services, and Quality of Society*, Luxembourg: Publications Office of the European Union.

橋本健二, 2018, 『アンダークラス』ちくま新書.

井出英策・松沢裕作編, 2016, 『分断社会・日本』岩波書店.

今田高俊, 2000, 「ポストモダン時代の社会階層」今田高俊（編）『日本の階層システム 5 社会階層のポストモダン』東京大学出版会: 3-53.

神林博史, 2010, 「「中」意識の飽和と潜在する変化：戦後日本における階層帰属意識に関するノート（2）」『東北学院大学教養学部論集』157:1-24.

———, 2011, 「中流意識と日本社会：階層帰属意識の時代変化とその意味」盛山和夫・片瀬一男・神林博史・三輪哲編『日本の社会階層とそのメカニズム：不平等を問い直す』白桃書房: 151-184.

———, 2018, 「現代日本社会における地位不安：社会経済的地位との関連についての計量分析」『社会学研究』101: 11-36.

吉川徹, 1999, 「『中』意識の静かな変容」『社会学評論』50（2）: 216-230.

———, 2014, 『現代日本の「社会の心」：計量社会意識論』有斐閣.

———, 2018, 『日本の分断』光文社新書.

Layte, R., 2012, "The Association Between Income Inequality and Mental Health: Testing Status Anxiety, Social Capital, and Neo-Materialist Explanations," *European Sociological Review*, 28

(4):498-511.

Layte, R. and C.T. Whelan, 2014, “Who Feels Inferior? A test of the Status Anxiety Hypothesis of Social Inequalities in Health,” *ESRI Working Paper* No.476.

三浦展, 2005, 『下流社会』 光文社新書.

SSP プロジェクト, 2016, 『2015 年階層と社会意識全国調査（第 1 回 SSP 調査）報告書』
<http://ssp.hus.osaka-u.ac.jp/pdf/SSP-2015.pdf> (2019 年 6 月 15 日取得).

数土直紀, 2010, 『日本人の階層意識』 講談社.

鈴木翔, 2012, 『教室内（スクール）カースト』 光文社新書.

Wilkinson, R., and K. Pickett, 2009, *The Spirit level: Why More Equal Societies Almost Always Do Better*, Princeton: Princeton University Press. (酒井泰介訳, 2010, 『平等社会：経済成長に代わる、次の目標』 東洋経済新報社.)

山田昌弘, 2017, 『底辺への競争』 朝日新書.

若年層における相補的世界観が満足度に与える影響

—ライフコースの格差に注目して—

狭間 諒多朗
(南山大学)

1. 本稿の検証課題

1-1 相補的世界観は若年層の満足度を支えているのか

今の若年層は現状を肯定する傾向にあるといわれている。たとえば、若年層の生活満足度は上昇しており（古市 2011 ほか）、社会に対して異議申し立てを行わずおとなしい（本田 2010 ほか）。正規の職に就けない、結婚できない、経済的に困窮しているなど、今の若年層が置かれた状況は厳しいと伝えられている（藤田 2016）。にもかかわらず日々の生活に満足し、社会を変えようとしなないかれらの様子は現状を肯定しているようにみえる。このようなパラドクスを解明しようとする議論が多くあるが（古市 2011; 狭間 2018, 2019 ほか）、本稿では、それらの研究に新たな知見を加えるべく、新たなデータを用いて議論を行っていく。

本稿では、相補的世界観という意識に注目し、この意識の階層差という観点から、若年層の現状肯定的な態度について分析を行う。相補的世界観とは、システム正当化理論の中で用いられる考え方で、「世の中はバランスがとれている」「良いことが起これば悪いことも起こる」といった、ものごとに対してバランスをとった認識、すなわち相補的な認識をすることをいう（Kay and Jost 2003; 池上 2012）。システム正当化理論では、人間は基本的に現状を肯定したいという動機があり、今あるシステムを正当化しようとするものであると考えられている（Jost et al 2010）。しかし、現状のシステムや社会には問題点も多く、そのまま正当化できるわけではない。そこで「世の中はバランスがとれている」「良いことが起これば悪いことも起こる」というように相補的に世の中を認識することで、今あるシステムや社会の悪い点から目を背け、正当化しているのではないか、というのがシステム正当化理論における相補的世界観の説明である（池上 2012）。

このシステム正当化理論における相補的世界観の考え方はそのまま現代日本における若年層においても当てはめることができる。すなわち、若年層が置かれている状況は確かに厳しいが、それでも、「世の中はバランスがとれている」「良いことが起これば悪いことも起こる」と考えることで、現状の悪い点に目をつぶり、肯定することができるのではないだろうか。本稿では、このような相補的世界観が若年層の現状肯定的な態度の背後にあるのかを検証する。その際、現状肯定的な態度を表す意識として、生活満足度と日本社会満足度を使用する。生活満足度は、個々人の日々の生活に対する満足度であり、自身の置か

れた状況に対する肯定度合いを表す。他方、日本社会満足度は、文字通り日本社会に対する満足度であり、現状の社会に対する肯定度合いを表す。個人に対する現状肯定的態度と、社会に対する現状肯定的態度という2つの意識と相補的世界観の関連を明らかにする。

1-2 若年層の中にあるライフコース格差

さらに本稿では、若年層の中にある差異にも注目する。かつての若者論では「今の若者は〇〇」といった形で、若年層を一括りにすることが多かった。しかしながら近年では、若年層内の格差が広がったことで、若年層を一括りにして扱うことの限界が指摘され、かれらの中にある階層差に注目する必要性が指摘されている（吉川・狭間編 2019）。相補的世界観が若年層の満足度を支えているとしても、そもそもどのような若年層が強い相補的世界観を持っているのかという点も検証しなければならない。そこで本稿では、若年層の中にあるライフコースの格差に注目する。かつての日本社会では、学卒後に正規の職に就き、結婚するといった「標準的な」ライフコースが存在し、そのような人生を歩むことが当たり前とされてきた。しかしながら、90年代の後半を境に、非正規職が増加し、未婚率の上昇に拍車がかかり、「標準的な」ライフコースを歩むことが当たり前でなくなった（鈴木 2015）。近年の若年層では、「標準的な」ライフコースを歩める人と歩めない人の格差が存在している。若年層の困難が指摘されている状況で、しかし「標準的な」ライフコースを歩めている若年層は「いろいろと言われているが、結局世の中はうまくいくようになっている」という、相補的な認識を持ちやすい可能性が考えられる。また、生活満足度に関する先行研究では、正規の職に就くこと、結婚することが高い生活満足度につながっているという研究結果が得られている（小林 2008; 脇田 2014）。もしも相補的世界観が満足度を高めていて、正規職の人や結婚している人が強い相補的世界観を持っているのだとすれば、就業状態や婚姻状態が満足度に与える影響は相補的世界観を通じたものである可能性もある。本稿では、「標準的な」ライフコースを歩んでいるかどうかを表す変数として、正規職か非正規職かという就業状態、配偶者の有無という婚姻状態に注目し、これらの要因と相補的世界観、そして2つの満足度との関連を分析する¹⁾。

2. 方法

本稿で使用するデータは「2018年暮らしと社会意識についてのWeb調査」(SSP-W2018)である。本稿では、若年層を20～39歳と定義し、分析を行う。なお、分析対象者数は、分析に用いる変数が欠損値になっているケースを除いた、868人である。

続いて本稿で使用する変数について説明する。

まず、生活満足度と日本社会満足度については、「あなたはつぎのようなことがらについて、どの程度満足していますか」という質問項目の中から「生活全般」と「日本社会」について尋ねた項目を使用する。回答選択肢はともに「満足している／どちらかといえば満

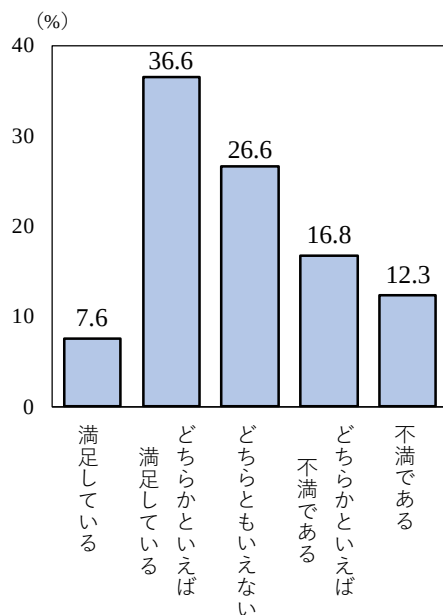


図 1 生活満足度の回答分布

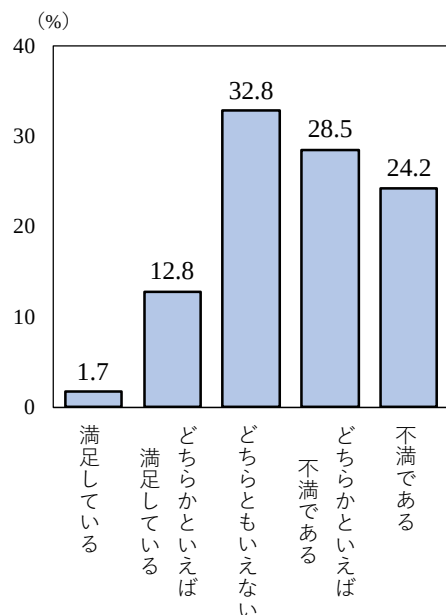


図 2 日本社会満足度の回答分布

満足している／どちらともいえない／どちらかといえば不満である／不満である」の 5 つである。回答分布を確認すると、生活満足度では「満足している」「どちらかといえば満足している」を足し合わせた値が 44.2%となっており、「どちらともいえない」の 26.6%、「不満である」「どちらかといえば不満である」を足し合わせた 29.1%よりも多い（図 1）。すなわち、自らの生活に対しては満足している若年層のほうが多いことがわかる。他方、日本社会満足度では「不満である」「どちらかといえば不満である」を足し合わせた値が 52.7%となっており、過半数となっている（図 2）。すなわち、日本社会に対しては不満を抱いている若年層のほうが多いことがわかる。なお、分析に使用するときには、「満足している」=5～「不満である」=1 となるように数値を与え、数値が高いほど満足度が高いことを示すようにしている。

次に、相補的世界観については、「全体としてみれば、世の中はバランスが取れている」「悪いことばかり続いた人も、次には何か良いことが起こるものだ」という 2 つの質問項目を使用する。この 2 つの項目は C. Kay と T. Jost が相補的世界観の尺度として使用した質問群の中に含まれているもので（Kay and Jost 2003）、なおかつ池上知子が翻案したものである（池上 2012）。回答選択肢はともに「そう思う／どちらかといえばそう思う／どちらともいえない／どちらかといえばそう思わない／そう思わない」の 5 つである。回答分布を確認すると、ともに「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」という回答が少なく、否定的な回答をする若年層は少ないことがみてとれる（図 3、図 4）。なお、分析では、それぞれ「そう思う」=5～「そう思わない」=1 と、数値が高いほど相補的世界観を強く持っていることを示すように数値を与えた上で、2 つの数値を足し合わせたものを使用する。2 つの変数の相関係数は 0.380（1%水準で有意）、クロンバッハの α は 0.551 とや

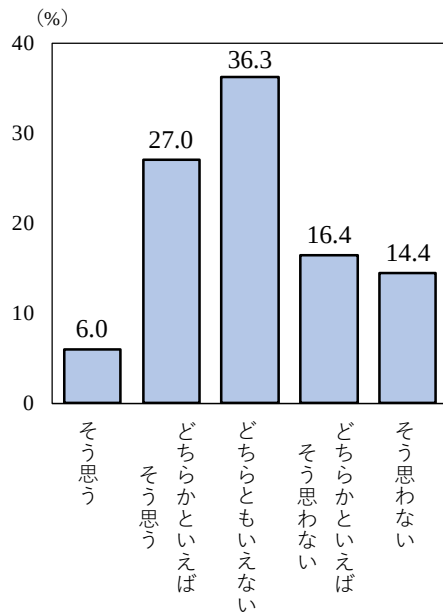


図3 「全体としてみれば、世の中はバランスが取れている」の回答分布

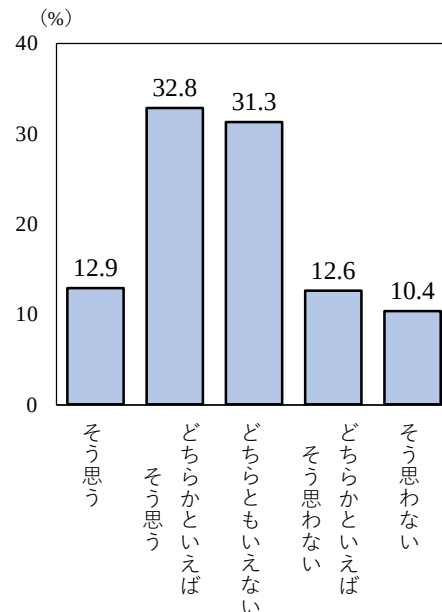


図4 「悪いことばかり続いた人も、次には何か良いことが起こるものだ」の回答分布

や信頼性が低い、本稿ではこの2つの変数が相補的世界観を表すものと考え、足し合わせて使用する。

続いて、就業状態については従業上の地位を「正規職／非正規職／無職／学生」の4カテゴリに分類し、それぞれダミー変数を作成した²⁾。参照カテゴリは「正規職」である。また婚姻状態については、現在配偶者がいない場合=0、いる場合=1と与えた「有配偶者ダミー」を使用する。

最後に、その他の個人属性を示す変数については、性別、満年齢、教育年数、収入を使用する。性別は男性=0、女性=1と値を与え、年齢は調査時の満年齢を使用する。収入には、対数変換を施した世帯収入を使用する。生活満足度、日本社会満足度、相補的世界観、属性変数の記述統計については表1に示している。

本稿ではまず、相補的世界観を従属変数とし、属性変数を独立変数としたOLS重回帰分析を行う。その後、生活満足度、日本社会満足度を従属変数、属性変数と相補的世界観を独立変数としたOLS重回帰分析を行う。その際、独立変数に属性変数のみを投入したモデル1と相補的世界観を加えたモデル2の両方の推定結果を提示する。そして最後に、相補的世界観の媒介効果を検証するために、パス解析を行う³⁾。

3. 分析結果

3-1 「標準的な」ライフコースが相補的世界観を強くする

相補的世界観を従属変数、属性変数を独立変数としたOLS重回帰分析の結果が表2である。まず調整済み決定係数 R^2 の値は.066であった(1%水準で有意)。各独立変数の値を確

表 1 使用する変数の記述統計

変数	割合 (%)	変数	平均	標準偏差
性別 (女性)	47.6	年齢	30.9	5.44
正規職	55.3	教育年数	14.4	2.25
非正規職	20.6	世帯収入 (実数)	530.92	352.12
無職	15.3	世帯収入 (対数変換)	6.0	1.10
学生	8.8	相補的世界観	6.2	1.88
有配偶者	44.0	生活満足度	3.1	1.15
		日本社会満足度	2.4	1.04
n	868			

表 2 相補的世界観の規定要因

	B	SE	β
定数	5.244 **	.673	
性別 (ref: 男性)	.435 **	.136	.116
年齢	-.032 *	.013	-.093
教育年数	.063 *	.029	.075
正規職 (ref)			
非正規職	-.721 **	.171	-.155
無職	-.386 *	.196	-.074
学生	-.042	.265	-.006
世帯収入 (対数変換)	.133 *	.061	.078
有配偶者	.549 **	.138	.145
調整済みR ²	.066**		
n	868		

注1) B: 偏回帰係数 SE: 標準誤差 β : 標準化偏回帰係数

注2) * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$

認すると、性別 ($B = .435^{**}$)、年齢 ($B = -.032^{*}$)、教育年数 ($B = .063^{*}$)、非正規職 ($B = -.721^{**}$)、無職 ($B = -.386^{*}$)、世帯収入 ($B = .133^{*}$)、有配偶者 ($B = .549^{**}$) と、学生を除くすべての変数に有意な結果がでている。非正規職や無職よりも正規職の若年層のほうが相補的世界観を強く持っており、配偶者のいない若年層よりも配偶者のいる若年層のほうが相補的世界観を強く持っていることから、「標準的な」ライフコースを歩むことは、この世界はバランスがとれている認識することにつながっていることがわかった。

表 3 生活満足度の規定要因

	モデル1			モデル2		
	B	SE	β	B	SE	β
定数	1.528 **	.399		.612	.395	
性別（ref: 男性）	.217 **	.081	.094	.141	.078	.061
年齢	-.021 **	.008	-.100	-.016 *	.008	-.074
教育年数	.048 **	.017	.093	.037 *	.016	.072
正規職（ref）						
非正規職	-.224 *	.101	-.079	-.098	.098	-.035
無職	-.111	.116	-.035	-.043	.111	-.014
学生	.411 **	.157	.101	.419 **	.150	.103
世帯収入（対数変換）	.209 **	.036	.200	.186 **	.035	.178
有配偶者	.499 **	.082	.216	.403 **	.079	.174
相補的社会観				.175 **	.019	.285
調整済みR ²	.126**			.201**		
決定係数の増分				.075**		
n	868					

注1) B: 偏回帰係数 SE: 標準誤差 β : 標準化偏回帰係数

注2) * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$

3-2 相補的世界観が満足度を高める

まず、生活満足度を従属変数、属性変数と相補的世界観を独立変数とした OLS 重回帰分析の結果が表 3 である。モデル 1 についてみると、調整済み決定係数 R^2 の値は.126 であった (1%水準で有意)。各独立変数の値を確認すると、性別 ($B=.217^{**}$)、年齢 ($B=-.021^{**}$)、教育年数 ($B=.048^{*}$)、非正規職 ($B=-.224^{**}$)、学生 ($B=.411^{**}$)、世帯収入 ($B=.209^{**}$)、有配偶者 ($B=.499^{**}$) と、無職を除くすべての変数に有意な結果がでている。非正規職と比べて正規職の若年層ほど、配偶者がいる若年層ほど生活に満足していることから、「標準的な」ライフコースを歩むことは生活満足度を高めることがみてとれる。モデル 2 についてみると、調整済み決定係数 R^2 の値が上昇し、.201 となっている (1%水準で有意)。相補的世界観には有意な正の効果がみられ ($B=.175^{**}$)、相補的世界観を強く持っている若年層ほど生活満足度が高いことがわかる。また、相補的世界観をモデルに投入することによって非正規職の効果が有意でなくなっているが、このことについては次節のパス解析で詳しく分析する。

次に、日本社会満足度を従属変数、属性変数と相補的世界観を独立変数とした OLS 重回帰分析の結果が表 4 である。モデル 1 についてみると、調整済み決定係数 R^2 の値は.068 であった (1%水準で有意)。各独立変数の値を確認すると、教育年数 ($B=.063^{**}$)、学生 ($B=.425^{**}$)、世帯収入 ($B=.122^{**}$)、有配偶者 ($B=.182^{*}$) に有意な結果が出ている。配偶者のいる若年層ほど日本社会に満足しているという関連が弱いながらみられる一方、非正

表 4 日本社会満足度の規定要因

	モデル1			モデル2		
	B	SE	β	B	SE	β
定数	.704	.373		-.255	.364	
性別（ref: 男性）	-.120	.076	-.058	-.200 **	.072	-.096
年齢	.001	.007	.006	.007	.007	.037
教育年数	.063 **	.016	.136	.052 **	.015	.112
正規職（ref）						
非正規職	-.149	.095	-.058	-.017	.090	-.007
無職	-.122	.108	-.042	-.052	.103	-.018
学生	.425 **	.147	.115	.433 **	.139	.118
世帯収入（対数変換）	.122 **	.034	.130	.098 **	.032	.104
有配偶者	.182 *	.076	.087	.082	.073	.039
相補的社会観				.183 **	.018	.330
調整済みR ²	.068**			.169**		
決定係数の増分				.101**		
n	868					

注1) B: 偏回帰係数 SE: 標準誤差 β: 標準化偏回帰係数

注2) * p<0.05, ** p<0.01

規職については有意な結果がでていない。モデル2についてみると、調整済み決定係数R²の値が上昇し、.169となっている（1%水準で有意）。相補的世界観には有意な正の効果がみられ（B=.183**）、相補的世界観を強く持っている若年層ほど日本社会満足度が高いことがわかる。また、相補的世界観をモデルに投入することによって有配偶者の効果が有意でなくなっており、「標準的な」ライフコースを歩むことは日本社会満足度とは直接結びついていないことがわかる。

3-3 相補的世界観が「標準的な」ライフコースと満足度をつなげている

まず、生活満足度についてのパス解析の結果を確認する（図5）。

非正規職からのパスをみると、まず生活満足度への直接のパスは有意でないことがわかる。その一方で非正規職であることが相補的世界観を低め、低い相補的世界観を持つことで生活満足度を低めていることがわかる。このような相補的世界観を媒介とした間接効果を検定した結果、1%水準で有意であった（ $-.155 \times .285 = -.044$ **）⁴⁾。前節の分析では、相補的世界観をモデルに投入することで、非正規職が生活満足度に与える影響が有意でなくなった。これは、非正規職が生活満足度に与える影響が、直接的なものではなく、相補的世界観を通した間接的なものだったことによるためだといえる。

有配偶者からのパスをみると、生活満足度を直接高める効果と、相補的世界観を通した間接効果の両方が存在することがわかる。この間接効果を検定したところ 1%水準で

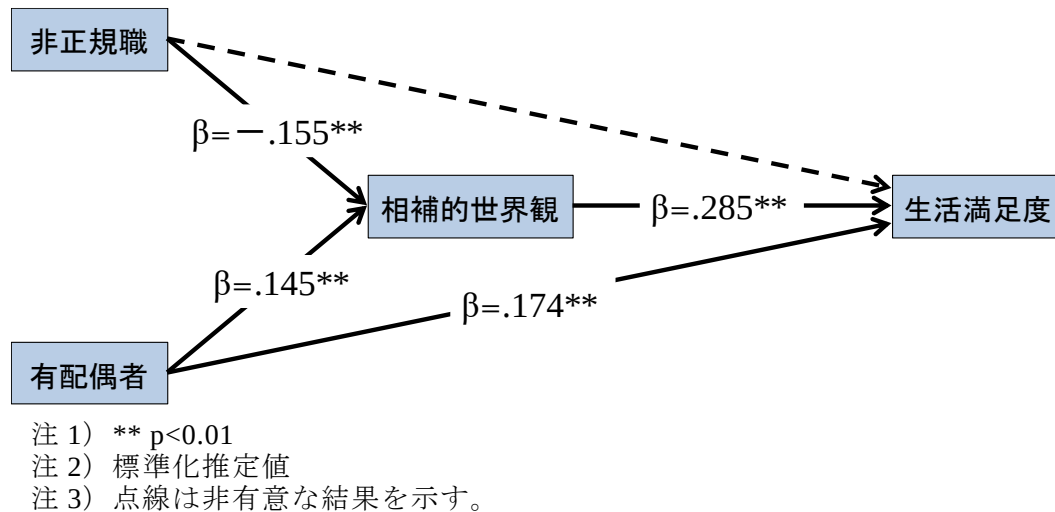


図 5 パス解析の結果（生活満足度）

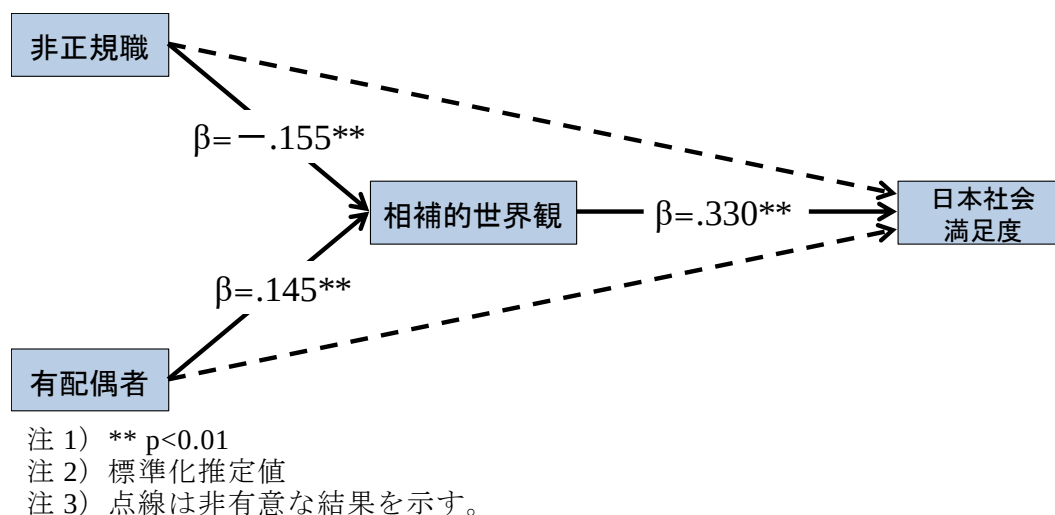


図 6 パス解析の結果（日本社会満足度）

有意であった（ $.145 \times .285 = .041^{**}$ ）。すなわち、配偶者のいること自体によって生活満足度が高くなると同時に、相補的世界観を通して生活満足度を高めていることがわかる。

続いて、日本社会満足度についてのパス解析の結果を確認する（図 4）。

非正規職からのパスをみると、まず日本社会満足度への直接のパスは有意でないことがわかる。その一方で非正規職であることが相補的世界観を低め、低い相補的世界観を持つことで日本社会満足度を低めていることがわかる。このような相補的世界観を媒介とした間接効果を検定した結果、1%水準で有意であった（ $-.155 \times .330 = -.051^{**}$ ）。

有配偶者からのパスをみると、こちらも日本社会満足度への直接のパスは有意でないことがわかる。その一方で配偶者のいることが相補的世界観を高め、高い相補的世界観を持つことで日本社会満足度を高めていることがわかる。このような相補的世界観を媒介とした間接効果を検定した結果、1%水準で有意であった（ $.145 \times .330 = .048^{**}$ ）。

以上の結果から、相補的世界観は「標準的な」ライフコースと各満足度をつなげていることがわかる。

4. 考察

4-1 現状を肯定する若年層とはだれか

分析の結果をまとめると次のようになる。

- ①非正規職と比べて正規職の若年層ほど、配偶者のいない若年層と比べて配偶者のいる若年層ほど強い相補的世界観を持っている。
- ②強い相補的世界観を持っている若年層ほど、生活満足度、日本社会満足度が高い。
- ③正規職に就いている若年層と結婚している若年層は強い相補的世界観を持つことによって生活満足度と日本社会満足度を高めている。

これらの結果からは、若年層が現状を肯定する背後には相補的世界観が存在することがわかる。「世の中はバランスがとれている」「良いことが起これば悪いことも起こる」と思うことで、自らや社会の現状について、悪い点があったとしても目をつぶることができるのだろう。

しかし、相補的世界観は若年層が一様に持っているものではない。非正規職と比べて正規職の若年層ほど、配偶者のいない若年層と比べて配偶者のいる若年層ほど強い相補的世界観を持っている。すなわち、「標準的な」ライフコースを歩む若年層が、「世の中はバランスがとれている」「良いことが起これば悪いことも起こる」と思うことができている。そしてそのことが、「標準的な」ライフコースを歩む若年層が現状に満足することにつながっている。これが、現状を肯定する若年層の正体ということができよう。裏を返せば、「標準的な」ライフコースを歩めないことで、相補的世界観を持つことができずに自身の生活や社会に対する満足度を下げている若年層もいるということが出来る。現在の若年層には、そのような格差が存在しているといえる。

4-2 壮中年層との比較

それでは、本稿で得られた結果は、若年層についてだけみられるものなのだろうか。40～64歳の人々を壮中年層と定義し、若年層と同様の分析を行った。

まず、相補的世界観を従属変数とした OLS 重回帰分析の結果が表 5 である⁵⁾。調整済み決定係数 R^2 の値は.028 (1%水準で有意) となっており、若年層の結果よりも小さい。また、非正規職に有意な結果がでておらず、有配偶者については 5%水準で有意な結果となっているが、偏回帰係数の値はそれほど大きくはない ($B=.126^*$)。

次に、生活満足度と日本社会満足度を従属変数とした OLS 重回帰分析の結果をみると (表 6)、調整済み決定係数 R^2 の値は生活満足度で.230 (1%水準で有意)、日本社会満足度で.160 (1%水準で有意) となっており、若年層の結果と大差はない。また、相補的世

表 5 相補的世界観の規定要因（壮中年層）

	B	SE	β
定数	3.943 **	.517	
性別（ref: 男性）	.252 *	.111	.073
年齢	.002	.007	.009
教育年数	.077 **	.022	.098
正規職（ref）			
非正規職	-.065	.127	-.016
無職	-.131	.147	-.031
世帯収入（対数変換）	.126 *	.050	.079
有配偶者	.285 **	.109	.076
調整済みR ²	.028**		
n	1,371		

注1) B: 偏回帰係数 SE: 標準誤差 β: 標準化偏回帰係数

注2) * p<0.05, ** p<0.01

表 6 生活満足度、日本社会満足度の規定要因（壮中年層）

	生活満足度			日本社会満足度		
	B	SE	β	B	SE	β
定数	-.901 **	.313		-.433	.289	
性別（ref: 男性）	.220 **	.066	.095	-.001	.061	-.001
年齢	.012 **	.004	.075	.009 *	.004	.064
教育年数	.053 **	.013	.102	.051 **	.012	.111
正規職（ref）						
非正規職	-.138	.075	-.052	-.054	.069	-.023
無職	.010	.087	.003	.036	.080	.014
世帯収入（対数変換）	.164 **	.030	.155	.071 *	.027	.076
有配偶者	.460 **	.065	.184	.067	.060	.030
相補的社会観	.198 **	.016	.298	.202 **	.015	.344
調整済みR ²	.230**			.160**		
n	1,371					

注1) B: 偏回帰係数 SE: 標準誤差 β: 標準化偏回帰係数

注2) * p<0.05, ** p<0.01

観がそれぞれの満足度に与える影響も、若年層と同じく有意に存在している。

これらの結果からは、相補的世界観が満足度に与える影響は年齢にかかわらず存在するが、「標準的な」ライフコースを歩む人ほど強い相補的世界観を持っているという関連については若年層においてよりはっきりとみられるということがわかる。それだけ、若年層

の中にあるライフコースの格差が大きいということが示唆される。もちろん、この結果はあくまで1時点での結果であり、昔の若年層でも同様の結果が得られたのか、今の若年層特有の結果なのかは本稿の分析から断言することはできない。しかしながら、90年代後半以降に生じたライフコースの変化は、「標準的な」ライフコースを「歩めない」若年層の増加として議論されている。もしそうであるならば、不本意に「標準的な」ライフコースを歩めなかった若年層が「世の中はバランスがとれていない」と感じ、それでも「標準的な」ライフコースを歩めている若年層が「世の中はバランスがとれている」と感じて不思議ではない。したがって、現在の若年層に特有の結果である可能性は高いと考えられる。いずれにせよ、現在の若年層の中に相補的に世の中を認識できる人とそうでない人が存在し、それが「標準的な」ライフコースを歩む若年層の満足度が高い理由となっていることは事実である。このような「標準的な」ライフコースを歩む若年層が現状を肯定するメカニズムの一端を明らかにしたことに本稿の意義があるだろう。

付記

本稿は、2019年度南山大学パツヘ奨励金I-A-2の助成を受けたものです。

注釈

- 1) 就業状態の観点から「標準的な」ライフコースを歩んでいない若年層を考えるときには、非正規職の若年層だけではなく、無業の若年層に注目することも重要である。しかしながら、就職活動中の若年層や専業主婦／主夫など、無業者の内実は多様であり1つのカテゴリとして扱うのは難しい。本稿の分析では1つのカテゴリとしてモデルに投入するが、積極的に解釈することは避ける。若年無業者の問題については今後の課題としたい。
- 2) 「正規職」には「経営・管理」「正規雇用」「自営業」が含まれる。若年層では、「経営・管理」「自営業」の人数が少なかったため1つのカテゴリに集約した。
- 3) OLS重回帰分析に使用したソフトウェアはIBM SPSS Statistics 25である。重回帰分析の結果は最小二乗法で推定した。またパス解析はM-plus8を使用し、最尤法で結果を推定した。
- 4) 間接効果の検定はブートストラップ法（ブートストラップ標本数2000）によって行われた。以下の分析も同様である。
- 5) 壮中年層では学生が含まれていなかったため、分析から学生を除いている。

文献

藤田孝典，2016，『貧困世代——社会の監獄に閉じ込められた若者たち』講談社。
古市憲寿，2011，『絶望の国の幸福な若者たち』講談社。

- 狭間諒多朗, 2018, 「若者の地位アイデンティティ——現在志向と宗教性の効果に注目して」
数土直紀編『格差社会のなかの自己イメージ』勁草書房, 46-64.
- , 2019, 「現在志向から捉える現代の若者——学歴による現在志向の違いと若者の
おとなしさに注目して」吉川徹・狭間諒多朗編『分断社会と若者の今』大阪大学出版
会, 27-56.
- 本田由紀, 2010, 「若者にとって働くことはいかなる意味をもっているのか——『能力発揮』
という呪縛」小谷敏・土井隆義・芳賀学・浅野智彦編『若者の現在 労働』日本図書セ
ンター, 25-51.
- 池上知子, 2012, 『格差と序列の心理学——平等主義のパラドクス』ミネルヴァ書房.
- Jost, J. T., Liviatan, I., Van der Toom, J., Ledgerwood, A., Mandisozza, A. and Nosek, B., 2010,
“System justification: How do we know it’s motivated?” D. R. Bobocel, A. C. Kay, M. P.
Zanna and J. M. Olson eds., *The psychology of justice and legitimacy: The Ontario
symposium*, 11: Hillsdale, NJ: Erlbaum, 173-203.
- Kay, A. C. and Jost, J. T., 2003, “Complementary Justice: Effects of “Poor but Happy” and “Poor
but Honest”: Stereotype Exemplars on System Justification and Implicit Activation of the
Justice Motive,” *Journal of Personality and Social Psychology*, 85(5), 823–837.
- 吉川徹・狭間諒多朗編, 2019, 『分断社会と若者の今』大阪大学出版会.
- 小林大祐, 2008, 「階層帰属意識に対する従業上の地位の効果について」轟亮編『階層意識
の現在』2005年SSM調査研究会, 53-66.
- 鈴木宗徳, 2015, 「ベック理論とゼロ年代の社会変動」鈴木宗徳編『個人化するリスクと社
会——ベック理論と現代日本』勁草書房, 1-24.
- 脇田彩, 2014, 「生活満足度と婚姻状態・修行状況との関連における男女差」『東京大学社
会科学研究所 パネル調査プロジェクトディスカッションペーパーシリーズ』78.

社会的支配志向性の基礎分析

—権威主義と比較して—

齋藤 僚介

(大阪大学／日本学術振興会)

1. はじめに

本稿の目的は、社会的支配志向性 (Social Dominance Orientation: SDO) ¹⁾ (Pratto et al.1994) を計量社会意識論 (吉川 2014) の枠組から検討することである。社会的支配志向性は、主に社会心理学の分野で多くの検討例がある (Pratto et al. 2006 参照)。一方、社会学においては、あまり検討されてこなかった。特に日本の社会学における研究例は管見の限り見当たらない。このことが意味するのは、日本の社会学あるいは社会意識論が重視してきた社会属性と意識の関係が明らかにされてこなかったことである ²⁾。

社会的支配志向性とは、集団間の支配—被支配関係、集団の優劣による序列関係、不平等関係を好むような意識である (Pratto et al.1994)。保守主義を、(1) 既存秩序の維持と (2) 不平等の是認という二つの側面から定義する (Jost et al. 2003) ならば、(2) に該当する保守主義であると位置づけられる。(1) に該当すると考えられるのが、長年社会学、社会意識論において検討されてきた「権威主義」などである。その一方で、近年 SSM 調査や SSP 調査でも検討された「ネオリベリズム」は、(2) として位置づけられよう。以上のように社会的支配志向性は、社会学や社会意識論が捉えようと試みてきた保守主義や社会意識の中で位置づけることができる。

社会的支配志向性は、社会学においては以下のような重要性を持つといえる。第一に、社会的な集団間不平等や差別の是認を予測することである。たとえば、高 (2016) は、社会的支配志向性はレイシズムを予測することを明らかにした。すなわち、社会的支配志向性は、差別的意識を予測する。第二に、ネオリベリズム的意識ではとらえられない次元を捉えていることである。ネオリベリズム的意識は、主に個人間の不平等を好む意識であるととらえることができるが、社会的支配志向性は集団間の不平等を好む意識である。言い換えれば、ネオリベリズム的意識では集団間 (たとえば男女間、世代間やエスニシティ間) 不平等を好む意識をとらえることには十分ではない一方で、社会的支配志向性はその不平等を好む意識をとらえることができると考えられる。

2. データ・変数・方法

そこで、SSP-W2018 では、社会的支配志向性を検討するため全 16 項目中 9 項目を質問紙に加え回答を得た。対応表は表 1 である ³⁾。それぞれ五件尺度で回答されている。それ

表 1 質問票の対応表

	Pratto et al. (1994)	本調査で用いた項目の和訳
1	Some groups of people are simply inferior to other groups.	(未使用)
2	In getting what you want, it is sometimes necessary to use force against other groups.	欲しいものを手に入れるためには、ほかの集団から力づくで手に入れなければならないときもある
3	It's OK if some groups have more of a chance in life than others.	人生において、ある集団がほかの集団よりもチャンスに恵まれていたとしてもかまわない
4	To get ahead in life, it is sometimes necessary to step on other groups.	成功するためには、ほかの集団を踏み台にしなければならないときもある
5	If certain groups stayed in their place, we would have fewer problems.	(未使用)
6	It's probably a good thing that certain groups are at the top and other groups are at the bottom.	一部の集団が高い地位にあり、別の集団が低い地位にあるのは、良いことだろう
7	Inferior groups should stay in their place.	(未使用)
8	Sometimes other groups must be kept in their place.	集団が、それぞれの立場に留まらなければならないときがある
9	It would be good if groups could be equal.	(未使用)
10	Group equality should be our ideal.	(未使用)
11	All groups should be given an equal chance in life.	どんな集団も、平等にチャンスを与えられるべきだ
12	We should do what we can to equalize conditions for different groups.	いろいろな集団が平等になるように、わたしたちではできる限りのことをすべきだ
13	Increased social equality.	(未使用)
14	We would have fewer problems if we treated people more equally.	人々をより平等に扱えば、私たちの抱える問題はより少なくなる
15	We should strive to make incomes as equal as possible.	(未使用)
16	No one group should dominate in society.	いかなる集団も、社会を支配してはならない

表 2 度数分布表

N=2898	弱<-----SDO----->強																平均値	歪度		
	1		2		3		4		5		欠損									
	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%	N	%						
質問2	96	3.3	%	317	10.9	%	884	30.5	%	665	22.9	%	854	29.5	%	82	2.8	%	2.338	0.364
質問3	374	12.9	%	468	16.1	%	1334	46.0	%	503	17.4	%	92	3.2	%	127	4.4	%	2.809	-0.234
質問4	513	17.7	%	578	19.9	%	1105	38.1	%	528	18.2	%	97	3.3	%	77	2.7	%	2.687	-0.064
質問6	665	22.9	%	654	22.6	%	1165	40.2	%	221	7.6	%	44	1.5	%	149	5.1	%	2.391	0.052
質問8	102	3.5	%	202	7.0	%	1321	45.6	%	884	30.5	%	224	7.7	%	165	5.7	%	3.339	-0.309
質問11 (R)	627	21.6	%	1236	42.7	%	811	28.0	%	137	4.7	%	62	2.1	%	25	0.9	%	2.224	0.597
質問12 (R)	304	10.5	%	940	32.4	%	1196	41.3	%	263	9.1	%	133	4.6	%	62	2.1	%	2.641	0.354
質問14 (R)	307	10.6	%	954	32.9	%	1144	39.5	%	280	9.7	%	166	5.7	%	47	1.6	%	2.665	0.405
質問16 (R)	757	26.1	%	1037	35.8	%	732	25.3	%	169	5.8	%	112	3.9	%	91	3.1	%	2.231	0.708

それぞれの度数分布表は表 2 である。度数分布表をみれば、おおむね中間回答が多く、極端な解答が少ない傾向がある。しかしながら、社会的支配志向性が弱い方に偏っていることも指摘できよう。この全体的傾向から、集団間不平等はあまり肯定されないという傾向が読み取れる⁴⁾。以上を単純加算し、平均値をとったものを本稿では「社会的支配志向性」の指標として用いる⁵⁾。

本稿では、この社会的支配志向性を伝統的に社会学において保守主義の指標として用いられてきた権威主義と比較することによって、社会的支配志向性の特徴を明らかにすることを試みる。具体的には、第一に、分散分析を用いることによって、性別、職業のカテゴリ間の 2 つの保守主義意識の差異を分析する。第二に相関分析を用いることによって、2 つの保守主義意識と年齢、教育年数、世帯収入との相関係数を確認する。第三に、社会意識論型回帰モデル（吉川 2014）を用いることによって、それらの社会属性との関連を明らかにする。

3. 分析

第一に、分散分析の結果（表 4 図 1）から、社会的支配志向性は、男女間で統計的に有意な差異がある。これは、既存研究（たとえば、Pratto et al.1994; 高 2016 など）と同様の知見であり、男性の方が、社会的支配志向性が強いことが、年齢層を広げた全国データでも確認されたといえるだろう。また、その差異は、権威主義では見られなかった。一方、職業階層では、社会的支配志向性について有意な F 値であったが、多重比較の結果から有意な差異があるペアは存在しなかった。権威主義については、F 値も有意な値を示していなかった。

第二に、相関分析の結果（表 5）から、社会的支配志向性と権威主義は、正の比較的大きな相関を示している。集団間の不平等を好む意識が権威を重視する意識と正の相関を示すことは、想定通りの結果であるといえよう。また、権威主義と社会的支配志向性が保守主義として位置づけられることに対して、統計的にも正当性を主張できるのではないら

表 3 記述統計

	N	min	max	mean	S.D.
性別	1871	-	-	-	-
男性	1049	-	-	0.561	-
女性	822	-	-	0.439	-
年齢	1871	20	64	43.340	11.896
教育年数	1871	9	21	14.344	2.169
職業	1871	-	-	-	-
上層ホワイト	550	-	-	0.294	-
下層ホワイト	424	-	-	0.227	-
自営	88	-	-	0.047	-
熟練ブルー	126	-	-	0.067	-
非熟練ブルー	254	-	-	0.136	-
農業	12	-	-	0.006	-
無職	417	-	-	0.223	-
世帯収入（対数変換）	1871	0	8.52	6.089	1.107
社会的支配志向性	1871	1	5	2.606	0.518
権威主義	1871	1	5	2.496	0.738

表 4 分散分析

性別		平方和	自由度	平均平方	F 値
社会的支配志向性	グループ間	13.632	1	13.632	52.251 ***
	グループ内	487.617	1869	0.261	
	合計	501.249	1870		
権威主義	グループ間	1.847	1	1.847	3.393
	グループ内	1017.252	1869	0.544	
	合計	1019.099	1870		

職業（EGP6）		平方和	自由度	平均平方	F 値
社会的支配志向性	グループ間	5.451	6	0.908	3.416 **
	グループ内	495.798	1864	0.266	
	合計	501.249	1870		
権威主義	グループ間	5.177	6	0.863	1.586
	グループ内	1013.921	1864	0.544	
	合計	1019.099	1870		

*p<.05, **p<.01, ***p<.001

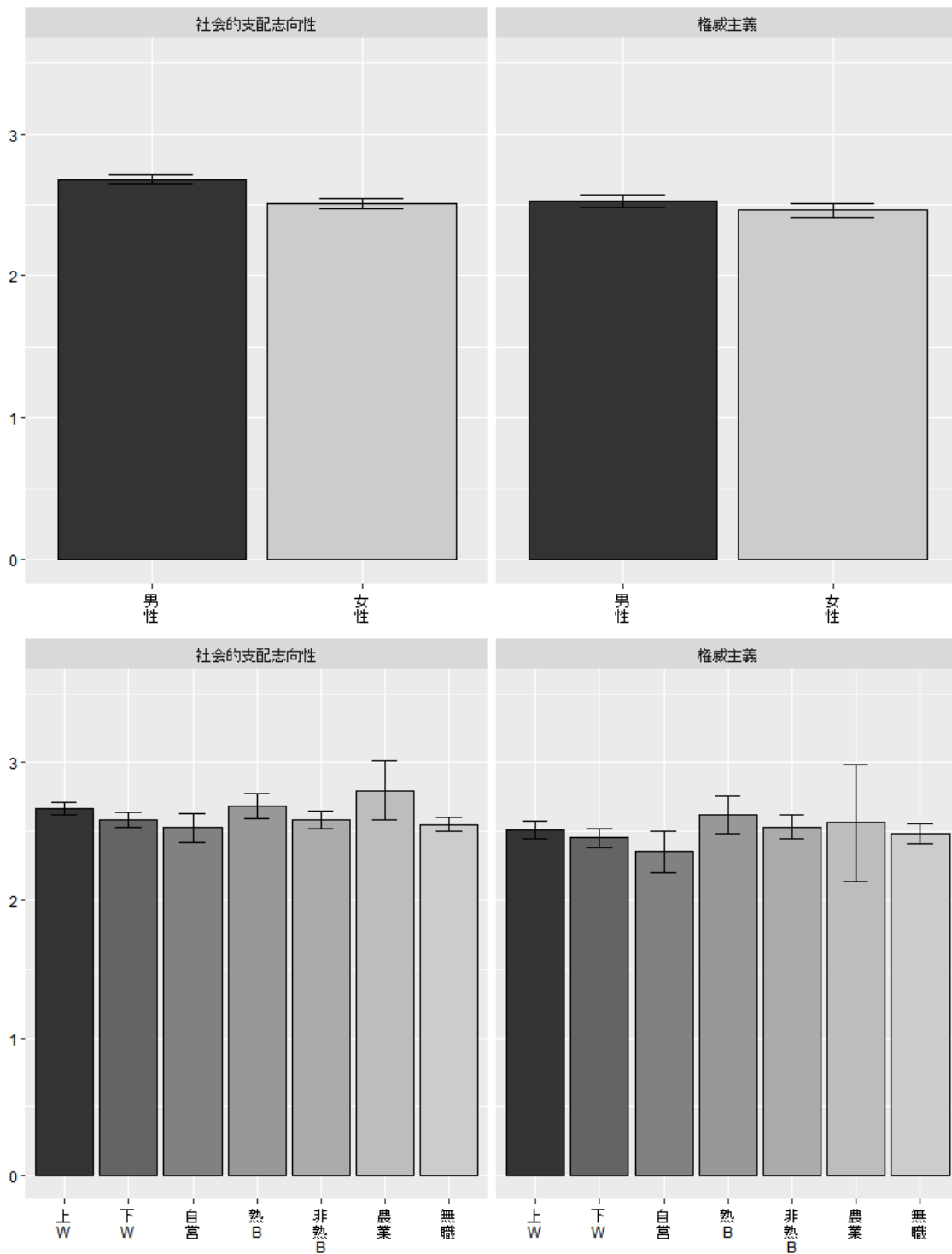


図1 分散分析 (95%信頼区間)

うか。年齢との相関に関して、どちらの意識も負の相関があることが示された。近年、若者の保守化が様々に検討されているが、本稿の分析からは少なくとも現状若いほど保守的であるといえる⁶⁾。教育年数に関して、社会的支配志向性との正の相関が確認された。従来、教育程度が低いほど保守的であるとされてきた一方で、例外として、ネオリベリズムや格差肯定意識は、教育程度が高いほど高いことが示されている（吉川 2014）。このこ

表 5 相関分析

	社会的支配志向性	権威主義
社会的支配志向性	-	0.367 ***
年齢	-0.177 ***	-0.115 ***
教育年数	0.078 **	-0.012
世帯収入(対数変換)	0.006	0.006

*p<.05,**p<.01,***p<.001

表 6 重回帰分析

	社会的支配志向性		権威主義	
N=1871	<i>coef</i>	<i>S.E.</i>	<i>coef</i>	<i>S.E.</i>
定数	2.785 ***	0.118	2.863 ***	0.173
男性	0.155 ***	0.026	0.057	0.037
年齢	-0.008 ***	0.001	-0.007 ***	0.001
教育年数	0.008	0.006	-0.009	0.008
上層ホワイト	ref			
下層ホワイト	-0.045	0.034	-0.067	0.050
自営	-0.110	0.058	-0.157	0.085
熟練ブルー	0.007	0.051	0.077	0.074
非熟練ブルー	-0.053	0.040	0.005	0.058
農業	0.155	0.147	0.043	0.215
無職	-0.059	0.037	-0.021	0.054
世帯収入（対数変換）	-0.001	0.011	0.014	0.017
調整済みR ²	0.061		0.015	

*p<.05,**p<.01,***p<.001

とから、不平等を是認する意識としての保守主義に関しては教育程度が高いほど高く、既存秩序を維持しようとする意識としての保守主義に関しては教育程度が高いほど低いことが示唆される。

第三に、社会的支配志向性について、社会意識論型回帰モデルを用いれば、有意な効果があったのは性別と年齢である。すなわち、男性であるほど、年齢が若いほど、社会的支配志向性が強い。一方で、社会的支配志向性に対して、教育年数の効果は有意ではなかった。すなわち、その他の社会属性を統制すれば、教育年数は有意な関係がみられないことが明らかになった。教育年数の効果は、年齢が低く、男性であるほど高学歴であることによって、有意な効果が見られないと考えられる。一方、権威主義について、年齢の負の効果があった。すなわち、年齢が若いほど、権威主義が強い。

4. 考察

本稿の目的は、計量社会意識論の枠組から社会的支配志向性を検討することであった。計量社会意識論で重視されるのは、社会属性と社会意識の関係性の強さである。その点、社会的支配志向性の方が、権威主義よりも関係性が強いといえる（決定係数の高さ）。ただし、社会的支配志向性に対して、有意な効果を持っているのは年齢と性別である。教育年数や職業、収入といった社会階層は、有意な効果を持っていなかった。したがって、社会的支配志向性は、階層意識としての有効性を主張することは難しいかもしれない。しかしながら、社会的支配志向性に限らず、その他の社会意識に関しても、社会属性との関連が弱まっていることが示されており（吉川 2014）、社会的支配志向性のみに指摘される傾向とは言えない。

また、若い方が、社会的支配志向性を持つことは重要な意味を持つ。現状日本では、若者がさまざまな不利益を被っていると考えられているが（吉川・狭間 2019）、それを若者自身が是認している可能性がある。すなわち、壮年層（支配層）と若年層（被支配層）という対立構造を想定するならば、そのことを被支配層自身が認めてしまっている可能性がある。以上のことがなぜ起こっているのか、いかなる社会的インパクトを持つのかは、今後明らかにされていく必要があるが、社会学にとって重要な社会意識となる可能性はあると考えられる。

付記

本稿は、JSPS 科研費 19J20186 の助成を受けたものである。

注釈

- 1) “Social Dominance Orientation” の和訳は、杉浦ほか（2014）を参考に「社会的支配志向性」とした。
- 2) ただし、海外の研究では、基本的には社会的ステイタスが高いほど、社会的支配志向性が高いことが明らかにされている（Sidanius et al.2000）。
- 3) 和訳は高（2016）を参考に、修正を加えた。
- 4) ただし、この傾向は国際比較を通じた検討がなされなければ、他国に比べ日本がどのような特徴を持っているのかは明らかではない。
- 5) 因子分析を用いた場合、反転項目とそうでない項目の 2 因子モデルが採択されるが、その 2 因子に実質的な意味があると判断することは難しいため、平均値を尺度として用いた。
- 6) ただし、「保守化」といえるかどうかは、他の分析枠組みを必要とする。したがって、本稿の分析から、それを明らかにすることはできない。

文献

- Jost, John T., Glaser, Jack, Kruglanski, Arie W. and Sulloway, Frank J., 2003, “Political Conservatism as Motivated Social Cognition,” *Psychological Bulletin*, 129(3): 339-375.
- 吉川徹, 2014, 『現代日本の「社会の心」——計量社会意識論』有斐閣.
- 吉川徹・狭間諒多朗編, 2019, 『分断社会と若者の今』大阪大学出版.
- Pratto, Felicia, Sidanius, James, Stallworth, Lisa M. and Malle, Bertram F., 1994 “Social Dominance Orientation: A Personality Variable Predicting Social and Political Attitudes,” *Journal of Personality and Social Psychology*, 67(4): 741-763.
- Pratto, Felicia, Sidanius, Jim and Levin, Shana, 2006, “Social dominance theory and the dynamics of intergroup relations: Taking stock and looking forward,” *European Review of Social Psychology*, 17(1): 271-320.
- Sidanius, Jim, Levin, Shana, Liu, James and Pratto, Felicia, 2000, “Social Dominance Orientation, anti-egalitarianism and the political psychology of gender: an extension and cross-cultural replication,” *European Journal of Social Psychology*, 30: 41-67.
- 杉浦仁美・坂田桐子・清水裕士, 2014, 「集団と個人の地位が社会的支配志向性に及ぼす影響」, 『社会心理学研究』, 30(2): 75-85.
- 高史明, 2016, 『レイシズムを解剖する——在日コリアンへの偏見とインターネット』勁草書房.

福祉意識の時点間比較とその基礎的分析

—SPSC2000 との比較を通じて—

崔 煌
(大阪大学)

1. はじめに

本稿の目的は SPSC2000 と SSPW-2018 の項目である「福祉国家を支える価値意識」(福祉意識)の2時点比較を行い、約20年の間における日本国民の福祉意識の変容を確認すること、その後、福祉意識の規定要因を確認し、福祉意識項目の特性を把握することである。

現代日本社会は少子高齢化が進んでおり、高齢化率が高まりつつある(内閣府 2017)。それとともに公的年金の受給者の数が年々増加の傾向にある(厚生労働省 2012)。そういった人口学的な変化は、日本の社会保障のあり方をめぐる議論を触発させている。一方、社会保障のあるべき姿を問う議論とは別に日本国民がどのような社会保障を望ましいと考えているのかを究明しようとする研究もなされた。例えば、武川正吾による「福祉と生活に関する意識調査」(略称 SPSC 調査)がそれである。武川(2006)は再分配の規模、再分配の方法(1)、再分配の方法(2)、再分配の回路、世代間関係、再分配の権利性の六つの項目を設定し、日本国民がもつ福祉意識の姿を描き出そうとした。しかし、継続調査は SPSC2002 の調査を最後になされておらず、調査時点より高齢化が進んだ現在(2018年)において、日本国民の福祉意識はどのようなであり、20年前と比べ、福祉意識における変化が発生したかは不明なまま残されている。そこで、SSPW-2018 調査では、より高齢化率と社会保障費用が高まった現在における日本国民の福祉意識の姿を描き出すため、武川が設定した6つの項目の中、再分配の規模、再分配の方法(1)、再分配の方法(2)、世代間関係の4つを質問項目として選び、SSP-W2018 の項目として投入した。本稿の1つ目の分析ではその2つのデータから現在の日本国民がもつ福祉意識を把握し、2000年の結果と比較しながら、福祉意識における変容の有無を確認する。その後、福祉意識項目の理解を深めるため、簡単な OLS 重回帰分析を行い、福祉意識の規定要因を確認する。

2. 方法

2-1 データと変数

本稿で使用するデータは「2018 年暮らしと社会意識についての Web 調査」(以下、SSP-W2018)である。

福祉意識については、以下4つの項目を使用する。

再分配の規模	高福祉 vs. 低負担
再分配の方法 (1)	必要 vs. 貢献
再分配の方法 (2)	選別 vs. 普遍
世代間関係	世代間の連帯 vs. 世代間の公平

これら 4 つの項目は、社会保障の各論点について対立する意見 A と B を提示し、どちらの意見に近いかを尋ねたものである。「再分配の規模 高福祉 vs. 低負担」の対立意見は A の「税金や社会保障料などを引き上げても、国や自治体は社会保障を充実すべきだ」（高福祉）と B の「社会保障の水準がよくななくとも、国や自治体は、税金や社会保険料を引き下げるべきだ」（低負担）である。「再分配の方法 (1) 必要 vs. 貢献」の対立意見は A の「社会保障の給付は、保険料などの支払とは無関係に、それが必要となる度合いに応じて受け取れるようにすべきだ」（必要）と B の「社会保障の給付は、保険料などの支払の実績に応じて、受け取れるようにすべきだ」（貢献）である。「再分配 (2) 選別 vs. 普遍」の対立意見は A の「社会保障の給付は、所得や財産などの多い人には制限すべきだ」（選別）と B の「社会保障の給付は、所得や財産に関係なく資格のある人すべてが受け取れるようにすべきだ」（普遍）である。「世代間関係 世代間の連帯 vs. 世代間の公平」の対立意見は A の「公的年金は世代間の助け合いなのだから、受け取る年金額が払った保険料に見合わなくてもやむをえない」（世代間の連帯）と B の「公的年金であっても、損をする世代が出ないように、払った保険料に見合った年金が受け取れるようにすべきだ」（世代間の公平）である。それぞれの項目に対して「A に近い」「どちらかといえば A に近い」「どちらかといえば B に近い」「B に近い」「わからない」¹⁾の 5 つの選択肢から回答を選択する形になっている。

また、OLS 重回帰分析を行う際には、独立変数として、年齢、性別（男性＝0、女性＝1）、教育年数、職業（上層ホワイトを基準カテゴリとした、EGP6 分類+学生・無職の 7 種類）、世帯収入を使用する。

2-2 分析方法

はじめに、武川編（2006）に掲載されている SPSC2000 の単純集計表から 4 つの福祉意識の回答分布を取り出し、SSP-W2018 の回答分布を比較する。これにより、福祉意識の変化を確認する。

次に、OLS 重回帰分析を用いる。4 つの福祉意識を従属変数とした重回帰分析を行う。福祉意識項目の「わからない」を除いた新しい従属変数を作成し、分析に用いる。「A に近い」＝1～「B に近い」＝4 と値を与え、数値が大きいほど B の意見に近いことを表すようにしている。分析の後、年齢、性別、教育年数、職業、世帯収入がどれほど従属変数に影響を与えるのかを確認する。

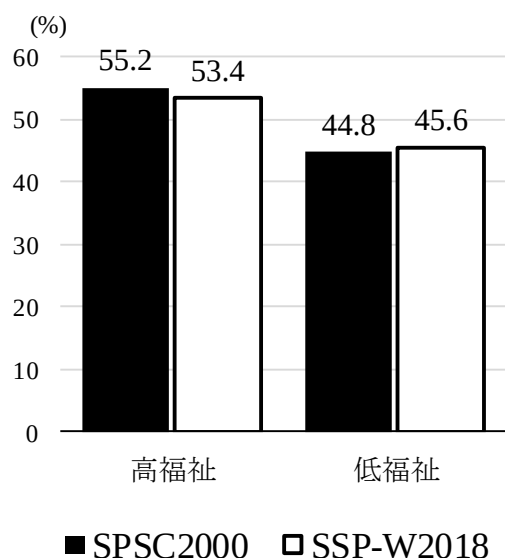


図 1 再分配の規模の回答分布

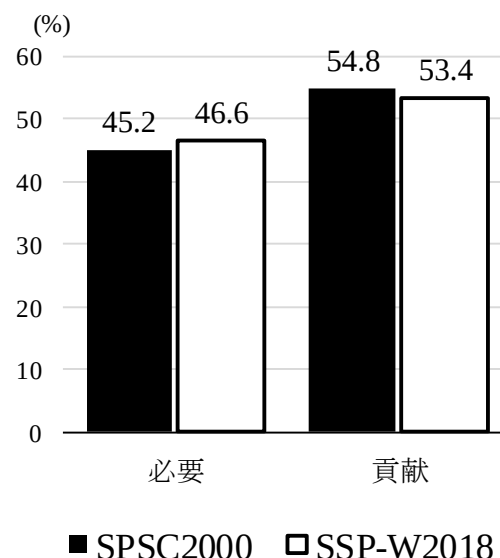


図 2 再分配の方法（1）の回答分布

3. 結果

3-1 SPSC2000 との比較結果

まず、福祉意識項目に対する SPSC2000 と SSP-W2018 の比較を行う（図 1～図 4）。SSP-W2018 の調査対象者の人数は 2898 人であり、SPSC2000 の調査対象者の人数は 3991 人であるが、図 1～図 4 では、それぞれの項目について無回答と「わからない」と回答した人を除いた数値を示している。

図 1 は「再分配の規模 高福祉 vs. 低負担」の項目の回答分布を表したものである。「税金や社会保障料などを引き上げても、国や自治体は社会保障を充実すべきだ」（高福祉）の項目を選んだ割合は、SPSC2000 が 55.2%（2183 人）で、SSP-W2018 が 53.4%（1439 人）であった。一方、「社会保障の水準がよくななくとも、国や自治体は、税金や社会保険料を引き下げるべきだ」（低福祉）の項目を選んだ割合は SPSC 2000 が 44.8%（1770 人）、SSP-W2018 が 45.6%（1207 人）であった。

図 2 は「再分配の方法（1） 必要 vs. 貢献」の項目の回答分布を表したものである。「社会保障の給付は、保険料などの支払とは無関係に、それが必要となる度合いに応じて受け取れるようにすべきだ」（必要）の項目を選んだ割合は、SPSC2000 が 45.2%（1789 人）で、SSP-W 2018 が 46.6%（1225 人）であった。一方、「社会保障の給付は、保険料などの支払の実績に応じて、受け取れるようにすべきだ」（貢献）の項目を選んだ割合は SPSC2000 が 54.8%（2169 人）、SSP-W2018 が 53.4%（1406 人）であった。

図 3 は「再分配の方法（2） 選別 vs. 普遍」の項目の回答分布を表したものである。「社会保障の給付は、所得や財産などの多い人には制限すべきだ」（選別）の項目を選んだ割合は、SPSC2000 が 61.2%（2426 人）で、SSP-W2018 が 63.5%（1727 人）であった。一方、「社会保障の給付は、所得や財産に関係なく資格のある人すべてが受け取れるようにすべ

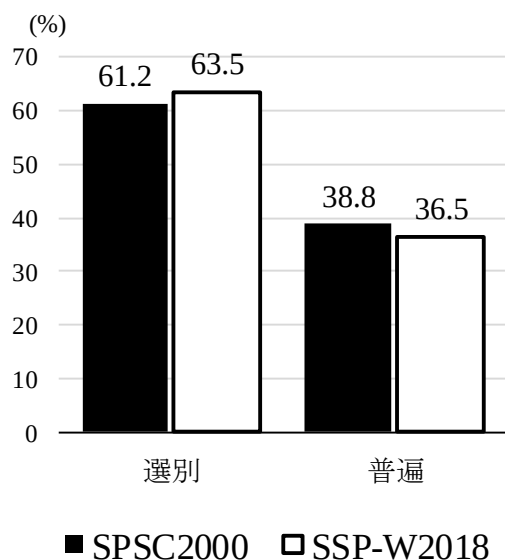


図3 再分配の方法（2）の回答分布

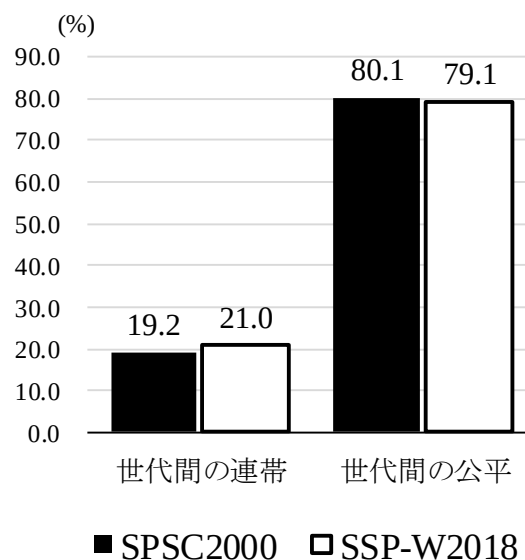


図4 世代間関係の回答分布

きだ」（普遍）の項目を選んだ割合は SPSC2000 が 38.8%（1536 人）、SSP-W2018 が 36.5%（992 人）であった。

図4は「世代間関係 世代間の連帯 vs. 世代間の公平」の項目の回答分布を表したものである。「公的年金は世代間の助け合いなのだから、受け取る年金額が払った保険料に見合わなくてもやむをえない」（世代間の連帯）の項目を選んだ割合は、SPSC 2000 が 19.2%（761 人）で、SSP-W 2018 が 21.0%（565 人）であった。一方、「公的年金であっても、損をする世代が出ないように、払った保険料に見合った年金が受け取れるようにすべきだ」（世代間の公平）の項目を選んだ割合は SPSC2000 が 80.1%（3197 人）、SSP-W2018 が 79.1%（2132 人）であった。

3-2 規定要因の確認

表1は福祉意識の OLS 重回帰分析の結果を示したものである。「再分配の規模 高福祉 vs. 低負担」の分析結果から、年齢が 0.1%の水準で有意であり、教育年数と世帯収入は 1%の水準で有意であることが分かった。そこから、年齢が高く（-0.01）、教育年数が短く（-0.05）、世帯収入が低いほど（-0.01）、高福祉志向であることが分かる。「再分配の方法（1） 選別 vs. 普遍」の分析結果から、年齢が 1%の水準で有意であり、世帯収入が 0.1%の水準で有意であることが分かった。そこから、年齢が低く（-0.01）、世帯収入が高いほど（0.02）、普遍志向であることが分かる。「再分配の方法（2） 必要 vs. 貢献」の分析結果から、世帯収入が 0.1%の水準で有意であることが分かった。そこから、世帯収入が高いほど（0.03）、貢献志向であることが分かる。「世代間関係 世代間の連帯 vs. 世代間の公平」²⁾の分析結果から、性別が 0.1%の水準で有意であることが分かった。そこから、女性であるほど（0.18）、世代間の公平志向であることが分かる。

表 1 福祉意識の規定要因

	高福祉 vs. 低負担		選別 vs. 普遍		必要 vs. 貢献		連帯 vs. 公平	
	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.	B	S.E.
切片	3.2	0.13 ***	2.21	0.14 ***	2.35	0.14 ***	3.12	0.13 ***
性別 (ref : 男性)	-0.03	0.05	0	0.05	-0.04	0.05	0.18	0.04 ***
年齢	-0.01	0 ***	-0.01	0 **	0	0	0	0
教育年数	-0.05	0.02 **	0.01	0.02	0	0.02	-0.01	0.01
上層ホワイト (ref.)								
下層ホワイト	0.05	0.06	-0.06	0.07	-0.02	0.06	-0.01	0.06
自営	-0.08	0.11	0.07	0.11	-0.1	0.11	-0.04	0.1
熟練ブルー	-0.02	0.09	0.01	0.1	-0.11	0.09	0.02	0.08
非熟練ブルー	0.04	0.07	-0.11	0.08	-0.09	0.07	0.06	0.07
農業	-0.37	0.27	-0.11	0.29	-0.43	0.28	-0.03	0.27
無職	-0.12	0.06	0.08	0.07	-0.13	0.07	-0.01	0.06
世帯収入	-0.01	0 **	0.02	0 ***	0.03	0 ***	0.01	0
Adjusted R ²		0.02		0.01		0.03		0.01
N		2048		2110		2049		2099

注1) *p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001

注2) 小数点第2位まで表示

4. 考察

本稿の分析結果から明らかになったことは以下の通りである。まず、現在（2018 年）の日本国民がもつ福祉意識は 2000 年のそれと大きく変わらないことである。欠損値とわからないの回答を除き、SPSC2000 と SSP-W2018 における 4 つの福祉意識の回答分布を比較した結果、両調査における差は 1%ほどであること、規定要因においては福祉意識が 1 つから 3 つの社会属性との関連性を示していることが分かった。

今後の課題として、第 1 に、なぜ、日本国民がもつ福祉意識は約 20 年の間、変化しないまま維持されているかである。すでに述べた通り、社会の少子高齢化とそれに伴う社会保障額の増加は日本国民の福祉意識に変化をもたらすことを予想し、調査を行った。しかし、その結果は変化なしであり、予想とは外れていた。では、日本国民は深刻化する少子高齢化に対し、20 年前の社会保障体制で対応できると考えているのか。もしそうであるとすればなぜそう思っているのか。それが時点間比較から浮かび上がった第 1 の問いである。第 2 に、福祉意識項目において規定要因との関連が弱いことである。そのため、武川（2006 : 197）によって行われた「再分配の規模」と「再分配の方法（1）」を組み合わせたものを従属変数とした多項ロジスティック回帰分析のように本項目をより効果的に活用するための研究者の努力が求められる。最後に本研究の限界として SSP-W2018 調査は 20～64 歳を対象としたインターネット調査であり、サンプルが高階層の人に偏っていること、一方で SPSC2000 調査は 90 代の人でも対象になっており、ランダムサンプリングから対象者を選んでいるので 2 つのデータにおける厳密な比較はできないことを示しておきたい。

注釈

- 1) SPSC 調査の場合、「A に近い」「どちらかといえば A に近い」「どちらかといえば B に近い」「B に近い」の 4 つの答えに構成されており、「わからない」の回答は SPSC 調査の項目には存在しない。
- 2) 表 1 では連帯 vs. 公平と示されている。

文献

内閣府、2017、「第 1 章 高齢化の状況」『平成 30 年版高齢社会白書（概要版）』。
厚生労働省、2012、『平成 24 年度厚生年金保険・国民年金事業年報：概要』。
武川正吾、2006、「10 章 福祉国家を支える価値意識」武川正吾編、『福祉社会の価値意識——社会政策と社会意識の計量分析』東京大学出版会：185-206。

3 コード・ブック

暮らしと社会意識に関するWEB調査(2018年12月実施 SSP-W2018調査)コードブック

種別	SA	単項選択
	MA	複数選択
	NU	実数値
	FA	自由記述

変数ラベル	変数名	種別	カテゴリ数 ／桁	カテゴリ
本調査対象者	Qcomp	SA	1	男性・20-29歳・北海道
			2	男性・30-39歳・北海道
			3	男性・40-49歳・北海道
			4	男性・50-59歳・北海道
			5	男性・60-64歳・北海道
			6	男性・20-29歳・青森県
			7	男性・30-39歳・青森県
			8	男性・40-49歳・青森県
			9	男性・50-59歳・青森県
			10	男性・60-64歳・青森県
			11	男性・20-29歳・岩手県
			12	男性・30-39歳・岩手県
			13	男性・40-49歳・岩手県
			14	男性・50-59歳・岩手県
			15	男性・60-64歳・岩手県
			16	男性・20-29歳・宮城県
			17	男性・30-39歳・宮城県
			18	男性・40-49歳・宮城県
			19	男性・50-59歳・宮城県
			20	男性・60-64歳・宮城県
			21	男性・20-29歳・秋田県
			22	男性・30-39歳・秋田県
			23	男性・40-49歳・秋田県
			24	男性・50-59歳・秋田県
			25	男性・60-64歳・秋田県
			26	男性・20-29歳・山形県
			27	男性・30-39歳・山形県
			28	男性・40-49歳・山形県
			29	男性・50-59歳・山形県
			30	男性・60-64歳・山形県
			31	男性・20-29歳・福島県
			32	男性・30-39歳・福島県
			33	男性・40-49歳・福島県
			34	男性・50-59歳・福島県
			35	男性・60-64歳・福島県
			36	男性・20-29歳・茨城県
			37	男性・30-39歳・茨城県
			38	男性・40-49歳・茨城県
			39	男性・50-59歳・茨城県
			40	男性・60-64歳・茨城県
			41	男性・20-29歳・栃木県
			42	男性・30-39歳・栃木県
			43	男性・40-49歳・栃木県
			44	男性・50-59歳・栃木県
			45	男性・60-64歳・栃木県
			46	男性・20-29歳・群馬県
			47	男性・30-39歳・群馬県
			48	男性・40-49歳・群馬県
			49	男性・50-59歳・群馬県
			50	男性・60-64歳・群馬県
			51	男性・20-29歳・埼玉県
			52	男性・30-39歳・埼玉県
			53	男性・40-49歳・埼玉県
			54	男性・50-59歳・埼玉県
			55	男性・60-64歳・埼玉県
			56	男性・20-29歳・千葉県
			57	男性・30-39歳・千葉県
			58	男性・40-49歳・千葉県

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
			59	男性・50-59歳・千葉県
			60	男性・60-64歳・千葉県
			61	男性・20-29歳・東京都
			62	男性・30-39歳・東京都
			63	男性・40-49歳・東京都
			64	男性・50-59歳・東京都
			65	男性・60-64歳・東京都
			66	男性・20-29歳・神奈川県
			67	男性・30-39歳・神奈川県
			68	男性・40-49歳・神奈川県
			69	男性・50-59歳・神奈川県
			70	男性・60-64歳・神奈川県
			71	男性・20-29歳・新潟県
			72	男性・30-39歳・新潟県
			73	男性・40-49歳・新潟県
			74	男性・50-59歳・新潟県
			75	男性・60-64歳・新潟県
			76	男性・20-29歳・富山県
			77	男性・30-39歳・富山県
			78	男性・40-49歳・富山県
			79	男性・50-59歳・富山県
			80	男性・60-64歳・富山県
			81	男性・20-29歳・石川県
			82	男性・30-39歳・石川県
			83	男性・40-49歳・石川県
			84	男性・50-59歳・石川県
			85	男性・60-64歳・石川県
			86	男性・20-29歳・福井県
			87	男性・30-39歳・福井県
			88	男性・40-49歳・福井県
			89	男性・50-59歳・福井県
			90	男性・60-64歳・福井県
			91	男性・20-29歳・山梨県
			92	男性・30-39歳・山梨県
			93	男性・40-49歳・山梨県
			94	男性・50-59歳・山梨県
			95	男性・60-64歳・山梨県
			96	男性・20-29歳・長野県
			97	男性・30-39歳・長野県
			98	男性・40-49歳・長野県
			99	男性・50-59歳・長野県
			100	男性・60-64歳・長野県
			101	男性・20-29歳・岐阜県
			102	男性・30-39歳・岐阜県
			103	男性・40-49歳・岐阜県
			104	男性・50-59歳・岐阜県
			105	男性・60-64歳・岐阜県
			106	男性・20-29歳・静岡県
			107	男性・30-39歳・静岡県
			108	男性・40-49歳・静岡県
			109	男性・50-59歳・静岡県
			110	男性・60-64歳・静岡県
			111	男性・20-29歳・愛知県
			112	男性・30-39歳・愛知県
			113	男性・40-49歳・愛知県
			114	男性・50-59歳・愛知県
			115	男性・60-64歳・愛知県
			116	男性・20-29歳・三重県
			117	男性・30-39歳・三重県
			118	男性・40-49歳・三重県
			119	男性・50-59歳・三重県
			120	男性・60-64歳・三重県
			121	男性・20-29歳・滋賀県
			122	男性・30-39歳・滋賀県
			123	男性・40-49歳・滋賀県
			124	男性・50-59歳・滋賀県
			125	男性・60-64歳・滋賀県

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
			126	男性・20-29歳・京都府
			127	男性・30-39歳・京都府
			128	男性・40-49歳・京都府
			129	男性・50-59歳・京都府
			130	男性・60-64歳・京都府
			131	男性・20-29歳・大阪府
			132	男性・30-39歳・大阪府
			133	男性・40-49歳・大阪府
			134	男性・50-59歳・大阪府
			135	男性・60-64歳・大阪府
			136	男性・20-29歳・兵庫県
			137	男性・30-39歳・兵庫県
			138	男性・40-49歳・兵庫県
			139	男性・50-59歳・兵庫県
			140	男性・60-64歳・兵庫県
			141	男性・20-29歳・奈良県
			142	男性・30-39歳・奈良県
			143	男性・40-49歳・奈良県
			144	男性・50-59歳・奈良県
			145	男性・60-64歳・奈良県
			146	男性・20-29歳・和歌山県
			147	男性・30-39歳・和歌山県
			148	男性・40-49歳・和歌山県
			149	男性・50-59歳・和歌山県
			150	男性・60-64歳・和歌山県
			151	男性・20-29歳・鳥取県
			152	男性・30-39歳・鳥取県
			153	男性・40-49歳・鳥取県
			154	男性・50-59歳・鳥取県
			155	男性・60-64歳・鳥取県
			156	男性・20-29歳・島根県
			157	男性・30-39歳・島根県
			158	男性・40-49歳・島根県
			159	男性・50-59歳・島根県
			160	男性・60-64歳・島根県
			161	男性・20-29歳・岡山県
			162	男性・30-39歳・岡山県
			163	男性・40-49歳・岡山県
			164	男性・50-59歳・岡山県
			165	男性・60-64歳・岡山県
			166	男性・20-29歳・広島県
			167	男性・30-39歳・広島県
			168	男性・40-49歳・広島県
			169	男性・50-59歳・広島県
			170	男性・60-64歳・広島県
			171	男性・20-29歳・山口県
			172	男性・30-39歳・山口県
			173	男性・40-49歳・山口県
			174	男性・50-59歳・山口県
			175	男性・60-64歳・山口県
			176	男性・20-29歳・徳島県
			177	男性・30-39歳・徳島県
			178	男性・40-49歳・徳島県
			179	男性・50-59歳・徳島県
			180	男性・60-64歳・徳島県
			181	男性・20-29歳・香川県
			182	男性・30-39歳・香川県
			183	男性・40-49歳・香川県
			184	男性・50-59歳・香川県
			185	男性・60-64歳・香川県
			186	男性・20-29歳・愛媛県
			187	男性・30-39歳・愛媛県
			188	男性・40-49歳・愛媛県
			189	男性・50-59歳・愛媛県
			190	男性・60-64歳・愛媛県
			191	男性・20-29歳・高知県

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／ 桁	カテゴリ
			192	男性・30-39歳・高知県
			193	男性・40-49歳・高知県
			194	男性・50-59歳・高知県
			195	男性・60-64歳・高知県
			196	男性・20-29歳・福岡県
			197	男性・30-39歳・福岡県
			198	男性・40-49歳・福岡県
			199	男性・50-59歳・福岡県
			200	男性・60-64歳・福岡県
			201	男性・20-29歳・佐賀県
			202	男性・30-39歳・佐賀県
			203	男性・40-49歳・佐賀県
			204	男性・50-59歳・佐賀県
			205	男性・60-64歳・佐賀県
			206	男性・20-29歳・長崎県
			207	男性・30-39歳・長崎県
			208	男性・40-49歳・長崎県
			209	男性・50-59歳・長崎県
			210	男性・60-64歳・長崎県
			211	男性・20-29歳・熊本県
			212	男性・30-39歳・熊本県
			213	男性・40-49歳・熊本県
			214	男性・50-59歳・熊本県
			215	男性・60-64歳・熊本県
			216	男性・20-29歳・大分県
			217	男性・30-39歳・大分県
			218	男性・40-49歳・大分県
			219	男性・50-59歳・大分県
			220	男性・60-64歳・大分県
			221	男性・20-29歳・宮崎県
			222	男性・30-39歳・宮崎県
			223	男性・40-49歳・宮崎県
			224	男性・50-59歳・宮崎県
			225	男性・60-64歳・宮崎県
			226	男性・20-29歳・鹿児島県
			227	男性・30-39歳・鹿児島県
			228	男性・40-49歳・鹿児島県
			229	男性・50-59歳・鹿児島県
			230	男性・60-64歳・鹿児島県
			231	男性・20-29歳・沖縄県
			232	男性・30-39歳・沖縄県
			233	男性・40-49歳・沖縄県
			234	男性・50-59歳・沖縄県
			235	男性・60-64歳・沖縄県
			236	女性・20-29歳・北海道
			237	女性・30-39歳・北海道
			238	女性・40-49歳・北海道
			239	女性・50-59歳・北海道
			240	女性・60-64歳・北海道
			241	女性・20-29歳・青森県
			242	女性・30-39歳・青森県
			243	女性・40-49歳・青森県
			244	女性・50-59歳・青森県
			245	女性・60-64歳・青森県
			246	女性・20-29歳・岩手県
			247	女性・30-39歳・岩手県
			248	女性・40-49歳・岩手県
			249	女性・50-59歳・岩手県
			250	女性・60-64歳・岩手県
			251	女性・20-29歳・宮城県
			252	女性・30-39歳・宮城県
			253	女性・40-49歳・宮城県
			254	女性・50-59歳・宮城県
			255	女性・60-64歳・宮城県
			256	女性・20-29歳・秋田県
			257	女性・30-39歳・秋田県

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
			258	女性・40-49歳・秋田県
			259	女性・50-59歳・秋田県
			260	女性・60-64歳・秋田県
			261	女性・20-29歳・山形県
			262	女性・30-39歳・山形県
			263	女性・40-49歳・山形県
			264	女性・50-59歳・山形県
			265	女性・60-64歳・山形県
			266	女性・20-29歳・福島県
			267	女性・30-39歳・福島県
			268	女性・40-49歳・福島県
			269	女性・50-59歳・福島県
			270	女性・60-64歳・福島県
			271	女性・20-29歳・茨城県
			272	女性・30-39歳・茨城県
			273	女性・40-49歳・茨城県
			274	女性・50-59歳・茨城県
			275	女性・60-64歳・茨城県
			276	女性・20-29歳・栃木県
			277	女性・30-39歳・栃木県
			278	女性・40-49歳・栃木県
			279	女性・50-59歳・栃木県
			280	女性・60-64歳・栃木県
			281	女性・20-29歳・群馬県
			282	女性・30-39歳・群馬県
			283	女性・40-49歳・群馬県
			284	女性・50-59歳・群馬県
			285	女性・60-64歳・群馬県
			286	女性・20-29歳・埼玉県
			287	女性・30-39歳・埼玉県
			288	女性・40-49歳・埼玉県
			289	女性・50-59歳・埼玉県
			290	女性・60-64歳・埼玉県
			291	女性・20-29歳・千葉県
			292	女性・30-39歳・千葉県
			293	女性・40-49歳・千葉県
			294	女性・50-59歳・千葉県
			295	女性・60-64歳・千葉県
			296	女性・20-29歳・東京都
			297	女性・30-39歳・東京都
			298	女性・40-49歳・東京都
			299	女性・50-59歳・東京都
			300	女性・60-64歳・東京都
			301	女性・20-29歳・神奈川県
			302	女性・30-39歳・神奈川県
			303	女性・40-49歳・神奈川県
			304	女性・50-59歳・神奈川県
			305	女性・60-64歳・神奈川県
			306	女性・20-29歳・新潟県
			307	女性・30-39歳・新潟県
			308	女性・40-49歳・新潟県
			309	女性・50-59歳・新潟県
			310	女性・60-64歳・新潟県
			311	女性・20-29歳・富山県
			312	女性・30-39歳・富山県
			313	女性・40-49歳・富山県
			314	女性・50-59歳・富山県
			315	女性・60-64歳・富山県
			316	女性・20-29歳・石川県
			317	女性・30-39歳・石川県
			318	女性・40-49歳・石川県
			319	女性・50-59歳・石川県
			320	女性・60-64歳・石川県
			321	女性・20-29歳・福井県
			322	女性・30-39歳・福井県
			323	女性・40-49歳・福井県

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
			324	女性・50-59歳・福井県
			325	女性・60-64歳・福井県
			326	女性・20-29歳・山梨県
			327	女性・30-39歳・山梨県
			328	女性・40-49歳・山梨県
			329	女性・50-59歳・山梨県
			330	女性・60-64歳・山梨県
			331	女性・20-29歳・長野県
			332	女性・30-39歳・長野県
			333	女性・40-49歳・長野県
			334	女性・50-59歳・長野県
			335	女性・60-64歳・長野県
			336	女性・20-29歳・岐阜県
			337	女性・30-39歳・岐阜県
			338	女性・40-49歳・岐阜県
			339	女性・50-59歳・岐阜県
			340	女性・60-64歳・岐阜県
			341	女性・20-29歳・静岡県
			342	女性・30-39歳・静岡県
			343	女性・40-49歳・静岡県
			344	女性・50-59歳・静岡県
			345	女性・60-64歳・静岡県
			346	女性・20-29歳・愛知県
			347	女性・30-39歳・愛知県
			348	女性・40-49歳・愛知県
			349	女性・50-59歳・愛知県
			350	女性・60-64歳・愛知県
			351	女性・20-29歳・三重県
			352	女性・30-39歳・三重県
			353	女性・40-49歳・三重県
			354	女性・50-59歳・三重県
			355	女性・60-64歳・三重県
			356	女性・20-29歳・滋賀県
			357	女性・30-39歳・滋賀県
			358	女性・40-49歳・滋賀県
			359	女性・50-59歳・滋賀県
			360	女性・60-64歳・滋賀県
			361	女性・20-29歳・京都府
			362	女性・30-39歳・京都府
			363	女性・40-49歳・京都府
			364	女性・50-59歳・京都府
			365	女性・60-64歳・京都府
			366	女性・20-29歳・大阪府
			367	女性・30-39歳・大阪府
			368	女性・40-49歳・大阪府
			369	女性・50-59歳・大阪府
			370	女性・60-64歳・大阪府
			371	女性・20-29歳・兵庫県
			372	女性・30-39歳・兵庫県
			373	女性・40-49歳・兵庫県
			374	女性・50-59歳・兵庫県
			375	女性・60-64歳・兵庫県
			376	女性・20-29歳・奈良県
			377	女性・30-39歳・奈良県
			378	女性・40-49歳・奈良県
			379	女性・50-59歳・奈良県
			380	女性・60-64歳・奈良県
			381	女性・20-29歳・和歌山県
			382	女性・30-39歳・和歌山県
			383	女性・40-49歳・和歌山県
			384	女性・50-59歳・和歌山県
			385	女性・60-64歳・和歌山県
			386	女性・20-29歳・鳥取県
			387	女性・30-39歳・鳥取県
			388	女性・40-49歳・鳥取県
			389	女性・50-59歳・鳥取県

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
			390	女性・60-64歳・鳥取県
			391	女性・20-29歳・島根県
			392	女性・30-39歳・島根県
			393	女性・40-49歳・島根県
			394	女性・50-59歳・島根県
			395	女性・60-64歳・島根県
			396	女性・20-29歳・岡山県
			397	女性・30-39歳・岡山県
			398	女性・40-49歳・岡山県
			399	女性・50-59歳・岡山県
			400	女性・60-64歳・岡山県
			401	女性・20-29歳・広島県
			402	女性・30-39歳・広島県
			403	女性・40-49歳・広島県
			404	女性・50-59歳・広島県
			405	女性・60-64歳・広島県
			406	女性・20-29歳・山口県
			407	女性・30-39歳・山口県
			408	女性・40-49歳・山口県
			409	女性・50-59歳・山口県
			410	女性・60-64歳・山口県
			411	女性・20-29歳・徳島県
			412	女性・30-39歳・徳島県
			413	女性・40-49歳・徳島県
			414	女性・50-59歳・徳島県
			415	女性・60-64歳・徳島県
			416	女性・20-29歳・香川県
			417	女性・30-39歳・香川県
			418	女性・40-49歳・香川県
			419	女性・50-59歳・香川県
			420	女性・60-64歳・香川県
			421	女性・20-29歳・愛媛県
			422	女性・30-39歳・愛媛県
			423	女性・40-49歳・愛媛県
			424	女性・50-59歳・愛媛県
			425	女性・60-64歳・愛媛県
			426	女性・20-29歳・高知県
			427	女性・30-39歳・高知県
			428	女性・40-49歳・高知県
			429	女性・50-59歳・高知県
			430	女性・60-64歳・高知県
			431	女性・20-29歳・福岡県
			432	女性・30-39歳・福岡県
			433	女性・40-49歳・福岡県
			434	女性・50-59歳・福岡県
			435	女性・60-64歳・福岡県
			436	女性・20-29歳・佐賀県
			437	女性・30-39歳・佐賀県
			438	女性・40-49歳・佐賀県
			439	女性・50-59歳・佐賀県
			440	女性・60-64歳・佐賀県
			441	女性・20-29歳・長崎県
			442	女性・30-39歳・長崎県
			443	女性・40-49歳・長崎県
			444	女性・50-59歳・長崎県
			445	女性・60-64歳・長崎県
			446	女性・20-29歳・熊本県
			447	女性・30-39歳・熊本県
			448	女性・40-49歳・熊本県
			449	女性・50-59歳・熊本県
			450	女性・60-64歳・熊本県
			451	女性・20-29歳・大分県
			452	女性・30-39歳・大分県
			453	女性・40-49歳・大分県
			454	女性・50-59歳・大分県
			455	女性・60-64歳・大分県

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
			456	女性・20-29歳・宮崎県
			457	女性・30-39歳・宮崎県
			458	女性・40-49歳・宮崎県
			459	女性・50-59歳・宮崎県
			460	女性・60-64歳・宮崎県
			461	女性・20-29歳・鹿児島県
			462	女性・30-39歳・鹿児島県
			463	女性・40-49歳・鹿児島県
			464	女性・50-59歳・鹿児島県
			465	女性・60-64歳・鹿児島県
			466	女性・20-29歳・沖縄県
			467	女性・30-39歳・沖縄県
			468	女性・40-49歳・沖縄県
問1a 居住都道府県	Q1a	SA	469	女性・50-59歳・沖縄県
			470	女性・60-64歳・沖縄県
			1	北海道
			2	青森県
			3	岩手県
			4	宮城県
			5	秋田県
			6	山形県
			7	福島県
			8	茨城県
			9	栃木県
			10	群馬県
			11	埼玉県
			12	千葉県
			13	東京都
			14	神奈川県
			15	新潟県
			16	富山県
			17	石川県
			18	福井県
			19	山梨県
			20	長野県
			21	岐阜県
			22	静岡県
			23	愛知県
			24	三重県
			25	滋賀県
			26	京都府
			27	大阪府
			28	兵庫県
			29	奈良県
			30	和歌山県
			31	鳥取県
			32	島根県
			33	岡山県
			34	広島県
			35	山口県
			36	徳島県
			37	香川県
			38	愛媛県
			39	高知県
			40	福岡県
			41	佐賀県
			42	長崎県
			43	熊本県
			44	大分県
			45	宮崎県
			46	鹿児島県
			47	沖縄県
問1b 居住市町村	Q1b	FA		
問2 性別	Q2	SA	1	男性
			2	女性

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
問3 年齢	Q3	NU	2	年齢(自由記述)
問h3_1 生年	Qh3_1	NU	4	年(自由記述)
問h3_2 生月	Qh3_2	NU	2	月(自由記述)
問4a 現在の仕事	Q4a	SA	11	1 経営者、役員 2 常時雇用されている一般従業者 3 臨時雇用・パート・アルバイト 4 派遣社員 5 契約社員、嘱託 6 自営業主、自由業者 7 家族従業者 8 内職 9 無職：仕事を探している 10 無職：仕事を探していない 11 学生
問4b 事業内容	Q4b	FA		
問h4b 記述の有無	Qh4b	SA	1	1 記述あり
			10	10 わからない
問4c 事業内容分類	Q4c	SA	20	1 情報通信業 2 運輸業、郵便業(郵便局以外) 3 郵便局 4 卸売業、小売業 5 金融業、保険業 6 不動産業、物品賃貸業 7 学術研究、専門・技術サービス業 8 教育、学習支援業 9 医療、福祉 10 宿泊業、飲食サービス業 11 生活関連サービス業、娯楽業 12 その他のサービス業 13 製造業 14 電気・ガス・熱供給・水道業 15 建設業 16 農業、林業、漁業 17 鉱業、採石業、砂利採取業 18 公務 19 その他 20 わからない
問4d_1 勤務開始時期 年	Q4d_1	NU	4	4 年(自由記述)
問4d_2 勤務開始時期 月	Q4d_2	NU	2	2 月(自由記述)
問h4d 記述の有無	Qh4d	SA	1	1 記述あり
			10	10 わからない
問4e 従業員数	Q4e	SA	11	1 1人 2 2～4人 3 5～9人 4 10～29人 5 30～99人 6 100～299人 7 300～499人 8 500～999人 9 1000人以上 10 官公庁 11 わからない
問4f 仕事内容	Q4f	FA		
問h4f 記述の有無	Qh4f	SA	1	1 記述あり
			10	10 わからない

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
問4g 仕事内容分類	Q4g	SA	1	管理的な仕事
			2	専門的、技術的な仕事
			3	事務的な仕事
			4	通信的な仕事
			5	保安的な仕事
			6	建築請負的な仕事
			7	運輸的な仕事
			8	労務的な仕事
			9	販売的な仕事
			10	サービスの仕事
			11	製造的な仕事
			12	農林漁業の仕事
			13	そのほか
			14	わからない
問4h 仕事内容 モノづくりかコミュニケーションか	Q4h	SA	1	おもに自分でモノを作ったり扱ったりしている
			2	モノを扱うことと、人とのコミュニケーションが半々ぐらい
			3	どちらかといえば、人と接したりコミュニケーションをとることが多い
			4	おもに人と接したりコミュニケーションをとっている
			5	わからない
問4i 役職	Q4i	SA	1	役職なし
			2	監督、職長、班長、組長
			3	係長、係長相当職
			4	課長、課長相当職
			5	部長、部長相当職
			6	社長、重役、役員、理事
			7	その他
			8	わからない
問4j 1日あたり勤務時間	Q4j	NU	2	時間(自由記述)
問4j_2_1 勤務日数 週あたり	Q4j_2_1	NU	1	日(自由記述)
問4j_2_2 勤務日数 月あたり	Q4j_2_2	NU	2	日(自由記述)
問4j_3 勤務日数 特殊なケース	Q4j_3	FA		
問4k 仕事に必要な資格	Q4k	SA	1	ある
			2	ない
			3	わからない
問5_1_1 交流のある職業 大学教授 親類	Q5_1_1	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5_1_2 交流のある職業 大学教授 友人	Q5_1_2	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5_1_3 交流のある職業 大学教授 知り合い	Q5_1_3	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5_1_4 交流のある職業 大学教授 あてはまる人はいない	Q5_1_4	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5_2_1 交流のある職業 弁護士 親類	Q5_2_1	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5_2_2 交流のある職業 弁護士 友人	Q5_2_2	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5_2_3 交流のある職業 弁護士 知り合い	Q5_2_3	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5_2_4 交流のある職業 弁護士 あてはまる人はいない	Q5_2_4	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5_3_1 交流のある職業 看護師 親類	Q5_3_1	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5_3_2 交流のある職業 看護師 友人	Q5_3_2	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5_3_3 交流のある職業 看護師 知り合い	Q5_3_3	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5_3_4 交流のある職業 看護師 あてはまる人はいない	Q5_3_4	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5_4_1 交流のある職業 中学校の教員 親類	Q5_4_1	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5_4_2 交流のある職業 中学校の教員 友人	Q5_4_2	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5_4_3 交流のある職業 中学校の教員 知り合い	Q5_4_3	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
問5.4.4 交流のある職業 中学校の教員 あてはまる人はいない	Q5_4_4	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.5.1 交流のある職業 情報処理技術者 親類	Q5_5_1	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.5.2 交流のある職業 情報処理技術者 友人	Q5_5_2	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.5.3 交流のある職業 情報処理技術者 知り合い	Q5_5_3	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.5.4 交流のある職業 情報処理技術者 あてはまる人はいない	Q5_5_4	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.6.1 交流のある職業 人事担当者 親類	Q5_6_1	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.6.2 交流のある職業 人事担当者 友人	Q5_6_2	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.6.3 交流のある職業 人事担当者 知り合い	Q5_6_3	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.6.4 交流のある職業 人事担当者 あてはまる人はいない	Q5_6_4	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.7.1 交流のある職業 農業従事者 親類	Q5_7_1	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.7.2 交流のある職業 農業従事者 友人	Q5_7_2	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.7.3 交流のある職業 農業従事者 知り合い	Q5_7_3	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.7.4 交流のある職業 農業従事者 あてはまる人はいない	Q5_7_4	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.8.1 交流のある職業 美容師・理容師 親類	Q5_8_1	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.8.2 交流のある職業 美容師・理容師 友人	Q5_8_2	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.8.3 交流のある職業 美容師・理容師 知り合い	Q5_8_3	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.8.4 交流のある職業 美容師・理容師 あてはまる人はいない	Q5_8_4	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.9.1 交流のある職業 受付係 親類	Q5_9_1	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.9.2 交流のある職業 受付係 友人	Q5_9_2	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.9.3 交流のある職業 受付係 知り合い	Q5_9_3	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.9.4 交流のある職業 受付係 あてはまる人はいない	Q5_9_4	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.10.1 交流のある職業 警察官 親類	Q5_10_1	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.10.2 交流のある職業 警察官 友人	Q5_10_2	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.10.3 交流のある職業 警察官 知り合い	Q5_10_3	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問5.10.4 交流のある職業 警察官 あてはまる人はいない	Q5_10_4	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問6 中学3年生時成績	Q6	SA	1	上の方
			2	やや上の方
			3	真ん中のあたり
			4	やや下の方
			5	下の方
			6	わからない
問7 最終学歴	Q7	SA	1	中学校
			2	中学校卒業後、専門学校(専修学校)
			3	高等学校
			4	高等学校卒業後、専門学校
			5	短期大学・高等専門学校
			6	大学
			7	大学院修士課程
			8	大学院博士課程
			9	その他・どれにあたるか判断できない

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
問8 最後に行かれた学校の学校名	Q8	FA		
問h8 記述の有無	Qh8	SA	1	記述あり
			10	わからない
問9a 最後に行かれた学校の学部・学	Q9a	FA		
問h9a 記述の有無	Qh9a	SA	1	記述あり
			10	わからない
問9b 高校の学科	Q9b	SA	1	普通科・理数科・英数科・英語科・国際科
			2	工業に関する学科
			3	商業に関する学科
			4	農業・水産に関する学科
			5	看護・介護・福祉・保育に関する学科
			6	家庭・家政・衛生に関する学科
			7	芸術・体育に関する学科
			8	総合学科
			9	その他
			10	わからない
問10.1 社会のなかでどれくらい役に 立っているか 教育学	Q10_1	SA	1	役に立っている
			2	どちらかといえば役に立っている
			3	どちらかといえば役に立っていない
			4	役に立っていない
			5	わからない
問10.2 社会のなかでどれくらい役に 立っているか 歴史学	Q10_2	SA	1	役に立っている
			2	どちらかといえば役に立っている
			3	どちらかといえば役に立っていない
			4	役に立っていない
			5	わからない
問10.3 社会のなかでどれくらい役に 立っているか 哲学	Q10_3	SA	1	役に立っている
			2	どちらかといえば役に立っている
			3	どちらかといえば役に立っていない
			4	役に立っていない
			5	わからない
問10.4 社会のなかでどれくらい役に 立っているか 経済学	Q10_4	SA	1	役に立っている
			2	どちらかといえば役に立っている
			3	どちらかといえば役に立っていない
			4	役に立っていない
			5	わからない
問10.5 社会のなかでどれくらい役に 立っているか 政治学	Q10_5	SA	1	役に立っている
			2	どちらかといえば役に立っている
			3	どちらかといえば役に立っていない
			4	役に立っていない
			5	わからない
問10.6 社会のなかでどれくらい役に 立っているか 数学	Q10_6	SA	1	役に立っている
			2	どちらかといえば役に立っている
			3	どちらかといえば役に立っていない
			4	役に立っていない
			5	わからない
問10.7 社会のなかでどれくらい役に 立っているか 物理学	Q10_7	SA	1	役に立っている
			2	どちらかといえば役に立っている
			3	どちらかといえば役に立っていない
			4	役に立っていない
			5	わからない
問10.8 社会のなかでどれくらい役に 立っているか 工学	Q10_8	SA	1	役に立っている
			2	どちらかといえば役に立っている
			3	どちらかといえば役に立っていない
			4	役に立っていない
			5	わからない
問10.9 社会のなかでどれくらい役に 立っているか 農学	Q10_9	SA	1	役に立っている
			2	どちらかといえば役に立っている
			3	どちらかといえば役に立っていない
			4	役に立っていない
			5	わからない
問10.10 社会のなかでどれくらい役に 立っているか 医学	Q10_10	SA	1	役に立っている
			2	どちらかといえば役に立っている
			3	どちらかといえば役に立っていない
			4	役に立っていない
			5	わからない

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
問11 卒業後就業した仕事	Q11	SA	1	ある
			2	一度もない
			3	わからない
問12a 初職時年齢	Q12a	NU	2	年齢(自由記述)
問h12a 記述の有無	Qh12a	SA	1	記述あり
			10	わからない
問12b 転勤・退職経験	Q12b	SA	1	現在まで同じ勤め先
			2	一度だけやめた
			3	二度やめた
			4	三度以上やめた
			5	わからない
問13_1 中学3年生時の希望学歴	Q13_1	SA	1	中学まで
			2	高校まで
			3	短大・高専まで
			4	大学まで
			5	大学院まで
			6	その他
			7	何も考えていなかった
			8	わからない
問13_2 初職時に必要だと感じた学歴	Q13_2	SA	1	中学まで
			2	高校まで
			3	短大・高専まで
			4	大学まで
			5	大学院まで
			6	その他
			8	わからない
問13_3 現職に必要なと感じる学歴	Q13_3	SA	1	中学まで
			2	高校まで
			3	短大・高専まで
			4	大学まで
			5	大学院まで
			6	その他
			8	わからない
問14a 未既婚	Q14a	SA	1	結婚している(事実婚を含む)
			2	未婚(結婚したことがない)
			3	離別
			4	死別
			5	わからない
問14b 現在の配偶者との結婚年齢	Q14b	NU	2	年齢(自由記述)
問h14b 記述の有無	Qh14b	SA	1	記述あり
			10	わからない
問15 配偶者の最終学歴	Q15	SA	1	中学校
			2	中学校卒業後、専門学校(専修学校)
			3	高等学校
			4	高等学校卒業後、専門学校
			5	短期大学・高等専門学校
			6	大学
			7	大学院
			8	その他
			9	わからない
問16a 配偶者の仕事 現在の仕事	Q16a	SA	1	経営者、役員
			2	常時雇用されている一般従業者
			3	臨時雇用・パート・アルバイト
			4	派遣社員
			5	契約社員、嘱託
			6	自営業主、自由業者
			7	家族従業者
			8	内職
			9	無職: 仕事を探している
			10	無職: 仕事を探していない
			11	学生
			12	わからない

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
問16b 配偶者の仕事 従業員数	Q16b	SA	1	1人
			2	2～4人
			3	5～9人
			4	10～29人
			5	30～99人
			6	100～299人
			7	300～499人
			8	500～999人
			9	1000人以上
			10	官公庁
			11	わからない
問16c 配偶者の仕事 役職	Q16c	SA	1	役職なし
			2	監督、職長、班長、組長
			3	係長、係長相当職
			4	課長、課長相当職
			5	部長、部長相当職
			6	社長、重役、役員、理事
			7	その他
			8	わからない
問17a 家族人数	Q17a	SA	1	1人 あなたご自身のみ
			2	2人
			3	3人
			4	4人
			5	5人
			6	6人
			7	7人
			8	8人
			9	9人
			10	10人以上
			11	わからない
問17b_1 同居家族 あなたご自身	Q17b_1	MA	1	あてはまる
問17b_2 同居家族 配偶者	Q17b_2	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問17b_3 同居家族 子ども	Q17b_3	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問17b_4 同居家族 子どもの配偶者	Q17b_4	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問17b_5 同居家族 あなたの兄弟姉妹	Q17b_5	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問17b_6 同居家族 あなたの父親	Q17b_6	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問17b_7 同居家族 あなたの母親	Q17b_7	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問17b_8 同居家族 配偶者の父親	Q17b_8	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問17b_9 同居家族 配偶者の母親	Q17b_9	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問17b_10 同居家族 祖父母	Q17b_10	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問17b_11 同居家族 あなたの孫	Q17b_11	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問17b_12 同居家族 その他	Q17b_12	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問17b_13 同居家族 わからない	Q17b_13	MA	0	あてはまらない
			1	あてはまる
問18a 子供について	Q18a	SA	1	いる
			2	いない
			3	わからない
問18b 子供人数	Q18b	NU		
問h18b 記述の有無	Qh18b	SA	1	記述あり
			10	わからない
問18c 子供生年 1番上の子供	Q18c	NU		
問h18c 記述の有無	Qh18c	SA	1	記述あり
			10	わからない
問18c_2 子供生年 1番下の子供	Q18c_2	NU		

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
問h18c_2 記述の有無	Qh18c_2	SA	1	記述あり
			10	わからない
問19_1 子どもに希望する学歴	Q19_1	SA	1	中学
			2	高校
			3	専門学校
			4	短大・高専
			5	大学
			6	大学院
			7	その他
			8	高校生以下の子どもはいない
			9	わからない
問19_2 子どもが現実的に進むと思う学歴	Q19_2	SA	1	中学
			2	高校
			3	専門学校
			4	短大・高専
			5	大学
			6	大学院
			7	その他
			8	高校生以下の子どもはいない
			9	わからない
問20_1 満足度 生活全般	Q20_1	SA	1	満足している
			2	どちらかといえば満足している
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえば不満である
			5	不満である
			6	わからない
問20_2 満足度 自分の学歴	Q20_2	SA	1	満足している
			2	どちらかといえば満足している
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえば不満である
			5	不満である
			6	わからない
問20_3 満足度 日本社会	Q20_3	SA	1	満足している
			2	どちらかといえば満足している
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえば不満である
			5	不満である
			6	わからない
問20_4 満足度 自分の住んでいる地域	Q20_4	SA	1	満足している
			2	どちらかといえば満足している
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえば不満である
			5	不満である
			6	わからない
問21 階層帰属意識	Q21	SA	1	上
			2	中の上
			3	中の下
			4	下の上
			5	下の下
			6	わからない
問22 健康状態	Q22	SA	1	よい
			2	まあよい
			3	ふつう
			4	あまりよくない
			5	わるい
			6	わからない
問23_1 過去30日間にあった事 神経過敏に感じた	Q23_1	SA	1	全くない
			2	少しだけ
			3	ときどき
			4	たいてい
			5	いつも
問23_2 過去30日間にあった事 絶望的だと感じた	Q23_2	SA	1	全くない
			2	少しだけ
			3	ときどき
			4	たいてい
			5	いつも

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
問23_3 過去30日間にあった事 落ち 着かなく感じた	Q23_3	SA	1	全くない
			2	少しだけ
			3	ときどき
			4	たいてい
			5	いつも
問23_4 過去30日間にあった事 気分 が沈み込んだ	Q23_4	SA	1	全くない
			2	少しだけ
			3	ときどき
			4	たいてい
			5	いつも
問23_5 過去30日間にあった事 何で も骨折りと感じた	Q23_5	SA	1	全くない
			2	少しだけ
			3	ときどき
			4	たいてい
			5	いつも
問23_6 過去30日間にあった事 価値 のない人間だ	Q23_6	SA	1	全くない
			2	少しだけ
			3	ときどき
			4	たいてい
			5	いつも
問24_1 組織参加 教会・宗教組織	Q24_1	SA	1	頻繁に参加している
			2	たまに参加している
			3	参加していない
			4	わからない
問24_2 組織参加 スポーツ・娯楽グ ループ	Q24_2	SA	1	頻繁に参加している
			2	たまに参加している
			3	参加していない
			4	わからない
問24_3 組織参加 芸術・教養グルー プ	Q24_3	SA	1	頻繁に参加している
			2	たまに参加している
			3	参加していない
			4	わからない
問24_4 組織参加 労働組合・同業者 組合	Q24_4	SA	1	頻繁に参加している
			2	たまに参加している
			3	参加していない
			4	わからない
問24_5 組織参加 政党	Q24_5	SA	1	頻繁に参加している
			2	たまに参加している
			3	参加していない
			4	わからない
問24_6 組織参加 環境保護団体	Q24_6	SA	1	頻繁に参加している
			2	たまに参加している
			3	参加していない
			4	わからない
問24_7 組織参加 人権・慈善団体	Q24_7	SA	1	頻繁に参加している
			2	たまに参加している
			3	参加していない
			4	わからない
問24_8 組織参加 自治組織・互助援 助グループ	Q24_8	SA	1	頻繁に参加している
			2	たまに参加している
			3	参加していない
			4	わからない
問24_9 組織参加 消費者団体	Q24_9	SA	1	頻繁に参加している
			2	たまに参加している
			3	参加していない
			4	わからない
問24_10 組織参加 ボランティア団体	Q24_10	SA	1	頻繁に参加している
			2	たまに参加している
			3	参加していない
			4	わからない
問25_1 同性どうして恋愛をする人へ の気持ち	Q25_1	SA	1	好ましい
			2	やや好ましい
			3	あまり好ましくない
			4	好ましくない
			5	好ましさ考えたことがない
			6	わからない

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
問25_2 移民や外国人労働者への気持ち	Q25_2	SA	1	好ましい
			2	やや好ましい
			3	あまり好ましくない
			4	好ましくない
			5	好ましさ考えたことがない
			6	わからない
問26a_1 同性どうして恋愛をする人への意見 あなたの近所に住むこと	Q26a_1	SA	1	賛成
			2	やや賛成
			3	やや反対
			4	反対
			5	わからない
問26a_2 同性どうして恋愛をする人への意見 あなたと同じ職場で働くこと	Q26a_2	SA	1	賛成
			2	やや賛成
			3	やや反対
			4	反対
			5	わからない
問26a_3 同性どうして恋愛をする人への意見 あなたの地域の福祉サービスや補助金を利用すること	Q26a_3	SA	1	賛成
			2	やや賛成
			3	やや反対
			4	反対
			5	わからない
問26a_4 同性どうして恋愛をする人への意見 あなたの家族のだれかと結婚したり、養子縁組したりすること	Q26a_4	SA	1	賛成
			2	やや賛成
			3	やや反対
			4	反対
			5	わからない
問26b_1 移民や外国人労働者への意見 あなたの近所に住むこと	Q26b_1	SA	1	賛成
			2	やや賛成
			3	やや反対
			4	反対
			5	わからない
問26b_2 移民や外国人労働者への意見 あなたと同じ職場で働くこと	Q26b_2	SA	1	賛成
			2	やや賛成
			3	やや反対
			4	反対
			5	わからない
問26b_3 移民や外国人労働者への意見 あなたの地域の福祉サービスや補助金を利用すること	Q26b_3	SA	1	賛成
			2	やや賛成
			3	やや反対
			4	反対
			5	わからない
問26b_4 移民や外国人労働者への意見 あなたの家族のだれかと結婚したり、養子縁組したりすること	Q26b_4	SA	1	賛成
			2	やや賛成
			3	やや反対
			4	反対
			5	わからない
問27.1 意見評価 日本人であることに誇りを感じる	Q27_1	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問27.2 意見評価 たとえ自分の国が間違っている場合でも、国民は自分の国を支持すべきだ	Q27_2	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問27.3 意見評価 たとえ日本国籍を取得しても、民族・人種が違うことで一定の差別を受けるのは仕方がない	Q27_3	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
問27.4 意見評価 日本国内で日本人と外国人や少数民族の人たちとの法的平等を認めようとするのは、間違いだ	Q27_4	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問27.5 意見評価 外国人や少数民族の人たちは、平等の名の下に過剰な要求をしている	Q27_5	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問28.1 意見評価 自分は社会からのけ者にされている	Q28_1	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問28.2 意見評価 今や人生はとても複雑なものになってしまったので、自分がどうすればいいか、ほとんどわからない	Q28_2	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問28.3 意見評価 自分のすることの価値を、他の人たちは認めてくれない	Q28_3	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問28.4 意見評価 自分の仕事や収入のせいで、他の人たちから見下される	Q28_4	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問28.5 意見評価 自分が住んでいる地域の人たちに親しみを感じる	Q28_5	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問29.1 意見評価 自分が住んでいる地域に愛着を感じている	Q29_1	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問29.2 意見評価 自分が住んでいる地域に住み続けたい	Q29_2	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問29.3 意見評価 まごまごしていると、他人に追い越されそうな不安を感じる	Q29_3	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問29.4 意見評価 うかうかしていると、自分がこれまで獲得したものを失ってしまいそうな不安を感じる	Q29_4	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
問29.5 意見評価 自分の将来の見通しは明るい	Q29_5	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問30.1 意見評価 将来のために節約・努力するよりも、今の人生を楽しむようにしている	Q30_1	SA	1	よくあてはまる
			2	ややあてはまる
			3	どちらともいえない
			4	あまりあてはまらない
			5	まったくあてはまらない
			6	わからない
問30.2 意見評価 何年後まで何をするとように、きちんと生活設計をたてて暮らしたい	Q30_2	SA	1	よくあてはまる
			2	ややあてはまる
			3	どちらともいえない
			4	あまりあてはまらない
			5	まったくあてはまらない
			6	わからない
問30.3 意見評価 どんなに苦勞をしても、自分の夢は実現させたい	Q30_3	SA	1	よくあてはまる
			2	ややあてはまる
			3	どちらともいえない
			4	あまりあてはまらない
			5	まったくあてはまらない
			6	わからない
問30.4 意見評価 友人との関係をつらいと感じることがよくある	Q30_4	SA	1	よくあてはまる
			2	ややあてはまる
			3	どちらともいえない
			4	あまりあてはまらない
			5	まったくあてはまらない
			6	わからない
問30.5 意見評価 余暇の時間は、友人や仲間とともに楽しみたいと思う	Q30_5	SA	1	よくあてはまる
			2	ややあてはまる
			3	どちらともいえない
			4	あまりあてはまらない
			5	まったくあてはまらない
			6	わからない
問31.1 意見評価 社会で成功するかどうかは生まれつきの能力や素質でほぼ決まる	Q31_1	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問31.2 意見評価 努力をしていれば、たいていの目標は達成できる	Q31_2	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問31.3 意見評価 人の一生は運命によってある程度決められている	Q31_3	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問31.4 意見評価 全体としてみれば、世の中はバランスが取れている	Q31_4	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問31.5 意見評価 悪いことばかり続いた人も、次には何か良いことが起こるものだ	Q31_5	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
問32.1 意見評価 いかなる集団も、社会を支配してはならない	Q32_1	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問32.2 意見評価 欲しいものを手に入れるためには、ほかの集団から力づくで手に入れなければならないときもある	Q32_2	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問32.3 意見評価 今後、日本で格差が広がってもかまわない	Q32_3	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問32.4 意見評価 政治のことはやりたい人にまかせておけばよい	Q32_4	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問32.5 意見評価 権威のある人々にはつねに敬意を払わなければならない	Q32_5	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問33.1 意見評価 以前からなされていたやり方を守ることが、最上の結果を生む	Q33_1	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問33.2 意見評価 伝統や習慣にしたがったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題をひきおこすことになる	Q33_2	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問33.3 意見評価 この複雑な世の中で何をすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである	Q33_3	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問33.4 意見評価 成功するためには、ほかの集団を踏み台にしなければならないときもある	Q33_4	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問33.5 意見評価 人生において、ある集団がほかの集団よりもチャンスに恵まれていたとしてもかまわない	Q33_5	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問34.1 意見評価 世の中にはすべてを手に入れる人間もいれば、何も手に入れない人間もいる	Q34_1	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
問34.2 意見評価 あらゆるものには長所と短所がある	Q34_2	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問34.3 意見評価 いろいろな集団が平等になるように、わたしたちはできる限りのことをすべきだ	Q34_3	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問34.4 意見評価 集団が、それぞれの立場に留まらなければならないときがある	Q34_4	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問34.5 意見評価 一部の集団が高い地位にあり、別の集団が低い地位にあるのは、良いことだろう	Q34_5	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問35.1 意見評価 自分よりも年上の人は常に敬わなければならない	Q35_1	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問35.2 意見評価 子どもは親の意向には素直に従うべきである	Q35_2	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問35.3 意見評価 子どもにはできるだけ高い教育を受けさせるのがよい	Q35_3	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問35.4 意見評価 学歴は本人の実力をかなり反映している	Q35_4	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問35.5 意見評価 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである	Q35_5	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問36.1 意見評価 夫が家事や育児をするのはあたりまえのことだ	Q36_1	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問36.2 意見評価 どんな集団も、平等にチャンスを与えられるべきだ	Q36_2	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
問36.3 意見評価 人々をより平等に扱えば、私たちの抱える問題はより少なくなる	Q36_3	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問36.4 意見評価 「宗教的な心」というものは大切だと思う	Q36_4	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問36.5 意見評価 今後、国内の原子力発電所はすべて廃止すべきだ	Q36_5	SA	1	そう思う
			2	どちらかといえばそう思う
			3	どちらともいえない
			4	どちらかといえばそう思わない
			5	そう思わない
			6	わからない
問37.1 社会保障への意見 高福祉 vs. 低負担	Q37_1	SA	1	Aに近い
			2	どちらかといえばAに近い
			3	どちらかといえばBに近い
			4	Bに近い
			5	わからない
問37.2 社会保障への意見 選別 vs. 普遍	Q37_2	SA	1	Aに近い
			2	どちらかといえばAに近い
			3	どちらかといえばBに近い
			4	Bに近い
			5	わからない
問37.3 社会保障への意見 必要 vs. 貢献	Q37_3	SA	1	Aに近い
			2	どちらかといえばAに近い
			3	どちらかといえばBに近い
			4	Bに近い
			5	わからない
問37.4 社会保障への意見 世代間の連帯 vs. 世代間の公平	Q37_4	SA	1	Aに近い
			2	どちらかといえばAに近い
			3	どちらかといえばBに近い
			4	Bに近い
			5	わからない
問38 現在の住居	Q38	SA	1	持ち家(一戸建)
			2	持ち家(分譲マンション)
			3	借家・賃貸のアパート・マンション
			4	社宅・寮・官舎
			5	下宿・間借り
			6	その他
			7	わからない

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
問39 過去1年間の収入(個人)	Q39	SA	1	なし
			2	25万円未満
			3	25～50万円未満
			4	50～75万円未満
			5	75～100万円未満
			6	100～125万円未満
			7	125～150万円未満
			8	150～200万円未満
			9	200～250万円未満
			10	250～300万円未満
			11	300～350万円未満
			12	350～400万円未満
			13	400～450万円未満
			14	500万円位(450～550万円未満)
			15	600万円位(550～650万円未満)
			16	700万円位(650～750万円未満)
			17	800万円位(750～850万円未満)
			18	900万円位(850～950万円未満)
			19	1,000万円位(950～1,050万円未満)
			20	1,100万円位(1,050～1,150万円未満)
			21	1,200万円位(1,150～1,250万円未満)
			22	1,300万円位(1,250～1,350万円未満)
			23	1,400万円位(1,350～1,450万円未満)
			24	1,500万円位(1,450～1,550万円未満)
			25	1,600万円位(1,550～1,650万円未満)
			26	1,700万円位(1,650～1,750万円未満)
			27	1,800万円位(1,750～1,850万円未満)
			28	1,900万円位(1,850～1,950万円未満)
			29	2,000万円位(1,950～2,050万円未満)
			30	2,050万円以上
			31	わからない
問40 過去1年間の収入(世帯)	Q40	SA	1	なし
			2	25万円未満
			3	25～50万円未満
			4	50～75万円未満
			5	75～100万円未満
			6	100～125万円未満
			7	125～150万円未満
			8	150～200万円未満
			9	200～250万円未満
			10	250～300万円未満
			11	300～350万円未満
			12	350～400万円未満
			13	400～450万円未満
			14	500万円位(450～550万円未満)
			15	600万円位(550～650万円未満)
			16	700万円位(650～750万円未満)
			17	800万円位(750～850万円未満)
			18	900万円位(850～950万円未満)
			19	1,000万円位(950～1,050万円未満)
			20	1,100万円位(1,050～1,150万円未満)
			21	1,200万円位(1,150～1,250万円未満)
			22	1,300万円位(1,250～1,350万円未満)
			23	1,400万円位(1,350～1,450万円未満)
			24	1,500万円位(1,450～1,550万円未満)
			25	1,600万円位(1,550～1,650万円未満)
			26	1,700万円位(1,650～1,750万円未満)
			27	1,800万円位(1,750～1,850万円未満)
			28	1,900万円位(1,850～1,950万円未満)
			29	2,000万円位(1,950～2,050万円未満)
			30	2,050万円以上
			31	わからない

変数ラベル	変数名	種別	カテ数 ／桁	カテゴリ
年代	Qage	SA	1	20-29歳
			2	30-39歳
			3	40-49歳
			4	50-59歳
			5	60-64歳
性年代	Qsage	SA	1	男性20-29歳
			2	男性30-39歳
			3	男性40-49歳
			4	男性50-59歳
			5	男性60-64歳
			6	女性20-29歳
			7	女性30-39歳
			8	女性40-49歳
			9	女性50-59歳
			10	女性60-64歳
SSM職業小分類	SSM	SA		SSM95(改訂)
			999	無回答
職業8分類	JOB8	SA	1	専門
			2	管理
			3	事務
			4	販売
			5	熟練
			6	半熟練
			7	非熟練
			8	農業
			9	無職
			10	学生
			11	無回答・分類不能
EGP9分類	EGP9	SA	1	上層サービス
			2	下層サービス
			3	事務販売
			4	自営業主
			5	独立自営
			7	管理的マニュアル
			8	熟練マニュアル
			9	非熟練・半熟練マニュアル
			11	農業経営
			12	無職
			13	学生
			14	無回答・分類不能
EGP6分類	EGP6	SA	1	上層ホワイト
			2	下層ホワイト
			3	自営
			4	熟練ブルー
			5	非熟練ブルー
			6	農業
			7	無職
			8	学生
			9	無回答・分類不能

4 基礎集計表

基礎集計表の見かたについての留意点

各表 1 行目の「全体」の回答数について

スクリーニング質問後のサブクエスションにおいては、「全体」の回答数は該当回答者の計としている。つまり、全有効票数 2,898 から「全体」の回答数を引くと非該当者（データファイルにおけるシステム欠損値）の数となる。

スクリーニングをしていない質問の「全体」の回答数は、2,898 となる。

		回答数	%
	全体	2898	100.0
1	男性・20-29歳・北海道	10	0.3
2	男性・30-39歳・北海道	13	0.4
3	男性・40-49歳・北海道	15	0.5
4	男性・50-59歳・北海道	14	0.5
5	男性・60-64歳・北海道	7	0.2
6	男性・20-29歳・青森県	2	0.1
7	男性・30-39歳・青森県	3	0.1
8	男性・40-49歳・青森県	4	0.1
9	男性・50-59歳・青森県	4	0.1
10	男性・60-64歳・青森県	2	0.1
11	男性・20-29歳・岩手県	2	0.1
12	男性・30-39歳・岩手県	3	0.1
13	男性・40-49歳・岩手県	4	0.1
14	男性・50-59歳・岩手県	3	0.1
15	男性・60-64歳・岩手県	2	0.1
16	男性・20-29歳・宮城県	5	0.2
17	男性・30-39歳・宮城県	5	0.2
18	男性・40-49歳・宮城県	7	0.2
19	男性・50-59歳・宮城県	6	0.2
20	男性・60-64歳・宮城県	3	0.1
21	男性・20-29歳・秋田県	1	0.0
22	男性・30-39歳・秋田県	2	0.1
23	男性・40-49歳・秋田県	3	0.1
24	男性・50-59歳・秋田県	3	0.1
25	男性・60-64歳・秋田県	2	0.1
26	男性・20-29歳・山形県	2	0.1
27	男性・30-39歳・山形県	3	0.1
28	男性・40-49歳・山形県	3	0.1
29	男性・50-59歳・山形県	3	0.1
30	男性・60-64歳・山形県	2	0.1
31	男性・20-29歳・福島県	4	0.1
32	男性・30-39歳・福島県	5	0.2
33	男性・40-49歳・福島県	5	0.2
34	男性・50-59歳・福島県	5	0.2
35	男性・60-64歳・福島県	3	0.1
36	男性・20-29歳・茨城県	7	0.2
37	男性・30-39歳・茨城県	8	0.3
38	男性・40-49歳・茨城県	10	0.3
39	男性・50-59歳・茨城県	8	0.3
40	男性・60-64歳・茨城県	4	0.1
41	男性・20-29歳・栃木県	4	0.1
42	男性・30-39歳・栃木県	5	0.2
43	男性・40-49歳・栃木県	6	0.2
44	男性・50-59歳・栃木県	5	0.2
45	男性・60-64歳・栃木県	3	0.1
46	男性・20-29歳・群馬県	4	0.1
47	男性・30-39歳・群馬県	5	0.2
48	男性・40-49歳・群馬県	6	0.2
49	男性・50-59歳・群馬県	5	0.2
50	男性・60-64歳・群馬県	3	0.1
51	男性・20-29歳・埼玉県	15	0.5
52	男性・30-39歳・埼玉県	19	0.7
53	男性・40-49歳・埼玉県	25	0.9
54	男性・50-59歳・埼玉県	20	0.7
55	男性・60-64歳・埼玉県	9	0.3
56	男性・20-29歳・千葉県	14	0.5
57	男性・30-39歳・千葉県	17	0.6

58	男性・40-49歳・千葉県	19	0.7
59	男性・50-59歳・千葉県	17	0.6
60	男性・60-64歳・千葉県	8	0.3
61	男性・20-29歳・東京都	35	1.2
62	男性・30-39歳・東京都	41	1.4
63	男性・40-49歳・東京都	49	1.7
64	男性・50-59歳・東京都	38	1.3
65	男性・60-64歳・東京都	14	0.5
66	男性・20-29歳・神奈川県	20	0.7
67	男性・30-39歳・神奈川県	24	0.8
68	男性・40-49歳・神奈川県	32	1.1
69	男性・50-59歳・神奈川県	27	0.9
70	男性・60-64歳・神奈川県	10	0.3
71	男性・20-29歳・新潟県	4	0.1
72	男性・30-39歳・新潟県	5	0.2
73	男性・40-49歳・新潟県	6	0.2
74	男性・50-59歳・新潟県	6	0.2
75	男性・60-64歳・新潟県	3	0.1
76	男性・20-29歳・富山県	2	0.1
77	男性・30-39歳・富山県	3	0.1
78	男性・40-49歳・富山県	3	0.1
79	男性・50-59歳・富山県	3	0.1
80	男性・60-64歳・富山県	1	0.0
81	男性・20-29歳・石川県	3	0.1
82	男性・30-39歳・石川県	2	0.1
83	男性・40-49歳・石川県	3	0.1
84	男性・50-59歳・石川県	3	0.1
85	男性・60-64歳・石川県	1	0.0
86	男性・20-29歳・福井県	2	0.1
87	男性・30-39歳・福井県	2	0.1
88	男性・40-49歳・福井県	2	0.1
89	男性・50-59歳・福井県	2	0.1
90	男性・60-64歳・福井県	1	0.0
91	男性・20-29歳・山梨県	2	0.1
92	男性・30-39歳・山梨県	2	0.1
93	男性・40-49歳・山梨県	3	0.1
94	男性・50-59歳・山梨県	2	0.1
95	男性・60-64歳・山梨県	1	0.0
96	男性・20-29歳・長野県	4	0.1
97	男性・30-39歳・長野県	5	0.2
98	男性・40-49歳・長野県	6	0.2
99	男性・50-59歳・長野県	5	0.2
100	男性・60-64歳・長野県	3	0.1
101	男性・20-29歳・岐阜県	4	0.1
102	男性・30-39歳・岐阜県	4	0.1
103	男性・40-49歳・岐阜県	6	0.2
104	男性・50-59歳・岐阜県	5	0.2
105	男性・60-64歳・岐阜県	3	0.1
106	男性・20-29歳・静岡県	7	0.2
107	男性・30-39歳・静岡県	9	0.3
108	男性・40-49歳・静岡県	12	0.4
109	男性・50-59歳・静岡県	10	0.3
110	男性・60-64歳・静岡県	5	0.2
111	男性・20-29歳・愛知県	18	0.6
112	男性・30-39歳・愛知県	18	0.6
113	男性・40-49歳・愛知県	26	0.9
114	男性・50-59歳・愛知県	20	0.7
115	男性・60-64歳・愛知県	8	0.3
116	男性・20-29歳・三重県	4	0.1
117	男性・30-39歳・三重県	5	0.2

118	男性・40-49歳・三重県	6	0.2
119	男性・50-59歳・三重県	5	0.2
120	男性・60-64歳・三重県	2	0.1
121	男性・20-29歳・滋賀県	3	0.1
122	男性・30-39歳・滋賀県	4	0.1
123	男性・40-49歳・滋賀県	3	0.1
124	男性・50-59歳・滋賀県	4	0.1
125	男性・60-64歳・滋賀県	2	0.1
126	男性・20-29歳・京都府	6	0.2
127	男性・30-39歳・京都府	6	0.2
128	男性・40-49歳・京都府	8	0.3
129	男性・50-59歳・京都府	6	0.2
130	男性・60-64歳・京都府	3	0.1
131	男性・20-29歳・大阪府	18	0.6
132	男性・30-39歳・大阪府	21	0.7
133	男性・40-49歳・大阪府	27	0.9
134	男性・50-59歳・大阪府	23	0.8
135	男性・60-64歳・大阪府	10	0.3
136	男性・20-29歳・兵庫県	12	0.4
137	男性・30-39歳・兵庫県	13	0.4
138	男性・40-49歳・兵庫県	18	0.6
139	男性・50-59歳・兵庫県	14	0.5
140	男性・60-64歳・兵庫県	7	0.2
141	男性・20-29歳・奈良県	3	0.1
142	男性・30-39歳・奈良県	3	0.1
143	男性・40-49歳・奈良県	3	0.1
144	男性・50-59歳・奈良県	3	0.1
145	男性・60-64歳・奈良県	2	0.1
146	男性・20-29歳・和歌山県	2	0.1
147	男性・30-39歳・和歌山県	2	0.1
148	男性・40-49歳・和歌山県	3	0.1
149	男性・50-59歳・和歌山県	2	0.1
150	男性・60-64歳・和歌山県	1	0.0
151	男性・20-29歳・鳥取県	1	0.0
152	男性・30-39歳・鳥取県	1	0.0
153	男性・40-49歳・鳥取県	1	0.0
154	男性・50-59歳・鳥取県	1	0.0
155	男性・60-64歳・鳥取県	1	0.0
156	男性・20-29歳・島根県	1	0.0
157	男性・30-39歳・島根県	2	0.1
158	男性・40-49歳・島根県	2	0.1
159	男性・50-59歳・島根県	2	0.1
160	男性・60-64歳・島根県	1	0.0
161	男性・20-29歳・岡山県	4	0.1
162	男性・30-39歳・岡山県	5	0.2
163	男性・40-49歳・岡山県	5	0.2
164	男性・50-59歳・岡山県	5	0.2
165	男性・60-64歳・岡山県	2	0.1
166	男性・20-29歳・広島県	6	0.2
167	男性・30-39歳・広島県	7	0.2
168	男性・40-49歳・広島県	9	0.3
169	男性・50-59歳・広島県	7	0.2
170	男性・60-64歳・広島県	4	0.1
171	男性・20-29歳・山口県	3	0.1
172	男性・30-39歳・山口県	3	0.1
173	男性・40-49歳・山口県	4	0.1
174	男性・50-59歳・山口県	3	0.1
175	男性・60-64歳・山口県	2	0.1
176	男性・20-29歳・徳島県	1	0.0
177	男性・30-39歳・徳島県	2	0.1

178	男性・40-49歳・徳島県	2	0.1
179	男性・50-59歳・徳島県	2	0.1
180	男性・60-64歳・徳島県	1	0.0
181	男性・20-29歳・香川県	2	0.1
182	男性・30-39歳・香川県	2	0.1
183	男性・40-49歳・香川県	3	0.1
184	男性・50-59歳・香川県	2	0.1
185	男性・60-64歳・香川県	1	0.0
186	男性・20-29歳・愛媛県	3	0.1
187	男性・30-39歳・愛媛県	3	0.1
188	男性・40-49歳・愛媛県	4	0.1
189	男性・50-59歳・愛媛県	3	0.1
190	男性・60-64歳・愛媛県	2	0.1
191	男性・20-29歳・高知県	1	0.0
192	男性・30-39歳・高知県	2	0.1
193	男性・40-49歳・高知県	2	0.1
194	男性・50-59歳・高知県	2	0.1
195	男性・60-64歳・高知県	1	0.0
196	男性・20-29歳・福岡県	9	0.3
197	男性・30-39歳・福岡県	13	0.4
198	男性・40-49歳・福岡県	15	0.5
199	男性・50-59歳・福岡県	12	0.4
200	男性・60-64歳・福岡県	7	0.2
201	男性・20-29歳・佐賀県	2	0.1
202	男性・30-39歳・佐賀県	2	0.1
203	男性・40-49歳・佐賀県	2	0.1
204	男性・50-59歳・佐賀県	2	0.1
205	男性・60-64歳・佐賀県	1	0.0
206	男性・20-29歳・長崎県	1	0.0
207	男性・30-39歳・長崎県	3	0.1
208	男性・40-49歳・長崎県	4	0.1
209	男性・50-59歳・長崎県	4	0.1
210	男性・60-64歳・長崎県	2	0.1
211	男性・20-29歳・熊本県	3	0.1
212	男性・30-39歳・熊本県	3	0.1
213	男性・40-49歳・熊本県	5	0.2
214	男性・50-59歳・熊本県	4	0.1
215	男性・60-64歳・熊本県	3	0.1
216	男性・20-29歳・大分県	2	0.1
217	男性・30-39歳・大分県	3	0.1
218	男性・40-49歳・大分県	3	0.1
219	男性・50-59歳・大分県	3	0.1
220	男性・60-64歳・大分県	2	0.1
221	男性・20-29歳・宮崎県	2	0.1
222	男性・30-39歳・宮崎県	3	0.1
223	男性・40-49歳・宮崎県	3	0.1
224	男性・50-59歳・宮崎県	3	0.1
225	男性・60-64歳・宮崎県	2	0.1
226	男性・20-29歳・鹿児島県	3	0.1
227	男性・30-39歳・鹿児島県	4	0.1
228	男性・40-49歳・鹿児島県	4	0.1
229	男性・50-59歳・鹿児島県	4	0.1
230	男性・60-64歳・鹿児島県	3	0.1
231	男性・20-29歳・沖縄県	3	0.1
232	男性・30-39歳・沖縄県	4	0.1
233	男性・40-49歳・沖縄県	4	0.1
234	男性・50-59歳・沖縄県	4	0.1
235	男性・60-64歳・沖縄県	2	0.1
236	女性・20-29歳・北海道	10	0.3
237	女性・30-39歳・北海道	11	0.4

238	女性・40-49歳・北海道	16	0.6
239	女性・50-59歳・北海道	13	0.4
240	女性・60-64歳・北海道	8	0.3
241	女性・20-29歳・青森県	2	0.1
242	女性・30-39歳・青森県	2	0.1
243	女性・40-49歳・青森県	4	0.1
244	女性・50-59歳・青森県	4	0.1
245	女性・60-64歳・青森県	2	0.1
246	女性・20-29歳・岩手県	2	0.1
247	女性・30-39歳・岩手県	3	0.1
248	女性・40-49歳・岩手県	3	0.1
249	女性・50-59歳・岩手県	3	0.1
250	女性・60-64歳・岩手県	2	0.1
251	女性・20-29歳・宮城県	5	0.2
252	女性・30-39歳・宮城県	6	0.2
253	女性・40-49歳・宮城県	7	0.2
254	女性・50-59歳・宮城県	6	0.2
255	女性・60-64歳・宮城県	3	0.1
256	女性・20-29歳・秋田県	1	0.0
257	女性・30-39歳・秋田県	1	0.0
258	女性・40-49歳・秋田県	3	0.1
259	女性・50-59歳・秋田県	2	0.1
260	女性・60-64歳・秋田県	2	0.1
261	女性・20-29歳・山形県	1	0.0
262	女性・30-39歳・山形県	2	0.1
263	女性・40-49歳・山形県	3	0.1
264	女性・50-59歳・山形県	3	0.1
265	女性・60-64歳・山形県	2	0.1
266	女性・20-29歳・福島県	4	0.1
267	女性・30-39歳・福島県	4	0.1
268	女性・40-49歳・福島県	5	0.2
269	女性・50-59歳・福島県	5	0.2
270	女性・60-64歳・福島県	3	0.1
271	女性・20-29歳・茨城県	6	0.2
272	女性・30-39歳・茨城県	6	0.2
273	女性・40-49歳・茨城県	7	0.2
274	女性・50-59歳・茨城県	8	0.3
275	女性・60-64歳・茨城県	4	0.1
276	女性・20-29歳・栃木県	4	0.1
277	女性・30-39歳・栃木県	4	0.1
278	女性・40-49歳・栃木県	6	0.2
279	女性・50-59歳・栃木県	5	0.2
280	女性・60-64歳・栃木県	3	0.1
281	女性・20-29歳・群馬県	4	0.1
282	女性・30-39歳・群馬県	5	0.2
283	女性・40-49歳・群馬県	6	0.2
284	女性・50-59歳・群馬県	5	0.2
285	女性・60-64歳・群馬県	3	0.1
286	女性・20-29歳・埼玉県	16	0.6
287	女性・30-39歳・埼玉県	17	0.6
288	女性・40-49歳・埼玉県	23	0.8
289	女性・50-59歳・埼玉県	19	0.7
290	女性・60-64歳・埼玉県	9	0.3
291	女性・20-29歳・千葉県	13	0.4
292	女性・30-39歳・千葉県	15	0.5
293	女性・40-49歳・千葉県	20	0.7
294	女性・50-59歳・千葉県	15	0.5
295	女性・60-64歳・千葉県	8	0.3
296	女性・20-29歳・東京都	35	1.2
297	女性・30-39歳・東京都	42	1.4

298	女性・40-49歳・東京都	47	1.6
299	女性・50-59歳・東京都	36	1.2
300	女性・60-64歳・東京都	14	0.5
301	女性・20-29歳・神奈川県	18	0.6
302	女性・30-39歳・神奈川県	20	0.7
303	女性・40-49歳・神奈川県	30	1.0
304	女性・50-59歳・神奈川県	22	0.8
305	女性・60-64歳・神奈川県	10	0.3
306	女性・20-29歳・新潟県	4	0.1
307	女性・30-39歳・新潟県	5	0.2
308	女性・40-49歳・新潟県	6	0.2
309	女性・50-59歳・新潟県	6	0.2
310	女性・60-64歳・新潟県	3	0.1
311	女性・20-29歳・富山県	2	0.1
312	女性・30-39歳・富山県	2	0.1
313	女性・40-49歳・富山県	1	0.0
314	女性・50-59歳・富山県	3	0.1
315	女性・60-64歳・富山県	1	0.0
316	女性・20-29歳・石川県	2	0.1
317	女性・30-39歳・石川県	2	0.1
318	女性・40-49歳・石川県	4	0.1
319	女性・50-59歳・石川県	3	0.1
320	女性・60-64歳・石川県	2	0.1
321	女性・20-29歳・福井県	2	0.1
322	女性・30-39歳・福井県	2	0.1
323	女性・40-49歳・福井県	2	0.1
324	女性・50-59歳・福井県	2	0.1
325	女性・60-64歳・福井県	1	0.0
326	女性・20-29歳・山梨県	2	0.1
327	女性・30-39歳・山梨県	2	0.1
328	女性・40-49歳・山梨県	2	0.1
329	女性・50-59歳・山梨県	2	0.1
330	女性・60-64歳・山梨県	0	0.0
331	女性・20-29歳・長野県	4	0.1
332	女性・30-39歳・長野県	5	0.2
333	女性・40-49歳・長野県	5	0.2
334	女性・50-59歳・長野県	5	0.2
335	女性・60-64歳・長野県	3	0.1
336	女性・20-29歳・岐阜県	4	0.1
337	女性・30-39歳・岐阜県	5	0.2
338	女性・40-49歳・岐阜県	6	0.2
339	女性・50-59歳・岐阜県	5	0.2
340	女性・60-64歳・岐阜県	3	0.1
341	女性・20-29歳・静岡県	7	0.2
342	女性・30-39歳・静岡県	9	0.3
343	女性・40-49歳・静岡県	11	0.4
344	女性・50-59歳・静岡県	7	0.2
345	女性・60-64歳・静岡県	5	0.2
346	女性・20-29歳・愛知県	14	0.5
347	女性・30-39歳・愛知県	19	0.7
348	女性・40-49歳・愛知県	24	0.8
349	女性・50-59歳・愛知県	19	0.7
350	女性・60-64歳・愛知県	8	0.3
351	女性・20-29歳・三重県	3	0.1
352	女性・30-39歳・三重県	4	0.1
353	女性・40-49歳・三重県	5	0.2
354	女性・50-59歳・三重県	5	0.2
355	女性・60-64歳・三重県	2	0.1
356	女性・20-29歳・滋賀県	2	0.1
357	女性・30-39歳・滋賀県	3	0.1

358	女性・40-49歳・滋賀県	4	0.1
359	女性・50-59歳・滋賀県	4	0.1
360	女性・60-64歳・滋賀県	2	0.1
361	女性・20-29歳・京都府	6	0.2
362	女性・30-39歳・京都府	6	0.2
363	女性・40-49歳・京都府	8	0.3
364	女性・50-59歳・京都府	7	0.2
365	女性・60-64歳・京都府	3	0.1
366	女性・20-29歳・大阪府	18	0.6
367	女性・30-39歳・大阪府	23	0.8
368	女性・40-49歳・大阪府	27	0.9
369	女性・50-59歳・大阪府	20	0.7
370	女性・60-64歳・大阪府	10	0.3
371	女性・20-29歳・兵庫県	12	0.4
372	女性・30-39歳・兵庫県	14	0.5
373	女性・40-49歳・兵庫県	18	0.6
374	女性・50-59歳・兵庫県	14	0.5
375	女性・60-64歳・兵庫県	7	0.2
376	女性・20-29歳・奈良県	2	0.1
377	女性・30-39歳・奈良県	3	0.1
378	女性・40-49歳・奈良県	4	0.1
379	女性・50-59歳・奈良県	4	0.1
380	女性・60-64歳・奈良県	2	0.1
381	女性・20-29歳・和歌山県	2	0.1
382	女性・30-39歳・和歌山県	2	0.1
383	女性・40-49歳・和歌山県	3	0.1
384	女性・50-59歳・和歌山県	3	0.1
385	女性・60-64歳・和歌山県	1	0.0
386	女性・20-29歳・鳥取県	1	0.0
387	女性・30-39歳・鳥取県	1	0.0
388	女性・40-49歳・鳥取県	1	0.0
389	女性・50-59歳・鳥取県	1	0.0
390	女性・60-64歳・鳥取県	1	0.0
391	女性・20-29歳・島根県	1	0.0
392	女性・30-39歳・島根県	1	0.0
393	女性・40-49歳・島根県	2	0.1
394	女性・50-59歳・島根県	2	0.1
395	女性・60-64歳・島根県	1	0.0
396	女性・20-29歳・岡山県	4	0.1
397	女性・30-39歳・岡山県	5	0.2
398	女性・40-49歳・岡山県	6	0.2
399	女性・50-59歳・岡山県	5	0.2
400	女性・60-64歳・岡山県	2	0.1
401	女性・20-29歳・広島県	5	0.2
402	女性・30-39歳・広島県	7	0.2
403	女性・40-49歳・広島県	8	0.3
404	女性・50-59歳・広島県	7	0.2
405	女性・60-64歳・広島県	4	0.1
406	女性・20-29歳・山口県	2	0.1
407	女性・30-39歳・山口県	2	0.1
408	女性・40-49歳・山口県	4	0.1
409	女性・50-59歳・山口県	4	0.1
410	女性・60-64歳・山口県	2	0.1
411	女性・20-29歳・徳島県	1	0.0
412	女性・30-39歳・徳島県	2	0.1
413	女性・40-49歳・徳島県	2	0.1
414	女性・50-59歳・徳島県	2	0.1
415	女性・60-64歳・徳島県	1	0.0
416	女性・20-29歳・香川県	2	0.1
417	女性・30-39歳・香川県	2	0.1

418	女性・40-49歳・香川県	3	0.1
419	女性・50-59歳・香川県	2	0.1
420	女性・60-64歳・香川県	1	0.0
421	女性・20-29歳・愛媛県	3	0.1
422	女性・30-39歳・愛媛県	3	0.1
423	女性・40-49歳・愛媛県	4	0.1
424	女性・50-59歳・愛媛県	4	0.1
425	女性・60-64歳・愛媛県	2	0.1
426	女性・20-29歳・高知県	1	0.0
427	女性・30-39歳・高知県	2	0.1
428	女性・40-49歳・高知県	2	0.1
429	女性・50-59歳・高知県	2	0.1
430	女性・60-64歳・高知県	1	0.0
431	女性・20-29歳・福岡県	10	0.3
432	女性・30-39歳・福岡県	14	0.5
433	女性・40-49歳・福岡県	14	0.5
434	女性・50-59歳・福岡県	12	0.4
435	女性・60-64歳・福岡県	7	0.2
436	女性・20-29歳・佐賀県	1	0.0
437	女性・30-39歳・佐賀県	2	0.1
438	女性・40-49歳・佐賀県	2	0.1
439	女性・50-59歳・佐賀県	2	0.1
440	女性・60-64歳・佐賀県	1	0.0
441	女性・20-29歳・長崎県	2	0.1
442	女性・30-39歳・長崎県	3	0.1
443	女性・40-49歳・長崎県	3	0.1
444	女性・50-59歳・長崎県	4	0.1
445	女性・60-64歳・長崎県	2	0.1
446	女性・20-29歳・熊本県	3	0.1
447	女性・30-39歳・熊本県	4	0.1
448	女性・40-49歳・熊本県	5	0.2
449	女性・50-59歳・熊本県	5	0.2
450	女性・60-64歳・熊本県	3	0.1
451	女性・20-29歳・大分県	2	0.1
452	女性・30-39歳・大分県	2	0.1
453	女性・40-49歳・大分県	3	0.1
454	女性・50-59歳・大分県	3	0.1
455	女性・60-64歳・大分県	1	0.0
456	女性・20-29歳・宮崎県	2	0.1
457	女性・30-39歳・宮崎県	3	0.1
458	女性・40-49歳・宮崎県	3	0.1
459	女性・50-59歳・宮崎県	3	0.1
460	女性・60-64歳・宮崎県	2	0.1
461	女性・20-29歳・鹿児島県	3	0.1
462	女性・30-39歳・鹿児島県	4	0.1
463	女性・40-49歳・鹿児島県	4	0.1
464	女性・50-59歳・鹿児島県	5	0.2
465	女性・60-64歳・鹿児島県	3	0.1
466	女性・20-29歳・沖縄県	3	0.1
467	女性・30-39歳・沖縄県	4	0.1
468	女性・40-49歳・沖縄県	4	0.1
469	女性・50-59歳・沖縄県	4	0.1
470	女性・60-64歳・沖縄県	2	0.1

Q1a

問1a 居住都道府県

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	北海道	117	4.0
2	青森県	29	1.0
3	岩手県	27	0.9
4	宮城県	53	1.8
5	秋田県	20	0.7
6	山形県	24	0.8
7	福島県	43	1.5
8	茨城県	68	2.3
9	栃木県	45	1.6
10	群馬県	46	1.6
11	埼玉県	172	5.9
12	千葉県	146	5.0
13	東京都	351	12.1
14	神奈川県	213	7.3
15	新潟県	48	1.7
16	富山県	21	0.7
17	石川県	25	0.9
18	福井県	18	0.6
19	山梨県	18	0.6
20	長野県	45	1.6
21	岐阜県	45	1.6
22	静岡県	82	2.8
23	愛知県	174	6.0
24	三重県	41	1.4
25	滋賀県	31	1.1
26	京都府	59	2.0
27	大阪府	197	6.8
28	兵庫県	129	4.5
29	奈良県	29	1.0
30	和歌山県	21	0.7
31	鳥取県	10	0.3
32	島根県	15	0.5
33	岡山県	43	1.5
34	広島県	64	2.2
35	山口県	29	1.0
36	徳島県	16	0.6
37	香川県	20	0.7
38	愛媛県	31	1.1
39	高知県	16	0.6
40	福岡県	113	3.9
41	佐賀県	17	0.6
42	長崎県	28	1.0
43	熊本県	38	1.3
44	大分県	24	0.8
45	宮崎県	26	0.9
46	鹿児島県	37	1.3
47	沖縄県	34	1.2

Q2

問2 性別

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	男性	1476	50.9
2	女性	1422	49.1

Q3

問3 年齢

		回答数	%
全体		2898	100.0
	20	30	1.0
	21	45	1.6
	22	50	1.7
	23	38	1.3
	24	44	1.5
	25	40	1.4
	26	46	1.6
	27	67	2.3
	28	89	3.1
	29	70	2.4
	30	45	1.6
	31	69	2.4
	32	50	1.7
	33	59	2.0
	34	60	2.1
	35	53	1.8
	36	59	2.0
	37	65	2.2
	38	81	2.8
	39	83	2.9
	40	58	2.0
	41	73	2.5
	42	54	1.9
	43	90	3.1
	44	91	3.1
	45	89	3.1
	46	79	2.7
	47	85	2.9
	48	84	2.9
	49	72	2.5
	50	65	2.2
	51	68	2.3
	52	66	2.3
	53	80	2.8
	54	68	2.3
	55	60	2.1
	56	69	2.4
	57	61	2.1
	58	62	2.1
	59	57	2.0
	60	62	2.1
	61	61	2.1
	62	72	2.5
	63	66	2.3

64	63	2.2
----	----	-----

Qh3_1

問h3_1 生年

	回答数	%
全体	2898	100.0
1954	66	2.3
1955	69	2.4
1956	68	2.3
1957	63	2.2
1958	61	2.1
1959	58	2.0
1960	64	2.2
1961	63	2.2
1962	66	2.3
1963	59	2.0
1964	67	2.3
1965	83	2.9
1966	67	2.3
1967	64	2.2
1968	64	2.2
1969	78	2.7
1970	80	2.8
1971	83	2.9
1972	84	2.9
1973	91	3.1
1974	92	3.2
1975	84	2.9
1976	55	1.9
1977	74	2.6
1978	55	1.9
1979	84	2.9
1980	80	2.8
1981	68	2.3
1982	56	1.9
1983	52	1.8
1984	61	2.1
1985	63	2.2
1986	48	1.7
1987	67	2.3
1988	46	1.6
1989	74	2.6
1990	85	2.9
1991	64	2.2
1992	46	1.6
1993	45	1.6
1994	39	1.3
1995	43	1.5
1996	45	1.6
1997	45	1.6
1998	29	1.0

Qh3_2

問h3_2 生月

		回答数	%
全体		2898	100.0
1		230	7.9
2		228	7.9
3		224	7.7
4		246	8.5
5		249	8.6
6		255	8.8
7		264	9.1
8		258	8.9
9		251	8.7
10		224	7.7
11		205	7.1
12		264	9.1

Q4a

問4a 現在の仕事

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	経営者、役員	48	1.7
2	常時雇用されている一般従業者	1208	41.7
3	臨時雇用・パート・アルバイト	462	15.9
4	派遣社員	92	3.2
5	契約社員、嘱託	146	5.0
6	自営業主、自由業者	175	6.0
7	家族従業者	51	1.8
8	内職	26	0.9
9	無職：仕事を探している	136	4.7
10	無職：仕事を探していない	437	15.1
11	学生	117	4.0

Qh4b

問h4b 記述の有無

		回答数	%
全体		2182	100.0
1	記述あり	2021	92.6
10	わからない	161	7.4

Q4c

問4c 事業内容分類

		回答数	%
全体		2182	100.0
1	情報通信業	120	5.5
2	運輸業、郵便業（郵便局以外）	91	4.2
3	郵便局	9	0.4
4	卸売業、小売業	259	11.9
5	金融業、保険業	74	3.4
6	不動産業、物品賃貸業	47	2.2
7	学術研究、専門・技術サービス業	42	1.9
8	教育、学習支援業	104	4.8
9	医療、福祉	248	11.4
10	宿泊業、飲食サービス業	101	4.6
11	生活関連サービス業、娯楽業	52	2.4
12	その他のサービス業	214	9.8
13	製造業	366	16.8

14	電気・ガス・熱供給・水道業	29	1.3
15	建設業	106	4.9
16	農業、林業、漁業	25	1.1
17	鉱業、採石業、砂利採取業	2	0.1
18	公務	128	5.9
19	その他	89	4.1
20	わからない	76	3.5

Q4d_1

問4d_1 勤務開始時期 年

		回答数	%
全体		2010	100.0
	1954	1	0.0
	1967	1	0.0
	1971	1	0.0
	1974	1	0.0
	1975	6	0.3
	1976	3	0.1
	1977	4	0.2
	1978	4	0.2
	1979	3	0.1
	1980	10	0.5
	1981	6	0.3
	1982	13	0.6
	1983	9	0.4
	1984	16	0.8
	1985	32	1.6
	1986	15	0.7
	1987	13	0.6
	1988	11	0.5
	1989	19	0.9
	1990	33	1.6
	1991	17	0.8
	1992	22	1.1
	1993	28	1.4
	1994	15	0.7
	1995	19	0.9
	1996	21	1.0
	1997	25	1.2
	1998	34	1.7
	1999	22	1.1
	2000	43	2.1
	2001	25	1.2
	2002	35	1.7
	2003	44	2.2
	2004	41	2.0
	2005	42	2.1
	2006	37	1.8
	2007	54	2.7
	2008	71	3.5
	2009	52	2.6
	2010	70	3.5
	2011	63	3.1
	2012	91	4.5

	2013	92	4.6
	2014	103	5.1
	2015	136	6.8
	2016	157	7.8
	2017	182	9.1
	2018	268	13.3

Q4d_2

問4d_2 勤務開始時期 月

		回答数	%
全体		2010	100.0
1		107	5.3
2		101	5.0
3		116	5.8
4		787	39.2
5		116	5.8
6		119	5.9
7		104	5.2
8		96	4.8
9		100	5.0
10		154	7.7
11		113	5.6
12		97	4.8

Qh4d

問h4d 記述の有無

		回答数	%
全体		2182	100.0
1	記述あり	2010	92.1
10	わからない	172	7.9

Q4e

問4e 従業員数

		回答数	%
全体		2182	100.0
1	1人	122	5.6
2	2～4人	136	6.2
3	5～9人	123	5.6
4	10～29人	230	10.5
5	30～99人	301	13.8
6	100～299人	267	12.2
7	300～499人	133	6.1
8	500～999人	119	5.5
9	1000人以上	458	21.0
10	官公庁	92	4.2
11	わからない	201	9.2

Qh4f

問h4f 記述の有無

		回答数	%
全体		2208	100.0
1	記述あり	2007	90.9
10	わからない	201	9.1

Q4g

問4g 仕事内容分類

		回答数	%
全体		2208	100.0
1	管理的な仕事	168	7.6
2	専門的、技術的な仕事	495	22.4
3	事務的な仕事	575	26.0
4	通信的な仕事	9	0.4
5	保安的な仕事	24	1.1
6	建築請負的な仕事	26	1.2
7	運輸的な仕事	53	2.4
8	労務的な仕事	70	3.2
9	販売的な仕事	185	8.4
10	サービスの仕事	156	7.1
11	製造的な仕事	148	6.7
12	農林漁業の仕事	18	0.8
13	その他	217	9.8
14	わからない	64	2.9

Q4h

問4h 仕事内容 モノづくりかコミュニケーションか

		回答数	%
全体		2208	100.0
1	おもに自分でモノを作ったり扱ったりしている	402	18.2
2	モノを扱うことと、人とのコミュニケーションが半々ぐらい	440	19.9
3	どちらかといえば、人と接したりコミュニケーションをとることが多い	517	23.4
4	おもに人と接したりコミュニケーションをとっている	681	30.8
5	わからない	168	7.6

Q4i

問4i 役職

		回答数	%
全体		2182	100.0
1	役職なし	1505	69.0
2	監督、職長、班長、組長	87	4.0
3	係長、係長相当職	158	7.2
4	課長、課長相当職	150	6.9
5	部長、部長相当職	65	3.0
6	社長、重役、役員、理事	78	3.6
7	その他	62	2.8
8	わからない	77	3.5

Q4j

問4j 1日あたり勤務時間

		回答数	%
全体		2184	100.0
	0.0	8	0.4
	0.5	1	0.0
	1.0	12	0.5
	2.0	23	1.1
	3.0	52	2.4
	3.5	4	0.2
	3.7	1	0.0
	4.0	100	4.6
	4.2	1	0.0
	4.5	8	0.4
	5.0	139	6.4
	5.2	1	0.0

5.5	11	0.5
5.7	1	0.0
5.8	1	0.0
6.0	108	4.9
6.1	1	0.0
6.5	10	0.5
6.7	1	0.0
7.0	159	7.3
7.4	1	0.0
7.5	72	3.3
7.6	2	0.1
7.7	3	0.1
7.8	10	0.5
8.0	827	37.9
8.2	1	0.0
8.3	1	0.0
8.4	1	0.0
8.5	23	1.1
8.8	1	0.0
9.0	236	10.8
9.5	7	0.3
10.0	212	9.7
10.5	2	0.1
11.0	44	2.0
11.5	1	0.0
12.0	54	2.5
13.0	14	0.6
14.0	9	0.4
15.0	4	0.2
16.0	4	0.2
17.0	1	0.0
18.0	1	0.0
19.0	1	0.0
20.0	3	0.1
24.0	7	0.3

Q4j_2_1

問4j_2_1 勤務日数 週あたり

	回答数	%
全体	1890	100.0
0	5	0.3
1	8	0.4
2	32	1.7
3	107	5.7
4	117	6.2
5	1363	72.1
6	204	10.8
7	54	2.9

Q4j_2_2

問4j_2_2 勤務日数 月あたり

	回答数	%
全体	261	100.0
0	2	0.8
1	1	0.4
2	3	1.1

3	1	0.4
4	1	0.4
5	2	0.8
6	2	0.8
7	2	0.8
8	3	1.1
10	15	5.7
11	2	0.8
12	5	1.9
13	4	1.5
14	4	1.5
15	10	3.8
16	6	2.3
17	5	1.9
18	7	2.7
19	2	0.8
20	56	21.5
21	17	6.5
22	46	17.6
23	23	8.8
24	9	3.4
25	17	6.5
26	4	1.5
27	1	0.4
28	4	1.5
29	3	1.1
30	3	1.1
31	1	0.4

Q4k

問4k 仕事に必要な資格

		回答数	%
全体		2208	100.0
1	ある	600	27.2
2	ない	1534	69.5
3	わからない	74	3.4

Q5_1_1

問5_1_1 交流のある職業 大学教授 親類

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2785	96.1
1	あてはまる	113	3.9

Q5_1_2

問5_1_2 交流のある職業 大学教授 友人

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2769	95.5
1	あてはまる	129	4.5

Q5_1_3

問5_1_3 交流のある職業 大学教授 知り合い

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2513	86.7
1	あてはまる	385	13.3

Q5_1_4 問5_1_4 交流のある職業 大学教授 あてはまる人はいない

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	566	19.5
1	あてはまる	2332	80.5

Q5_2_1 問5_2_1 交流のある職業 弁護士 親類

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2849	98.3
1	あてはまる	49	1.7

Q5_2_2 問5_2_2 交流のある職業 弁護士 友人

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2775	95.8
1	あてはまる	123	4.2

Q5_2_3 問5_2_3 交流のある職業 弁護士 知り合い

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2603	89.8
1	あてはまる	295	10.2

Q5_2_4 問5_2_4 交流のある職業 弁護士 あてはまる人はいない

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	432	14.9
1	あてはまる	2466	85.1

Q5_3_1 問5_3_1 交流のある職業 看護師 親類

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2453	84.6
1	あてはまる	445	15.4

Q5_3_2 問5_3_2 交流のある職業 看護師 友人

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2329	80.4
1	あてはまる	569	19.6

Q5_3_3 問5_3_3 交流のある職業 看護師 知り合い

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2278	78.6
1	あてはまる	620	21.4

Q5_3_4 問5_3_4 交流のある職業 看護師 あてはまる人はいない

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	1362	47.0
1	あてはまる	1536	53.0

Q5_4_1 問5_4_1 交流のある職業 中学校の教員 親類

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2750	94.9
1	あてはまる	148	5.1

Q5_4_2 問5_4_2 交流のある職業 中学校の教員 友人

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2594	89.5
1	あてはまる	304	10.5

Q5_4_3 問5_4_3 交流のある職業 中学校の教員 知り合い

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2543	87.8
1	あてはまる	355	12.2

Q5_4_4 問5_4_4 交流のある職業 中学校の教員 あてはまる人はいない

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	730	25.2
1	あてはまる	2168	74.8

Q5_5_1 問5_5_1 交流のある職業 情報処理技術者 親類

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2741	94.6
1	あてはまる	157	5.4

Q5_5_2 問5_5_2 交流のある職業 情報処理技術者 友人

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2616	90.3
1	あてはまる	282	9.7

Q5_5_3 問5_5_3 交流のある職業 情報処理技術者 知り合い

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2571	88.7
1	あてはまる	327	11.3

Q5_5_4 問5_5_4 交流のある職業 情報処理技術者 あてはまる人はいない

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	664	22.9
1	あてはまる	2234	77.1

Q5_6_1 問5_6_1 交流のある職業 人事担当者 親類

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2822	97.4
1	あてはまる	76	2.6

Q5_6_2 問5_6_2 交流のある職業 人事担当者 友人

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2697	93.1
1	あてはまる	201	6.9

Q5_6_3 問5_6_3 交流のある職業 人事担当者 知り合い

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2499	86.2
1	あてはまる	399	13.8

Q5_6_4 問5_6_4 交流のある職業 人事担当者 あてはまる人はいない

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	607	20.9
1	あてはまる	2291	79.1

Q5_7_1 問5_7_1 交流のある職業 農業従事者 親類

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2464	85.0
1	あてはまる	434	15.0

Q5_7_2 問5_7_2 交流のある職業 農業従事者 友人

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2678	92.4
1	あてはまる	220	7.6

Q5_7_3 問5_7_3 交流のある職業 農業従事者 知り合い

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2456	84.7
1	あてはまる	442	15.3

Q5_7_4 問5_7_4 交流のある職業 農業従事者 あてはまる人はいない

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	947	32.7
1	あてはまる	1951	67.3

Q5_8_1 問5_8_1 交流のある職業 美容師・理容師 親類

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2717	93.8
1	あてはまる	181	6.2

Q5_8_2 問5_8_2 交流のある職業 美容師・理容師 友人

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2483	85.7
1	あてはまる	415	14.3

Q5_8_3 問5_8_3 交流のある職業 美容師・理容師 知り合い

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2296	79.2
1	あてはまる	602	20.8

Q5_8_4 問5_8_4 交流のある職業 美容師・理容師 あてはまる人はいない

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	1072	37.0
1	あてはまる	1826	63.0

Q5_9_1 問5_9_1 交流のある職業 受付係 親類

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2861	98.7
1	あてはまる	37	1.3

Q5_9_2 問5_9_2 交流のある職業 受付係 友人

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2720	93.9
1	あてはまる	178	6.1

Q5_9_3 問5_9_3 交流のある職業 受付係 知り合い

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2646	91.3
1	あてはまる	252	8.7

Q5_9_4 問5_9_4 交流のある職業 受付係 あてはまる人はいない

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	416	14.4
1	あてはまる	2482	85.6

Q5_10_1 問5_10_1 交流のある職業 警察官 親類

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2710	93.5
1	あてはまる	188	6.5

Q5_10_2 問5_10_2 交流のある職業 警察官 友人

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2608	90.0
1	あてはまる	290	10.0

Q5_10_3 問5_10_3 交流のある職業 警察官 知り合い

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	2511	86.6
1	あてはまる	387	13.4

Q5_10_4 問5_10_4 交流のある職業 警察官 あてはまる人はいない

		回答数	%
全体		2898	100.0
0	あてはまらない	781	26.9
1	あてはまる	2117	73.1

Q6 問6 中学3年生時成績

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	上の方	527	18.2
2	やや上の方	774	26.7
3	真ん中のあたり	926	32.0
4	やや下の方	341	11.8
5	下の方	300	10.4
6	わからない	30	1.0

Q7 問7 最終学歴

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	中学校	48	1.7
2	中学校卒業後、専門学校（専修学校）	27	0.9
3	高等学校	770	26.6
4	高等学校卒業後、専門学校	353	12.2
5	短期大学・高等専門学校	346	11.9
6	大学	1191	41.1
7	大学院修士課程	137	4.7
8	大学院博士課程	22	0.8
9	その他・どれにあたるか判断できない	4	0.1

Qh8 問h8 記述の有無

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	記述あり	2204	76.1
10	わからない	694	23.9

Qh9a 問h9a 記述の有無

		回答数	%
全体		2080	100.0
1	記述あり	1802	86.6
10	わからない	278	13.4

Q9b

問9b 高校の学科

		回答数	%
全体		770	100.0
1	普通科・理数科・英数科・英語科・国際科	380	49.4
2	工業に関する学科	120	15.6
3	商業に関する学科	178	23.1
4	農業・水産に関する学科	19	2.5
5	看護・介護・福祉・保育に関する学科	7	0.9
6	家庭・家政・衛生に関する学科	22	2.9
7	芸術・体育に関する学科	4	0.5
8	総合学科	9	1.2
9	その他	21	2.7
10	わからない	10	1.3

Q10_1

問10_1 社会のなかでどれくらい役に立っているか 教育学

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	役に立っている	256	8.8
2	どちらかといえば役に立っている	1012	34.9
3	どちらかといえば役に立っていない	745	25.7
4	役に立っていない	561	19.4
5	わからない	324	11.2

Q10_2

問10_2 社会のなかでどれくらい役に立っているか 歴史学

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	役に立っている	192	6.6
2	どちらかといえば役に立っている	850	29.3
3	どちらかといえば役に立っていない	868	30.0
4	役に立っていない	772	26.6
5	わからない	216	7.5

Q10_3

問10_3 社会のなかでどれくらい役に立っているか 哲学

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	役に立っている	158	5.5
2	どちらかといえば役に立っている	696	24.0
3	どちらかといえば役に立っていない	924	31.9
4	役に立っていない	823	28.4
5	わからない	297	10.2

Q10_4

問10_4 社会のなかでどれくらい役に立っているか 経済学

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	役に立っている	415	14.3
2	どちらかといえば役に立っている	1091	37.6
3	どちらかといえば役に立っていない	664	22.9
4	役に立っていない	533	18.4
5	わからない	195	6.7

Q10_5 問10_5 社会のなかでどれくらい役に立っているか 政治学

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	役に立っている	268	9.2
2	どちらかといえば役に立っている	928	32.0
3	どちらかといえば役に立っていない	810	28.0
4	役に立っていない	668	23.1
5	わからない	224	7.7

Q10_6 問10_6 社会のなかでどれくらい役に立っているか 数学

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	役に立っている	498	17.2
2	どちらかといえば役に立っている	1176	40.6
3	どちらかといえば役に立っていない	680	23.5
4	役に立っていない	422	14.6
5	わからない	122	4.2

Q10_7 問10_7 社会のなかでどれくらい役に立っているか 物理学

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	役に立っている	417	14.4
2	どちらかといえば役に立っている	820	28.3
3	どちらかといえば役に立っていない	822	28.4
4	役に立っていない	642	22.2
5	わからない	197	6.8

Q10_8 問10_8 社会のなかでどれくらい役に立っているか 工学

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	役に立っている	526	18.2
2	どちらかといえば役に立っている	796	27.5
3	どちらかといえば役に立っていない	717	24.7
4	役に立っていない	616	21.3
5	わからない	243	8.4

Q10_9 問10_9 社会のなかでどれくらい役に立っているか 農学

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	役に立っている	512	17.7
2	どちらかといえば役に立っている	778	26.8
3	どちらかといえば役に立っていない	634	21.9
4	役に立っていない	699	24.1
5	わからない	275	9.5

Q10_10 問10_10 社会のなかでどれくらい役に立っているか 医学

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	役に立っている	889	30.7
2	どちらかといえば役に立っている	746	25.7
3	どちらかといえば役に立っていない	480	16.6
4	役に立っていない	547	18.9
5	わからない	236	8.1

Q11

問11 卒業後就業した仕事

		回答数	%
全体			
1	ある		
2	一度もない		
3	わからない		

Q12a

問12a 初職時年齢

		回答数	%
全体		2641	100.0
13		1	0.0
14		2	0.1
15		19	0.7
16		52	2.0
17		26	1.0
18		582	22.0
19		149	5.6
20		386	14.6
21		158	6.0
22		626	23.7
23		278	10.5
24		154	5.8
25		75	2.8
26		25	0.9
27		15	0.6
28		19	0.7
29		7	0.3
30		6	0.2
31		5	0.2
33		7	0.3
34		2	0.1
35		4	0.2
36		3	0.1
37		2	0.1
38		4	0.2
39		3	0.1
40		3	0.1
41		1	0.0
43		4	0.2
46		2	0.1
47		4	0.2
48		1	0.0
49		3	0.1
50		2	0.1
51		2	0.1
52		1	0.0
53		1	0.0
55		3	0.1
56		1	0.0
57		1	0.0
58		1	0.0
59		1	0.0

Qh12a

問h12a 記述の有無

		回答数	%
全体		2759	100.0
1	記述あり	2641	95.7
10	わからない	118	4.3

Q12b

問12b 転勤・退職経験

		回答数	%
全体		2759	100.0
1	現在まで同じ勤め先	603	21.9
2	一度だけやめた	652	23.6
3	二度やめた	494	17.9
4	三度以上やめた	922	33.4
5	わからない	88	3.2

Q13_1

問13_1 中学3年生時の希望学歴

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	中学まで	35	1.2
2	高校まで	572	19.7
3	短大・高専まで	260	9.0
4	大学まで	1363	47.0
5	大学院まで	60	2.1
6	その他	17	0.6
7	何も考えていなかった	512	17.7
8	わからない	79	2.7

Q13_2

問13_2 初職時に必要だと感じた学歴

		回答数	%
全体		2068	100.0
1	中学まで	86	4.2
2	高校まで	715	34.6
3	短大・高専まで	278	13.4
4	大学まで	544	26.3
5	大学院まで	26	1.3
6	その他	18	0.9
8	わからない	401	19.4

Q13_3

問13_3 現職に必要なと感じる学歴

		回答数	%
全体		2213	100.0
1	中学まで	152	6.9
2	高校まで	747	33.8
3	短大・高専まで	209	9.4
4	大学まで	646	29.2
5	大学院まで	68	3.1
6	その他	23	1.0
8	わからない	368	16.6

Q14a

問14a 未既婚

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	結婚している（事実婚を含む）	1673	57.7
2	未婚（結婚したことがない）	1004	34.6
3	離別	186	6.4
4	死別	24	0.8
5	わからない	11	0.4

Q14b

問14b 現在の配偶者との結婚年齢

		回答数	%
全体		1648	100.0
	18	7	0.4
	19	8	0.5
	20	17	1.0
	21	34	2.1
	22	69	4.2
	23	91	5.5
	24	109	6.6
	25	184	11.2
	26	152	9.2
	27	152	9.2
	28	143	8.7
	29	126	7.6
	30	103	6.3
	31	55	3.3
	32	65	3.9
	33	60	3.6
	34	33	2.0
	35	53	3.2
	36	33	2.0
	37	25	1.5
	38	22	1.3
	39	26	1.6
	40	16	1.0
	41	3	0.2
	42	12	0.7
	43	11	0.7
	44	4	0.2
	45	6	0.4
	46	2	0.1
	47	2	0.1
	48	3	0.2
	49	1	0.1
	50	2	0.1
	51	1	0.1
	52	2	0.1
	53	2	0.1
	54	3	0.2
	55	1	0.1
	56	2	0.1
	57	3	0.2
	61	2	0.1

	62	3	0.2
--	----	---	-----

Qh14b

問h14b 記述の有無

		回答数	%
全体		1673	100.0
1	記述あり	1648	98.5
10	わからない	25	1.5

Q15

問15 配偶者の最終学歴

		回答数	%
全体		1673	100.0
1	中学校	24	1.4
2	中学校卒業後、専門学校（専修学校）	12	0.7
3	高等学校	494	29.5
4	高等学校卒業後、専門学校	196	11.7
5	短期大学・高等専門学校	247	14.8
6	大学	610	36.5
7	大学院	58	3.5
8	その他	1	0.1
9	わからない	31	1.9

Q16a

問16a 配偶者の仕事 現在の仕事

		回答数	%
全体		1673	100.0
1	経営者、役員	73	4.4
2	常時雇用されている一般従業者	859	51.3
3	臨時雇用・パート・アルバイト	240	14.3
4	派遣社員	17	1.0
5	契約社員、嘱託	63	3.8
6	自営業主、自由業者	109	6.5
7	家族従業者	41	2.5
8	内職	7	0.4
9	無職：仕事を探している	19	1.1
10	無職：仕事を探していない	224	13.4
11	学生	2	0.1
12	わからない	19	1.1

Q16b

問16b 配偶者の仕事 従業員数

		回答数	%
全体		1402	100.0
1	1人	69	4.9
2	2～4人	79	5.6
3	5～9人	70	5.0
4	10～29人	119	8.5
5	30～99人	159	11.3
6	100～299人	119	8.5
7	300～499人	47	3.4
8	500～999人	48	3.4
9	1000人以上	232	16.5
10	官公庁	70	5.0
11	わからない	390	27.8

Q16c

問16c 配偶者の仕事 役職

		回答数	%
全体		1402	100.0
1	役職なし	838	59.8
2	監督、職長、班長、組長	85	6.1
3	係長、係長相当職	102	7.3
4	課長、課長相当職	101	7.2
5	部長、部長相当職	68	4.9
6	社長、重役、役員、理事	67	4.8
7	その他	33	2.4
8	わからない	108	7.7

Q17a

問17a 家族人数

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	1人 あなたご自身のみ	540	18.6
2	2人	745	25.7
3	3人	745	25.7
4	4人	594	20.5
5	5人	176	6.1
6	6人	54	1.9
7	7人	20	0.7
8	8人	6	0.2
9	9人	1	0.0
10	10人以上	0	0.0
11	わからない	17	0.6

Q17b_1

問17b_1 同居家族 あなたご自身

		回答数	%
全体		2358	100.0
1	あてはまる	2358	100.0

Q17b_2

問17b_2 同居家族 配偶者

		回答数	%
全体		2358	100.0
0	あてはまらない	728	30.9
1	あてはまる	1630	69.1

Q17b_3

問17b_3 同居家族 子ども

		回答数	%
全体		2358	100.0
0	あてはまらない	1215	51.5
1	あてはまる	1143	48.5

Q17b_4

問17b_4 同居家族 子どもの配偶者

		回答数	%
全体		2358	100.0
0	あてはまらない	2351	99.7
1	あてはまる	7	0.3

Q17b_5 問17b_5 同居家族 あなたの兄弟姉妹

		回答数	%
全体		2358	100.0
0	あてはまらない	2126	90.2
1	あてはまる	232	9.8

Q17b_6 問17b_6 同居家族 あなたの父親

		回答数	%
全体		2358	100.0
0	あてはまらない	1907	80.9
1	あてはまる	451	19.1

Q17b_7 問17b_7 同居家族 あなたの母親

		回答数	%
全体		2358	100.0
0	あてはまらない	1712	72.6
1	あてはまる	646	27.4

Q17b_8 問17b_8 同居家族 配偶者の父親

		回答数	%
全体		2358	100.0
0	あてはまらない	2320	98.4
1	あてはまる	38	1.6

Q17b_9 問17b_9 同居家族 配偶者の母親

		回答数	%
全体		2358	100.0
0	あてはまらない	2291	97.2
1	あてはまる	67	2.8

Q17b_10 問17b_10 同居家族 祖父母

		回答数	%
全体		2358	100.0
0	あてはまらない	2293	97.2
1	あてはまる	65	2.8

Q17b_11 問17b_11 同居家族 あなたの孫

		回答数	%
全体		2358	100.0
0	あてはまらない	2345	99.4
1	あてはまる	13	0.6

Q17b_12 問17b_12 同居家族 その他

		回答数	%
全体		2358	100.0
0	あてはまらない	2313	98.1
1	あてはまる	45	1.9

Q17b_13 問17b_13 同居家族 わからない

		回答数	%
全体		2358	100.0
0	あてはまらない	2358	100.0
1	あてはまる	0	0.0

Q18a 問18a 子供について

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	いる	1484	51.2
2	いない	1404	48.4
3	わからない	10	0.3

Q18b 問18b 子供人数

		回答数	%
全体		1477	100.0
1		478	32.4
2		742	50.2
3		217	14.7
4		34	2.3
5		6	0.4

Qh18b 問h18b 記述の有無

		回答数	%
全体		1484	100.0
1	記述あり	1477	99.5
10	わからない	7	0.5

Q18c 問18c 子供生年 1 番上の子供

		回答数	%
全体		1444	100.0
	1954	1	0.1
	1957	1	0.1
	1961	1	0.1
	1970	1	0.1
	1974	1	0.1
	1977	5	0.3
	1978	4	0.3
	1979	8	0.6
	1980	26	1.8
	1981	24	1.7
	1982	16	1.1
	1983	33	2.3
	1984	28	1.9
	1985	31	2.1
	1986	41	2.8
	1987	35	2.4
	1988	36	2.5
	1989	27	1.9
	1990	40	2.8
	1991	40	2.8
	1992	37	2.6
	1993	29	2.0
	1994	41	2.8
	1995	40	2.8
	1996	37	2.6
	1997	44	3.0
	1998	44	3.0
	1999	50	3.5

	2000	40	2.8
	2001	31	2.1
	2002	41	2.8
	2003	30	2.1
	2004	32	2.2
	2005	34	2.4
	2006	35	2.4
	2007	39	2.7
	2008	39	2.7
	2009	43	3.0
	2010	34	2.4
	2011	32	2.2
	2012	52	3.6
	2013	39	2.7
	2014	33	2.3
	2015	45	3.1
	2016	42	2.9
	2017	37	2.6
	2018	45	3.1

Qh18c

問h18c 記述の有無

		回答数	%
全体		1484	100.0
1	記述あり	1444	97.3
10	わからない	40	2.7

Q18c_2

問18c_2 子供生年 1番下の子供

		回答数	%
全体		975	100.0
	1960	1	0.1
	1962	1	0.1
	1963	1	0.1
	1973	1	0.1
	1980	3	0.3
	1981	4	0.4
	1982	10	1.0
	1983	10	1.0
	1984	18	1.8
	1985	17	1.7
	1986	15	1.5
	1987	19	1.9
	1988	27	2.8
	1989	30	3.1
	1990	26	2.7
	1991	26	2.7
	1992	31	3.2
	1993	23	2.4
	1994	27	2.8
	1995	30	3.1
	1996	35	3.6
	1997	24	2.5
	1998	32	3.3
	1999	33	3.4

	2000	27	2.8
	2001	28	2.9
	2002	31	3.2
	2003	22	2.3
	2004	29	3.0
	2005	14	1.4
	2006	32	3.3
	2007	20	2.1
	2008	27	2.8
	2009	29	3.0
	2010	31	3.2
	2011	27	2.8
	2012	26	2.7
	2013	22	2.3
	2014	29	3.0
	2015	30	3.1
	2016	26	2.7
	2017	30	3.1
	2018	51	5.2

Qh18c_2

問h18c_2 記述の有無

		回答数	%
全体		999	100.0
1	記述あり	975	97.6
10	わからない	24	2.4

Q19_1

問19_1 子どもに希望する学歴

		回答数	%
全体		1484	100.0
1	中学	4	0.3
2	高校	168	11.3
3	専門学校	68	4.6
4	短大・高専	50	3.4
5	大学	719	48.5
6	大学院	58	3.9
7	その他	4	0.3
8	高校生以下の子どもはいない	309	20.8
9	わからない	104	7.0

Q19_2

問19_2 子どもが現実的に進むと思う学歴

		回答数	%
全体		1484	100.0
1	中学	0	0.0
2	高校	145	9.8
3	専門学校	66	4.4
4	短大・高専	52	3.5
5	大学	655	44.1
6	大学院	52	3.5
7	その他	2	0.1
8	高校生以下の子どもはいない	340	22.9
9	わからない	172	11.6

Q20_1

問20_1 満足度 生活全般

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	満足している	180	6.2
2	どちらかといえば満足している	1121	38.7
3	どちらともいえない	736	25.4
4	どちらかといえば不満である	479	16.5
5	不満である	372	12.8
6	わからない	10	0.3

Q20_2

問20_2 満足度 自分の学歴

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	満足している	318	11.0
2	どちらかといえば満足している	890	30.7
3	どちらともいえない	919	31.7
4	どちらかといえば不満である	460	15.9
5	不満である	285	9.8
6	わからない	26	0.9

Q20_3

問20_3 満足度 日本社会

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	満足している	40	1.4
2	どちらかといえば満足している	396	13.7
3	どちらともいえない	973	33.6
4	どちらかといえば不満である	843	29.1
5	不満である	620	21.4
6	わからない	26	0.9

Q20_4

問20_4 満足度 自分の住んでいる地域

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	満足している	192	6.6
2	どちらかといえば満足している	1008	34.8
3	どちらともいえない	971	33.5
4	どちらかといえば不満である	429	14.8
5	不満である	286	9.9
6	わからない	12	0.4

Q21

問21 階層帰属意識

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	上	36	1.2
2	中の上	643	22.2
3	中の下	1146	39.5
4	下の上	619	21.4
5	下の下	354	12.2
6	わからない	100	3.5

Q22

問22 健康状態

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	よい	276	9.5
2	まあよい	689	23.8
3	ふつう	1186	40.9
4	あまりよくない	548	18.9
5	わるい	187	6.5
6	わからない	12	0.4

Q23_1

問23_1 過去30日間にあった事 神経過敏に感じた

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	全くない	1008	34.8
2	少しだけ	868	30.0
3	ときどき	717	24.7
4	たいてい	190	6.6
5	いつも	115	4.0

Q23_2

問23_2 過去30日間にあった事 絶望的だと感じた

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	全くない	1366	47.1
2	少しだけ	719	24.8
3	ときどき	529	18.3
4	たいてい	171	5.9
5	いつも	113	3.9

Q23_3

問23_3 過去30日間にあった事 落ち着かなく感じた

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	全くない	1102	38.0
2	少しだけ	958	33.1
3	ときどき	591	20.4
4	たいてい	168	5.8
5	いつも	79	2.7

Q23_4

問23_4 過去30日間にあった事 気分が沈み込んだ

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	全くない	1068	36.9
2	少しだけ	895	30.9
3	ときどき	639	22.0
4	たいてい	184	6.3
5	いつも	112	3.9

Q23_5

問23_5 過去30日間にあった事 何でも骨折りと感じた

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	全くない	1114	38.4
2	少しだけ	892	30.8
3	ときどき	611	21.1
4	たいてい	187	6.5
5	いつも	94	3.2

Q23_6

問23_6 過去30日間にあった事 価値のない人間だ

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	全くない	1414	48.8
2	少しだけ	661	22.8
3	ときどき	493	17.0
4	たいてい	167	5.8
5	いつも	163	5.6

Q24_1

問24_1 組織参加 教会・宗教組織

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	頻繁に参加している	50	1.7
2	たまに参加している	130	4.5
3	参加していない	2642	91.2
4	わからない	76	2.6

Q24_2

問24_2 組織参加 スポーツ・娯楽グループ

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	頻繁に参加している	151	5.2
2	たまに参加している	485	16.7
3	参加していない	2209	76.2
4	わからない	53	1.8

Q24_3

問24_3 組織参加 芸術・教養グループ

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	頻繁に参加している	50	1.7
2	たまに参加している	214	7.4
3	参加していない	2585	89.2
4	わからない	49	1.7

Q24_4

問24_4 組織参加 労働組合・同業者組合

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	頻繁に参加している	23	0.8
2	たまに参加している	168	5.8
3	参加していない	2645	91.3
4	わからない	62	2.1

Q24_5

問24_5 組織参加 政党

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	頻繁に参加している	8	0.3
2	たまに参加している	51	1.8
3	参加していない	2796	96.5
4	わからない	43	1.5

Q24_6

問24_6 組織参加 環境保護団体

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	頻繁に参加している	6	0.2
2	たまに参加している	39	1.3
3	参加していない	2812	97.0
4	わからない	41	1.4

Q24_7

問24_7 組織参加 人権・慈善団体

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	頻繁に参加している	6	0.2
2	たまに参加している	45	1.6
3	参加していない	2804	96.8
4	わからない	43	1.5

Q24_8

問24_8 組織参加 自治組織・互助援助グループ

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	頻繁に参加している	29	1.0
2	たまに参加している	182	6.3
3	参加していない	2635	90.9
4	わからない	52	1.8

Q24_9

問24_9 組織参加 消費者団体

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	頻繁に参加している	5	0.2
2	たまに参加している	19	0.7
3	参加していない	2832	97.7
4	わからない	42	1.4

Q24_10

問24_10 組織参加 ボランティア団体

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	頻繁に参加している	32	1.1
2	たまに参加している	158	5.5
3	参加していない	2670	92.1
4	わからない	38	1.3

Q25_1 問25_1 同性どうして恋愛をする人への気持ち

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	好ましい	248	8.6
2	やや好ましい	335	11.6
3	あまり好ましくない	498	17.2
4	好ましくない	294	10.1
5	好ましさ考えたことがない	1083	37.4
6	わからない	440	15.2

Q25_2 問25_2 移民や外国人労働者への気持ち

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	好ましい	133	4.6
2	やや好ましい	510	17.6
3	あまり好ましくない	801	27.6
4	好ましくない	451	15.6
5	好ましさ考えたことがない	705	24.3
6	わからない	298	10.3

Q26a_1 問26a_1 同性どうして恋愛をする人への意見 あなたの近所に住むこと

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	賛成	573	19.8
2	やや賛成	563	19.4
3	やや反対	466	16.1
4	反対	307	10.6
5	わからない	989	34.1

Q26a_2 問26a_2 同性どうして恋愛をする人への意見 あなたと同じ職場で働くこと

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	賛成	638	22.0
2	やや賛成	659	22.7
3	やや反対	438	15.1
4	反対	299	10.3
5	わからない	864	29.8

Q26a_3 問26a_3 同性どうして恋愛をする人への意見 あなたの地域の福祉サービスや補助金を利用すること

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	賛成	662	22.8
2	やや賛成	672	23.2
3	やや反対	379	13.1
4	反対	343	11.8
5	わからない	842	29.1

Q26a_4

問26a_4 同性どうして恋愛をする人への意見 あなたの家族のどれかと結婚したり、養子縁組したりすること

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	賛成	440	15.2
2	やや賛成	445	15.4
3	やや反対	558	19.3
4	反対	655	22.6
5	わからない	800	27.6

Q26b_1

問26b_1 移民や外国人労働者への意見 あなたの近所に住むこと

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	賛成	325	11.2
2	やや賛成	595	20.5
3	やや反対	856	29.5
4	反対	497	17.1
5	わからない	625	21.6

Q26b_2

問26b_2 移民や外国人労働者への意見 あなたと同じ職場で働くこと

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	賛成	454	15.7
2	やや賛成	884	30.5
3	やや反対	574	19.8
4	反対	389	13.4
5	わからない	597	20.6

Q26b_3

問26b_3 移民や外国人労働者への意見 あなたの地域の福祉サービスや補助金を利用すること

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	賛成	369	12.7
2	やや賛成	685	23.6
3	やや反対	643	22.2
4	反対	531	18.3
5	わからない	670	23.1

Q26b_4

問26b_4 移民や外国人労働者への意見 あなたの家族のどれかと結婚したり、養子縁組したりすること

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	賛成	295	10.2
2	やや賛成	585	20.2
3	やや反対	614	21.2
4	反対	669	23.1
5	わからない	735	25.4

Q27_1 問27_1 意見評価 日本人であることに誇りを感じる

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	571	19.7
2	どちらかといえばそう思う	1180	40.7
3	どちらともいえない	798	27.5
4	どちらかといえばそう思わない	160	5.5
5	そう思わない	135	4.7
6	わからない	54	1.9

Q27_2 問27_2 意見評価 たとえ自分の国が間違っている場合でも、国民は自分の国を支持すべきだ

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	139	4.8
2	どちらかといえばそう思う	382	13.2
3	どちらともいえない	878	30.3
4	どちらかといえばそう思わない	576	19.9
5	そう思わない	837	28.9
6	わからない	86	3.0

Q27_3 問27_3 意見評価 たとえ日本国籍を取得しても、民族・人種が違うことで一定の差別を受けるのは仕方がない

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	123	4.2
2	どちらかといえばそう思う	390	13.5
3	どちらともいえない	842	29.1
4	どちらかといえばそう思わない	563	19.4
5	そう思わない	866	29.9
6	わからない	114	3.9

Q27_4 問27_4 意見評価 日本国内で日本人と外国人や少数民族の人たちとの法的平等を認めようとするのは、間違いだ

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	217	7.5
2	どちらかといえばそう思う	442	15.3
3	どちらともいえない	958	33.1
4	どちらかといえばそう思わない	444	15.3
5	そう思わない	610	21.0
6	わからない	227	7.8

Q27_5 問27_5 意見評価 外国人や少数民族の人たちは、平等の名の下に過剰な要求をしている

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	309	10.7
2	どちらかといえばそう思う	515	17.8
3	どちらともいえない	1022	35.3
4	どちらかといえばそう思わない	377	13.0
5	そう思わない	342	11.8
6	わからない	333	11.5

Q28_1 問28_1 意見評価 自分は社会からのけ者にされている

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	76	2.6
2	どちらかといえばそう思う	172	5.9
3	どちらともいえない	570	19.7
4	どちらかといえばそう思わない	544	18.8
5	そう思わない	1449	50.0
6	わからない	87	3.0

Q28_2 問28_2 意見評価 今や人生はとても複雑なものになってしまったので、自分がどうすればいいか、ほとんどわからない

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	166	5.7
2	どちらかといえばそう思う	431	14.9
3	どちらともいえない	801	27.6
4	どちらかといえばそう思わない	487	16.8
5	そう思わない	927	32.0
6	わからない	86	3.0

Q28_3 問28_3 意見評価 自分のすることの価値を、他の人たちは認めてくれない

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	102	3.5
2	どちらかといえばそう思う	290	10.0
3	どちらともいえない	887	30.6
4	どちらかといえばそう思わない	544	18.8
5	そう思わない	964	33.3
6	わからない	111	3.8

Q28_4 問28_4 意見評価 自分の仕事や収入のせいで、他の人たちから見下される

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	118	4.1
2	どちらかといえばそう思う	237	8.2
3	どちらともいえない	682	23.5
4	どちらかといえばそう思わない	493	17.0
5	そう思わない	1272	43.9
6	わからない	96	3.3

Q28_5 問28_5 意見評価 自分が住んでいる地域の人たちに親しみをを感じる

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	172	5.9
2	どちらかといえばそう思う	781	26.9
3	どちらともいえない	1071	37.0
4	どちらかといえばそう思わない	329	11.4
5	そう思わない	464	16.0
6	わからない	81	2.8

Q29_1 問29_1 意見評価 自分が住んでいる地域に愛着を感じている

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	350	12.1
2	どちらかといえばそう思う	1102	38.0
3	どちらともいえない	808	27.9
4	どちらかといえばそう思わない	273	9.4
5	そう思わない	339	11.7
6	わからない	26	0.9

Q29_2 問29_2 意見評価 自分が住んでいる地域に住み続けたい

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	373	12.9
2	どちらかといえばそう思う	1007	34.7
3	どちらともいえない	869	30.0
4	どちらかといえばそう思わない	277	9.6
5	そう思わない	342	11.8
6	わからない	30	1.0

Q29_3 問29_3 意見評価 まごまごしていると、他人に追い越されそうな不安を感じる

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	154	5.3
2	どちらかといえばそう思う	405	14.0
3	どちらともいえない	783	27.0
4	どちらかといえばそう思わない	563	19.4
5	そう思わない	938	32.4
6	わからない	55	1.9

Q29_4 問29_4 意見評価 うかうかしていると、自分がこれまで獲得したものを失ってしまいそうな不安を感じる

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	145	5.0
2	どちらかといえばそう思う	425	14.7
3	どちらともいえない	797	27.5
4	どちらかといえばそう思わない	548	18.9
5	そう思わない	944	32.6
6	わからない	39	1.3

Q29_5 問29_5 意見評価 自分の将来の見通しは明るい

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	101	3.5
2	どちらかといえばそう思う	385	13.3
3	どちらともいえない	1182	40.8
4	どちらかといえばそう思わない	507	17.5
5	そう思わない	666	23.0
6	わからない	57	2.0

Q30_1

問30_1 意見評価 将来のために節約・努力するよりも、今の人生を楽しむようにしている

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	よくあてはまる	149	5.1
2	ややあてはまる	742	25.6
3	どちらともいえない	1081	37.3
4	あまりあてはまらない	658	22.7
5	まったくあてはまらない	242	8.4
6	わからない	26	0.9

Q30_2

問30_2 意見評価 何年後まで何をするというように、きちんと生活設計をたてて暮らしたい

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	よくあてはまる	221	7.6
2	ややあてはまる	1013	35.0
3	どちらともいえない	1015	35.0
4	あまりあてはまらない	451	15.6
5	まったくあてはまらない	167	5.8
6	わからない	31	1.1

Q30_3

問30_3 意見評価 どんなに苦勞をしても、自分の夢は実現させたい

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	よくあてはまる	155	5.3
2	ややあてはまる	658	22.7
3	どちらともいえない	1202	41.5
4	あまりあてはまらない	589	20.3
5	まったくあてはまらない	243	8.4
6	わからない	51	1.8

Q30_4

問30_4 意見評価 友人との関係をつらいと感じることがよくある

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	よくあてはまる	153	5.3
2	ややあてはまる	538	18.6
3	どちらともいえない	937	32.3
4	あまりあてはまらない	750	25.9
5	まったくあてはまらない	482	16.6
6	わからない	38	1.3

Q30_5

問30_5 意見評価 余暇の時間は、友人や仲間とともに楽しみたいと思う

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	よくあてはまる	229	7.9
2	ややあてはまる	897	31.0
3	どちらともいえない	1036	35.7
4	あまりあてはまらない	442	15.3
5	まったくあてはまらない	268	9.2
6	わからない	26	0.9

Q31_1

問31_1 意見評価 社会で成功するかどうかは生まれつきの能力や素質でほぼ決まる

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	145	5.0
2	どちらかといえばそう思う	700	24.2
3	どちらともいえない	1010	34.9
4	どちらかといえばそう思わない	555	19.2
5	そう思わない	456	15.7
6	わからない	32	1.1

Q31_2

問31_2 意見評価 努力をしていれば、たいていの目標は達成できる

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	137	4.7
2	どちらかといえばそう思う	893	30.8
3	どちらともいえない	1083	37.4
4	どちらかといえばそう思わない	472	16.3
5	そう思わない	293	10.1
6	わからない	20	0.7

Q31_3

問31_3 意見評価 人の一生は運命によってある程度決められている

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	181	6.2
2	どちらかといえばそう思う	808	27.9
3	どちらともいえない	1107	38.2
4	どちらかといえばそう思わない	434	15.0
5	そう思わない	326	11.2
6	わからない	42	1.4

Q31_4

問31_4 意見評価 全体としてみれば、世の中はバランスが取れている

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	118	4.1
2	どちらかといえばそう思う	696	24.0
3	どちらともいえない	1085	37.4
4	どちらかといえばそう思わない	536	18.5
5	そう思わない	403	13.9
6	わからない	60	2.1

Q31_5

問31_5 意見評価 悪いことばかり続いた人も、次には何か良いことが起こるものだ

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	306	10.6
2	どちらかといえばそう思う	1017	35.1
3	どちらともいえない	978	33.7
4	どちらかといえばそう思わない	297	10.2
5	そう思わない	254	8.8
6	わからない	46	1.6

Q32_1 問32_1 意見評価 いかなる集団も、社会を支配してはならない

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	757	26.1
2	どちらかといえばそう思う	1037	35.8
3	どちらともいえない	732	25.3
4	どちらかといえばそう思わない	169	5.8
5	そう思わない	112	3.9
6	わからない	91	3.1

Q32_2 問32_2 意見評価 欲しいものを手に入れるためには、ほかの集団から力づくで手に入れなければならないときもある

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	96	3.3
2	どちらかといえばそう思う	317	10.9
3	どちらともいえない	884	30.5
4	どちらかといえばそう思わない	665	22.9
5	そう思わない	854	29.5
6	わからない	82	2.8

Q32_3 問32_3 意見評価 今後、日本で格差が広がってもかまわない

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	64	2.2
2	どちらかといえばそう思う	163	5.6
3	どちらともいえない	687	23.7
4	どちらかといえばそう思わない	688	23.7
5	そう思わない	1252	43.2
6	わからない	44	1.5

Q32_4 問32_4 意見評価 政治のことはやりたい人にまかせておけばよい

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	92	3.2
2	どちらかといえばそう思う	336	11.6
3	どちらともいえない	896	30.9
4	どちらかといえばそう思わない	665	22.9
5	そう思わない	855	29.5
6	わからない	54	1.9

Q32_5 問32_5 意見評価 権威のある人々にはつねに敬意を払わなければならない

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	57	2.0
2	どちらかといえばそう思う	252	8.7
3	どちらともいえない	981	33.9
4	どちらかといえばそう思わない	690	23.8
5	そう思わない	868	30.0
6	わからない	50	1.7

Q33_1

問33_1 意見評価 以前からなされていたやり方を守ることが、最上の結果を生む

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	30	1.0
2	どちらかといえばそう思う	241	8.3
3	どちらともいえない	1252	43.2
4	どちらかといえばそう思わない	679	23.4
5	そう思わない	638	22.0
6	わからない	58	2.0

Q33_2

問33_2 意見評価 伝統や習慣にしたがったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題をひきおこすことになる

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	50	1.7
2	どちらかといえばそう思う	333	11.5
3	どちらともいえない	1296	44.7
4	どちらかといえばそう思わない	632	21.8
5	そう思わない	512	17.7
6	わからない	75	2.6

Q33_3

問33_3 意見評価 この複雑な世の中で何をなすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	40	1.4
2	どちらかといえばそう思う	391	13.5
3	どちらともいえない	1261	43.5
4	どちらかといえばそう思わない	611	21.1
5	そう思わない	517	17.8
6	わからない	78	2.7

Q33_4

問33_4 意見評価 成功するためには、ほかの集団を踏み台にしなければならないときもある

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	97	3.3
2	どちらかといえばそう思う	528	18.2
3	どちらともいえない	1105	38.1
4	どちらかといえばそう思わない	578	19.9
5	そう思わない	513	17.7
6	わからない	77	2.7

Q33_5

問33_5 意見評価 人生において、ある集団がほかの集団よりもチャンスに恵まれていたとしてもかまわない

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	92	3.2
2	どちらかといえばそう思う	503	17.4
3	どちらともいえない	1334	46.0
4	どちらかといえばそう思わない	468	16.1
5	そう思わない	374	12.9
6	わからない	127	4.4

Q34_1

問34_1 意見評価 世の中にはすべてを手に入れる人間もいれば、何も手に入れられない人間もいる

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	678	23.4
2	どちらかといえばそう思う	1080	37.3
3	どちらともいえない	761	26.3
4	どちらかといえばそう思わない	212	7.3
5	そう思わない	133	4.6
6	わからない	34	1.2

Q34_2

問34_2 意見評価 あらゆるものには長所と短所がある

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	1103	38.1
2	どちらかといえばそう思う	1191	41.1
3	どちらともいえない	460	15.9
4	どちらかといえばそう思わない	103	3.6
5	そう思わない	37	1.3
6	わからない	4	0.1

Q34_3

問34_3 意見評価 いろいろな集団が平等になるように、わたしたちはできる限りのことをすべきだ

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	304	10.5
2	どちらかといえばそう思う	940	32.4
3	どちらともいえない	1196	41.3
4	どちらかといえばそう思わない	263	9.1
5	そう思わない	133	4.6
6	わからない	62	2.1

Q34_4

問34_4 意見評価 集団が、それぞれの立場に留まらなければならないときがある

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	224	7.7
2	どちらかといえばそう思う	884	30.5
3	どちらともいえない	1321	45.6
4	どちらかといえばそう思わない	202	7.0
5	そう思わない	102	3.5
6	わからない	165	5.7

Q34_5

問34_5 意見評価 一部の集団が高い地位にあり、別の集団が低い地位にあるのは、良いことだろう

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	44	1.5
2	どちらかといえばそう思う	221	7.6
3	どちらともいえない	1165	40.2
4	どちらかといえばそう思わない	654	22.6
5	そう思わない	665	22.9
6	わからない	149	5.1

Q35_1 問35_1 意見評価 自分よりも年上の人は常に敬わなければならない

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	171	5.9
2	どちらかといえばそう思う	1025	35.4
3	どちらともいえない	997	34.4
4	どちらかといえばそう思わない	386	13.3
5	そう思わない	306	10.6
6	わからない	13	0.4

Q35_2 問35_2 意見評価 子どもは親の意向には素直に従うべきである

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	63	2.2
2	どちらかといえばそう思う	448	15.5
3	どちらともいえない	1257	43.4
4	どちらかといえばそう思わない	644	22.2
5	そう思わない	466	16.1
6	わからない	20	0.7

Q35_3 問35_3 意見評価 子どもにはできるだけ高い教育を受けさせるのがよい

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	347	12.0
2	どちらかといえばそう思う	1009	34.8
3	どちらともいえない	1081	37.3
4	どちらかといえばそう思わない	269	9.3
5	そう思わない	166	5.7
6	わからない	26	0.9

Q35_4 問35_4 意見評価 学歴は本人の実力をかなり反映している

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	232	8.0
2	どちらかといえばそう思う	887	30.6
3	どちらともいえない	1070	36.9
4	どちらかといえばそう思わない	422	14.6
5	そう思わない	260	9.0
6	わからない	27	0.9

Q35_5 問35_5 意見評価 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	75	2.6
2	どちらかといえばそう思う	264	9.1
3	どちらともいえない	998	34.4
4	どちらかといえばそう思わない	628	21.7
5	そう思わない	904	31.2
6	わからない	29	1.0

Q36_1 問36_1 意見評価 夫が家事や育児をするのはあたりまえのことだ

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	483	16.7
2	どちらかといえばそう思う	1127	38.9
3	どちらともいえない	942	32.5
4	どちらかといえばそう思わない	197	6.8
5	そう思わない	127	4.4
6	わからない	22	0.8

Q36_2 問36_2 意見評価 どんな集団も、平等にチャンスを与えられるべきだ

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	627	21.6
2	どちらかといえばそう思う	1236	42.7
3	どちらともいえない	811	28.0
4	どちらかといえばそう思わない	137	4.7
5	そう思わない	62	2.1
6	わからない	25	0.9

Q36_3 問36_3 意見評価 人々をより平等に扱えば、私たちの抱える問題はより少なくなる

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	307	10.6
2	どちらかといえばそう思う	954	32.9
3	どちらともいえない	1144	39.5
4	どちらかといえばそう思わない	280	9.7
5	そう思わない	166	5.7
6	わからない	47	1.6

Q36_4 問36_4 意見評価 「宗教的な心」というものは大切だと思う

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	120	4.1
2	どちらかといえばそう思う	479	16.5
3	どちらともいえない	1243	42.9
4	どちらかといえばそう思わない	437	15.1
5	そう思わない	489	16.9
6	わからない	130	4.5

Q36_5 問36_5 意見評価 今後、国内の原子力発電所はすべて廃止すべきだ

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	そう思う	379	13.1
2	どちらかといえばそう思う	442	15.3
3	どちらともいえない	1062	36.6
4	どちらかといえばそう思わない	423	14.6
5	そう思わない	455	15.7
6	わからない	137	4.7

Q37_1

問37_1 社会保障への意見 高福祉 vs. 低負担

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	Aに近い	318	11.0
2	どちらかといえばAに近い	1121	38.7
3	どちらかといえばBに近い	749	25.8
4	Bに近い	458	15.8
5	わからない	252	8.7

Q37_2

問37_2 社会保障への意見 選別 vs. 普遍

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	Aに近い	710	24.5
2	どちらかといえばAに近い	1017	35.1
3	どちらかといえばBに近い	604	20.8
4	Bに近い	388	13.4
5	わからない	179	6.2

Q37_3

問37_3 社会保障への意見 必要 vs. 貢献

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	Aに近い	334	11.5
2	どちらかといえばAに近い	891	30.7
3	どちらかといえばBに近い	843	29.1
4	Bに近い	563	19.4
5	わからない	267	9.2

Q37_4

問37_4 社会保障への意見 世代間の連帯 vs. 世代間の公平

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	Aに近い	109	3.8
2	どちらかといえばAに近い	456	15.7
3	どちらかといえばBに近い	932	32.2
4	Bに近い	1200	41.4
5	わからない	201	6.9

Q38

問38 現在の住居

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	持ち家（一戸建）	1438	49.6
2	持ち家（分譲マンション）	404	13.9
3	借家・賃貸のアパート・マンション	927	32.0
4	社宅・寮・官舎	79	2.7
5	下宿・間借り	10	0.3
6	その他	20	0.7
7	わからない	20	0.7

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	なし	330	11.4
2	25万円未満	183	6.3
3	25～50万円未満	82	2.8
4	50～75万円未満	85	2.9
5	75～100万円未満	185	6.4
6	100～125万円未満	147	5.1
7	125～150万円未満	81	2.8
8	150～200万円未満	146	5.0
9	200～250万円未満	170	5.9
10	250～300万円未満	151	5.2
11	300～350万円未満	148	5.1
12	350～400万円未満	138	4.8
13	400～450万円未満	150	5.2
14	500万円位（450～550万円未満）	179	6.2
15	600万円位（550～650万円未満）	133	4.6
16	700万円位（650～750万円未満）	101	3.5
17	800万円位（750～850万円未満）	73	2.5
18	900万円位（850～950万円未満）	49	1.7
19	1,000万円位（950～1,050万円未満）	36	1.2
20	1,100万円位（1,050～1,150万円未満）	13	0.4
21	1,200万円位（1,150～1,250万円未満）	13	0.4
22	1,300万円位（1,250～1,350万円未満）	10	0.3
23	1,400万円位（1,350～1,450万円未満）	4	0.1
24	1,500万円位（1,450～1,550万円未満）	8	0.3
25	1,600万円位（1,550～1,650万円未満）	1	0.0
26	1,700万円位（1,650～1,750万円未満）	2	0.1
27	1,800万円位（1,750～1,850万円未満）	1	0.0
28	1,900万円位（1,850～1,950万円未満）	2	0.1
29	2,000万円位（1,950～2,050万円未満）	4	0.1
30	2,050万円以上	6	0.2
31	わからない	267	9.2

問40 過去1年間の収入（世帯）

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	なし	40	1.4
2	25万円未満	23	0.8
3	25～50万円未満	17	0.6
4	50～75万円未満	17	0.6
5	75～100万円未満	39	1.3
6	100～125万円未満	34	1.2
7	125～150万円未満	33	1.1
8	150～200万円未満	67	2.3
9	200～250万円未満	99	3.4
10	250～300万円未満	118	4.1
11	300～350万円未満	126	4.3
12	350～400万円未満	168	5.8
13	400～450万円未満	174	6.0
14	500万円位（450～550万円未満）	273	9.4
15	600万円位（550～650万円未満）	246	8.5
16	700万円位（650～750万円未満）	177	6.1
17	800万円位（750～850万円未満）	190	6.6
18	900万円位（850～950万円未満）	118	4.1
19	1,000万円位（950～1,050万円未満）	113	3.9
20	1,100万円位（1,050～1,150万円未満）	61	2.1
21	1,200万円位（1,150～1,250万円未満）	56	1.9
22	1,300万円位（1,250～1,350万円未満）	32	1.1
23	1,400万円位（1,350～1,450万円未満）	15	0.5
24	1,500万円位（1,450～1,550万円未満）	29	1.0
25	1,600万円位（1,550～1,650万円未満）	9	0.3
26	1,700万円位（1,650～1,750万円未満）	8	0.3
27	1,800万円位（1,750～1,850万円未満）	7	0.2
28	1,900万円位（1,850～1,950万円未満）	5	0.2
29	2,000万円位（1,950～2,050万円未満）	17	0.6
30	2,050万円以上	12	0.4
31	わからない	575	19.8

年代

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	20-29歳	519	17.9
2	30-39歳	624	21.5
3	40-49歳	775	26.7
4	50-59歳	656	22.6
5	60-64歳	324	11.2

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	男性20-29歳	266	9.2
2	男性30-39歳	319	11.0
3	男性40-49歳	395	13.6
4	男性50-59歳	334	11.5
5	男性60-64歳	162	5.6
6	女性20-29歳	253	8.7
7	女性30-39歳	305	10.5
8	女性40-49歳	380	13.1
9	女性50-59歳	322	11.1
10	女性60-64歳	162	5.6

		回答数	%
全体		2208	100.0
501	自然科学系研究者	3	0.1
503	機械・電気・化学技術者	53	2.4
504	建築・土木技術者	27	1.2
505	農林技術者	1	0.0
506	情報処理技術者	102	4.6
507	その他の技師・技術者	4	0.2
508	医師	11	0.5
509	歯科医師	2	0.1
510	薬剤師	14	0.6
511	助産婦	1	0.0
512	保健婦	1	0.0
513	栄養士	2	0.1
514	看護婦、看護師	34	1.5
515	あん摩・はり・きゅう師、柔道整復師	5	0.2
516	その他の保健医療従事者	49	2.2
517	裁判官、検察官、弁護士	2	0.1
518	その他の法務従事者	3	0.1
519	公認会計士、税理士	1	0.0
520	幼稚園教員	5	0.2
521	小学校教員	2	0.1
522	中学校教員	8	0.4
523	高等学校教員	7	0.3
524	大学教員	5	0.2
526	その他の教員	5	0.2
527	宗教家	2	0.1
528	文芸家、著述家	1	0.0
529	記者、編集者	6	0.3
530	彫刻家、画家、工芸美術家	3	0.1
531	デザイナー	7	0.3
532	写真家、カメラマン	1	0.0
533	俳優、舞踊家、演芸家（個人に教授するものを除く）	2	0.1
534	音楽家（個人に教授するものを除く）	2	0.1
537	保母、保父	11	0.5
538	社会福祉事業専門職員	11	0.5
539	個人教師	33	1.5
541	経営コンサルタント	5	0.2
544	その他の専門的・技術的職業従事者	15	0.7

545	管理的公務員	18	0.8
548	会社役員	6	0.3
549	その他の法人・団体の役員	1	0.0
550	会社・団体等の管理職員	78	3.5
554	総務・企画事務員	284	12.9
555	受付・案内事務員	54	2.4
556	出荷・受荷事務員	17	0.8
557	営業・販売事務員	98	4.4
558	その他の一般事務員	26	1.2
559	会計事務員	73	3.3
560	郵便・通信事務員	5	0.2
561	集金人	1	0.0
562	その他の外勤事務従事者	3	0.1
563	運輸事務員	11	0.5
564	速記者、タイピスト、キーパンチャー	22	1.0
565	電子計算機等操作員	4	0.2
566	小売店主	19	0.9
567	卸売店主	2	0.1
568	飲食店主	5	0.2
569	販売店員	89	4.0
570	行商人、呼売人、露天商	1	0.0
571	再生資源卸売人・回収人	1	0.0
573	外交員（保険、不動産を除く）	50	2.3
574	保険代理人・外交員	13	0.6
575	不動産仲買人・売買人	21	1.0
577	その他の販売類似職業従事者	5	0.2
578	女中、家政婦、家事サービス職業従事者	1	0.0
579	理容師、美容師	11	0.5
580	クリーニング職、洗張職	1	0.0
581	料理人	36	1.6
583	給仕係	37	1.7
586	娯楽場等の接客員	3	0.1
588	その他の個人サービス職業従事者	1	0.0
589	旅館主人・番頭、ホテル支配人	1	0.0
590	下宿・アパートの管理人、舎監、寮母	9	0.4
592	その他のサービス職業従事者	36	1.6
593	自衛官	1	0.0
594	警察官、海上保安官、鉄道公安員	2	0.1
595	消防員	1	0.0
596	看守、守衛、監視員	11	0.5
597	その他の保安職業従事者	5	0.2
599	農耕・養蚕作業	12	0.5
600	植木職、造園師	2	0.1
601	畜産作業	1	0.0
602	林業作業	2	0.1
603	その他の農林業作業	1	0.0
604	漁業作業	41	1.9
605	漁船の船長・航海士・機関長・機関士	1	0.0
611	車掌	1	0.0
612	鉄道員	1	0.0
614	その他の運輸従事者	1	0.0
617	電話交換手	13	0.6
618	郵便・電報外務員	4	0.2
625	ガラス・セメント製品製造作業	2	0.1

626	その他の窯業・土石製品製造作業	1	0.0
627	製鉄工、製鋼工、精錬工	1	0.0
628	鋳物工、鍛造工、金属材料製造作業	1	0.0
629	化学製品製造作業	11	0.5
630	金属工作機械工、めっき工、金属加工作業	14	0.6
631	鉄工、板金工	1	0.0
632	金属溶接工	1	0.0
633	一般機械組立工・修理工	35	1.6
634	電気機械器具組立工・修理工	20	0.9
635	自動車組立工・整備工	19	0.9
640	その他の輸送機械組立・修理作業	3	0.1
641	時計組立工・修理工	1	0.0
642	光学機械・精密機械器具組立工・修理工	3	0.1
644	パン・菓子・めん類・豆腐製造工	4	0.2
645	味噌・醤油・缶詰食品・乳製品製造工、飲料品製造作業	28	1.3
649	織布工、紡織作業	3	0.1
652	縫製工、裁断工	2	0.1
653	製材工、木工	1	0.0
654	指物職、家具職、建具職	1	0.0
657	製紙工、紙器製造工、パルプ・紙・紙製品製造作業	4	0.2
658	印刷・製本作業	9	0.4
659	ゴム・プラスチック製品製造作業	6	0.3
660	くつ製造工・修理工、かわ・かわ製品製造作業	1	0.0
661	塗装工、画工、看板工	2	0.1
665	貴金属・宝石・甲・角等細工	1	0.0
669	がん具製造工	1	0.0
670	製図工、現図工	4	0.2
671	映写技士	2	0.1
672	その他の技能工・生産工程作業	13	0.6
675	その他の定置機関運転作業	3	0.1
677	電気工事・電話工事作業	4	0.2
678	土木・建築請負師	5	0.2
679	左官、とび職	2	0.1
680	れんが積工、配管工	1	0.0
682	土工、道路工夫	2	0.1
683	鉄道線路工夫	1	0.0
684	現場監督、その他の建設作業	18	0.8
685	倉庫夫、仲仕	25	1.1
686	運搬労務者	26	1.2
687	清掃員	26	1.2
688	その他の労務作業	19	0.9
689	分類不能の職業	19	0.9
701	スーパーなどのレジスター係員、キャッシャー	36	1.6
702	大工	3	0.1
703	教員	13	0.6
704	製品製造作業	6	0.3
706	宅配便の配達	5	0.2
707	自営業	12	0.5
801	介護員、ヘルパー	54	2.4
802	その他の医療・福祉サービス職従事者	13	0.6
804	被雇用飲食店主	1	0.0
999	無回答	130	5.9

JOB8

職業8分類

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	専門	459	15.8
2	管理	104	3.6
3	事務	683	23.6
4	販売	246	8.5
5	熟練	171	5.9
6	半熟練	163	5.6
7	非熟練	203	7.0
8	農業	18	0.6
9	無職	573	19.8
10	学生	117	4.0
11	無回答・分類不能	161	5.6

EGP9

EGP9分類

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	上層サービス	298	10.3
2	下層サービス	406	14.0
3	事務販売	650	22.4
4	自営業主	74	2.6
5	独立自営	50	1.7
7	管理的マニュアル	70	2.4
8	熟練マニュアル	95	3.3
9	非熟練・半熟練マニュアル	386	13.3
11	農業経営	18	0.6
12	無職	573	19.8
13	学生	117	4.0
14	無回答・分類不能	161	5.6

EGP6

EGP6分類

		回答数	%
全体		2898	100.0
1	上層ホワイト	704	24.3
2	下層ホワイト	650	22.4
3	自営	124	4.3
4	熟練ブルー	165	5.7
5	非熟練ブルー	386	13.3
6	農業	18	0.6
7	無職	573	19.8
8	学生	117	4.0
9	無回答・分類不能	161	5.6

5 調査票

暮らしと社会意識についての Web 調査

問 1 あなたは現在、どこにお住まいですか。

問 1a 現在お住まいの都道府県をお答え下さい。

都道府県選択

問 1b 市区町村名をお答え下さい。

記入例：

【東京 23 区の場合】例) 東京都千代田区 → 千代田区 と記入

【政令指定都市の場合】例) 北海道札幌市中央区 → 札幌市中央区 と記入

【通常の市部の場合】例) 長野県松本市 → 松本市 と記入

【郡部の場合】例) 奈良県吉野郡十津川村 → 吉野郡十津川村 と記入

自由記述

(市区町村名)

問 2 あなたの性別はどちらですか。(1 つだけ)

1

2

男性

女性

問 3 あなたの年齢とお生まれの年月をお答えください

年齢入力

歳

生まれ年入力

年

生まれ月入力

月

問 4 あなたの現在のお仕事についてうかがいます。もし、複数のお仕事をお持ちの場合には、主なお仕事ひとつについてお答え下さい。

問 4a あなたがなさっているお仕事は、大きく分けてこの中のどれにあたりますか。(1 つだけ)

- 1 経営者、役員
- 2 常時雇用されている一般従業者
- 3 臨時雇用・パート・アルバイト
- 4 派遣社員
- 5 契約社員、嘱託
- 6 自営業主、自由業者
- 7 家族従業者
- 8 内 職
- 9 無職：仕事を探している
- 10 無職：仕事を探していない
- 11 学生
- 12 わからない

【問 4a=1～7】

問 4b あなたの勤め先は、どのような事業をいとなんでいますか。派遣社員の方は、派遣先企業についてお答えください。〔野菜の販売、自動車の製造、薬品の卸売、衣服の小売、旅館経営のように具体的に記入してください〕

自由記述

☐ わからない

【問 4a=1～7】

問 4c あなたの勤め先の事業内容は、次の分類のうち、どれにあたりますか。(1 つだけ)
派遣社員の方は、派遣先企業についてお答えください。

- 1 情報通信業
- 2 運輸業、郵便業（郵便局以外）
- 3 郵便局
- 4 卸売業、小売業
- 5 金融業、保険業
- 6 不動産業、物品賃貸業
- 7 学術研究、専門・技術サービス業
- 8 教育、学習支援業
- 9 医療、福祉
- 10 宿泊業、飲食サービス業
- 11 生活関連サービス業、娯楽業
- 12 その他のサービス業
- 13 製造業
- 14 電気・ガス・熱供給・水道業
- 15 建設業
- 16 農業、林業、漁業
- 17 鉱業、採石業、砂利採取業
- 18 公務
- 19 そのほか（具体的に：自由記述【無回答を認めない】）
- 20 わからない

【問 4a=1～7】

問 4d あなたは、いつからそのお勤め先で働いておられますか。
派遣社員の方は、派遣先企業についてお答えください。

年入力	年	月入力	月
-----	---	-----	---

☐ わからない

※生年より前の年号を選択した場合、アラートを表示・訂正するまで回答を許容しない

【問 4a=1～7】

問 4e 現在の従業員（働いている人）は、会社全体で何人ぐらいですか。〔家族従業者、パート・アルバイトなども含む〕派遣社員の方は、派遣先企業についてお答えください。（1 つだけ）

- 1 1 人
- 2 2～4 人
- 3 5～9 人
- 4 10～29 人
- 5 30～99 人
- 6 100～299 人
- 7 300～499 人
- 8 500～999 人
- 9 1000 人以上
- 10 官公庁
- 11 わからない

【問 4a=1～8】

問 4f あなたは職場でどのような仕事をしていますか。具体的な仕事の内容を教えてください。次の例のように仕事をする対象（人・モノ・データ）、使っている道具などを含めて、50 字以内でできるだけ詳しく記入してください。

（例）

- ・銀行などのネットワーク構築に関わるプログラミングをしている
- ・電気機械器具の製造・組立をしている
- ・中学校の教員で数学を教えている
- ・給与や福利厚生に関する事務をしている
- ・会計帳簿の記入・整理をしている
- ・コンピュータを使って、データの入力作業をしている
- ・コンビニの店員として、商品を販売している
- ・プラスチック製品（おもちゃ）の製造をしている
- ・スーパーでレジ係をしている
- ・銀行で窓口の仕事をしている
- ・高齢者の住まいを訪ねて身の回りの世話・介護をしている

自由記述

☐ わからない

【問 4a=1～8】

問 4g そのお仕事は次の分類のうち、どれにあたりますか。(1 つだけ)

1 管理的な仕事

会社役員、課長以上の会社員、駅長、局長、学校長、管理職的公務員などのかた

2 専門的、技術的な仕事

科学研究者、建築・土木・農林技術者、システムエンジニア、医師、看護師、薬剤師、裁判官、弁護士、会計士、学校教員、個人教師、芸術家、記者、船舶機関長、航空士、無線技術者などのかた

3 事務的な仕事

総務・企画、受付・案内、営業・販売などの事務員、集金人、その他の外勤事務員、運輸事務員、タイピスト、計算機オペレーター、レジスター係員などのかた

4 通信的な仕事

有線通信士、電話交換手、郵便・電報外務員などのかた

5 保安的な仕事

自衛官、警察官、消防士、守衛などのかた

6 建築請負的な仕事

土木・建築請負、大工、左官、とび職、配管工、畳職、起重機・建設機械など運転作業員などのかた

7 運輸的な仕事

自動車運転者、電車運転士、車掌、鉄道員、船員などのかた

8 労務的な仕事

道路工夫、鉄道線路工夫、運搬担当者、清掃員などのかた

9 販売的な仕事

小売店主、卸売り店主、飲食店主、販売店員、外交員などのかた

10 サービス的な仕事

理容師、家政婦、料理人、ウエイトレス、旅行ガイド、ホテル支配人、ビル管理人などのかた

11 製造的な仕事

金属・機械・繊維・飲食料品製造などの生産従事者、織物・木・プラスチック製品・紙製品製造者、自動車修理工などのかた

12 農林漁業の仕事

農業・林業・漁業作業員などのかた

13 そのほか

その他のかた

14 わからない

【問 4a=1～8】

問 4h そのお仕事では、自分でモノを作ったり扱ったりすることが多いですか、それとも人と接したりコミュニケーションをとることが多いですか。(1 つだけ)

- 1 おもに自分でモノを作ったり扱ったりしている
- 2 モノを扱うことと、人とのコミュニケーションが半々ぐらい
- 3 どちらかといえば、人と接したりコミュニケーションをとることが多い
- 4 おもに人と接したりコミュニケーションをとっている
- 5 わからない

【問 4a=1～7】

問 4i 何かの役職についていますか。(1 つだけ)

- 1 役職なし
- 2 監督、職長、班長、組長
- 3 係長、係長相当職
- 4 課長、課長相当職
- 5 部長、部長相当職
- 6 社長、重役、役員、理事
- 7 その他（具体的に：自由回答【無回答を認めない】）
- 8 わからない

【問 4a=1～8】

問 4j その仕事をふだん 1 日何時間、週何日していますか。(または月何日していますか) 残業の時間も含めてください。

1 日 時間 ☐ わからない

週 日 または月 日 ☐ わからない

隔週勤務など特殊なケースは具体的に記入してください。

自由記述

※それぞれ、1 日 24 時間、週 7 日、月 31 日を超える回答をした場合、アラートを表示・訂正するまで回答を許容しない。

※ $0 \leq$ 一日の労働時間 ≤ 24 (小数点以下第一位まで記入可)

【問 4a=1～8】

問 4k そのお仕事をする上で、必要な資格を、なにか持っていますか。

(ただし、普通自動車免許は除いてお答え下さい。)(最も重要なものを1つだけ)

1 ある →具体的に

自由記述

2 ない

3 わからない

【全員】

問 5 あなたの交流のある親類、友人、知り合いのなかで、以下のような職業の人はいますか。

あてはまるものすべてを選んでください。(それぞれいくつでも)

	親類	友人	知り合い	あてはまる人はいない
ア) 大学教授	1	2	3	4
イ) 弁護士	1	2	3	4
ウ) 看護師	1	2	3	4
エ) 中学校の教員	1	2	3	4
オ) 情報処理技術者	1	2	3	4
カ) 人事担当者	1	2	3	4
キ) 農業従事者	1	2	3	4
ク) 美容師・理容師	1	2	3	4
ケ) 受付係	1	2	3	4
コ) 警察官	1	2	3	4

問 6 中学3年生のとき、あなたの成績は学年の中でどれくらいでしたか。この中からあてはまるものを選んでください。(1 つだけ)

1	2	3	4	5	6
上の方	やや上の方	真ん中の あたり	やや下の方	下の方	わからない

問 7 あなたが最後に行かれた（または現在行かれている）学校はつぎのどちらにあたりますか。中退も卒業と同じ扱いでお答えください。(1 つだけ)

- 1 中学校
- 2 中学校卒業後、専門学校（専修学校）
- 3 高等学校
- 4 高等学校卒業後、専門学校
- 5 短期大学・高等専門学校
- 6 大学
- 7 大学院修士課程
- 8 大学院博士課程
- 9 その他・どれにあたるか判断できない

→（具体的な学校名、または小学校からの通算通学年数をお答えください）

自由記述【無回答を認めない】

- 10 わからない

問 8 最後に行かれた学校の、学校名をお答えください。

自由記述

- ☐ わからない

【問 7=2,4～9】

問 9a 最後に行かれた学校の、学部・学科・コース・課程名をお答えください。

自由記述

- ☐ わからない

【問 7=3】

問 9b 高校の、学科はどれにあたりますか。(1 つだけ)

- 1 普通科・理数科・英数科・英語科・国際科
- 2 工業に関する学科
- 3 商業に関する学科
- 4 農業・水産に関する学科
- 5 看護・介護・福祉・保育に関する学科
- 6 家庭・家政・衛生に関する学科
- 7 芸術・体育に関する学科
- 8 総合学科
- 9 その他

→具体的に

自由記述【無回答を認めない】

- 10 わからない

問 10 あなたは以下のそれぞれの学問が、社会のなかでどれくらい役に立っているとお考えですか。

	役に立っている	役に立ちかといえる	役に立ちかといえない	役に立っていない	わからない
ア) 教育学	1	2	3	4	5
イ) 歴史学	1	2	3	4	5
ウ) 哲学	1	2	3	4	5
エ) 経済学	1	2	3	4	5
オ) 政治学	1	2	3	4	5
カ) 数学	1	2	3	4	5
キ) 物理学	1	2	3	4	5
ク) 工学	1	2	3	4	5
ケ) 農学	1	2	3	4	5
コ) 医学	1	2	3	4	5

【問 4a=9～11、12】

問 11 あなたは学校を卒業後、仕事に就いたことがありますか。(1 つだけ)

- 1 ある
- 2 一度もない
- 3 わからない

【問 4a=1～8、問 11=1】

問 12a 最初の仕事に就かれたのは何歳のときですか。(在学中のアルバイトは除いてお答え下さい)

- 1 満

年齢入力

 歳 ☐ わからない

※現在の年齢よりも高い数字を入力した場合、アラートを表示・訂正するまで回答を許容しない

【問 4a=1～8、問 11=1】

問 12b その後、転職や退職でお仕事を離れられたことはありますか。ただし、同じ企業や自治体の中での出向、異動、転属と休職は除いてお答えください。(1 つだけ)

- 1 現在まで同じ勤め先
- 2 一度だけやめた
- 3 二度やめた
- 4 三度以上やめた
- 5 わからない

※問 4a=9～11 で問 11=1 の場合、現在は無職なので 1 は選べない

問 13 次の（ア）～（ウ）の項目についてお答えください。（それぞれ1つずつ）

	中学まで	高校まで	短大・高専まで	大学まで	大学院まで	その他	何も考えていなかった	わからない
ア) 中学3年生のとき、あなたは将来どこまで進学したいと思っていましたか	1	2	3	4	5	6	7	8
イ) 最初の仕事に就いたとき、その仕事に通常どこまでの学歴が必要だと思っていましたか	1	2	3	4	5	6	×	7
ウ) あなたの現在の仕事に、通常どこまでの学歴が必要だと思いますか	1	2	3	4	5	6	×	7

※イ) に関しては、問 12b=2～4 の人のみ。

※ウ) に関しては、問 4a=1～8 の人のみ。

※「その他」と回答したものに関しては、それぞれ具体的な項目を記述してもらう。

【全員】

問 14 あなたの配偶者（夫または妻）についてうかがいます。

問 14a あなたは現在、結婚されていますか。（1つだけ）

- 1 結婚している（事実婚を含む）
- 2 未婚（結婚したことがない）
- 3 離別
- 4 死別
- 5 わからない

【問 14a=1】

問 14b 現在の配偶者と結婚したとき、あなたは何歳でしたか。

- 1 満 歳 ☐ わからない

※16歳よりも小さい数字、現在の年齢よりも大きい数字を入力した場合、アラートを表示・訂正するまで回答を許容しない

【問 14a=1】

問 15 現在の配偶者が最後に行かれた（または現在行かれている）学校はつぎのどちらにあたりますか。
中退も卒業と同じ扱いでお答えください。（1 つだけ）

- 1 中学校
- 2 中学校卒業後、専門学校（専修学校）
- 3 高等学校
- 4 高等学校卒業後、専門学校
- 5 短期大学・高等専門学校
- 6 大学
- 7 大学院
- 8 その他（具体的に：自由回答）
- 9 わからない

【問 14a=1】

問 16 あなたの配偶者の現在のお仕事についてうかがいます。

問 16a その方のお仕事は大きく分けてこの中のどれにあたりますか。（1 つだけ）

- 1 経営者、役員
- 2 常時雇用されている一般従業者
- 3 臨時雇用・パート・アルバイト
- 4 派遣社員
- 5 契約社員、嘱託
- 6 自営業主、自由業者
- 7 家族従業者
- 8 内 職
- 9 無職：仕事を探している
- 10 無職：仕事を探していない
- 11 学生
- 12 わからない

【問 16a=1～7】

問 16b 現在の従業員（働いている人）は、会社全体で何人ぐらいですか。〔家族従業者、パート・アルバイトなども含む〕配偶者が派遣社員の方は、派遣先企業についてお答えください。（1 つだけ）

- 1 1 人
- 2 2～4 人
- 3 5～9 人
- 4 10～29 人
- 5 30～99 人
- 6 100～299 人
- 7 300～499 人
- 8 500～999 人
- 9 1000 人以上
- 10 官公庁
- 11 わからない

【問 16a=1～7】

問 16c 何かの役職についていますか。（1 つだけ）

- 1 役職なし
- 2 監督、職長、班長、組長
- 3 係長、係長相当職
- 4 課長、課長相当職
- 5 部長、部長相当職
- 6 社長、重役、役員、理事
- 7 その他（具体的に：自由回答【無回答を認めない】）
- 8 わからない

【全員】

問 17 ご家族についておたずねします。

問 17a 同居されているご家族は、あなたご自身を含めて何人いらっしゃいますか（ペットは除く）。

- 1 1人 あなた自身のみ
- 2 2
- 3 3人
- 4 4人
- 5 5人
- 6 6人
- 7 7人
- 8 8人
- 9 9人
- 10 10人以上
- 11 わからない

【問 17a>=2人、11】

問 17b つぎの中から、同居されているご家族をすべて選んでください。（いくつでも）

- 1 あなたご自身（自動的に選択される）
- 2 配偶者
- 3 子ども
- 4 子どもの配偶者
- 5 あなたの兄弟姉妹
- 6 あなたの父親
- 7 あなたの母親
- 8 配偶者の父親
- 9 配偶者の母親
- 10 祖父母
- 11 あなたの孫
- 12 その他（具体的に：自由回答）
- 13 わからない

※問 17a の家族人数よりも多く回答した場合、アラートを表示・訂正するまで回答を許容しない

【全員】

問 18 お子さんについておたずねします。現在、離れて暮らしておられるお子さんもすべて含めてお答えください。

問 18a あなたにはお子さんはいらっしゃいますか。(1 つだけ)

- 1 いる
- 2 いない
- 3 わからない

※問 13b で 3 を選択し、かつ、問 14a で 2 を選択した場合、アラートを表示・それでも訂正しない場合は回答を許容しない

【問 18a=1】

問 18b 何人いらっしゃるかを教えてください。

- 1 人 ☐ わからない

【問 18a=1】

問 18c 1 番上のお子さんと 1 番下のお子さんは、それぞれ何年生まれですか。

1 番上のお子さん ☐ わからない

1 番下のお子さん ☐ わからない

※お子さんが 1 人の場合は「1 番上」の欄のみ表示

※問 18b で 2 人以上の場合、必ずふたつとも回答。9 の回答も可。

※お子さんの生年が回答者の生年以前の場合、アラートを表示・訂正するまで回答を許容しない

※回答者生年～2018 年まで許可

【問 18a=1】

問 19 高校生以下のお子さんのうち、最近、お誕生日をおむかえになった方についておたずねします。
(それぞれ 1 つずつ)

	中学	高校	専門学校	短大・高専	大学	大学院	その他	高校生以下のお子さんはいない	わからない
ア) あなたは、そのお子さんにどの程度の学歴を希望されますか。	1	2	3	4	5	6	7	8	9
イ) あなたは、そのお子さんが、現実的には、どの段階の学校まで進むと思いますか。	1	2	3	4	5	6	7	8	9

【全員】

問 20 あなたはつぎのようなことがらについて、どの程度満足していますか。
(それぞれ 1 つずつ)

	満足している	どちらかといえば満足している	どちらともいえない	どちらかといえば不満である	不満である	わからない
ア) 生活全般	1	2	3	4	5	6
イ) 自分の学歴	1	2	3	4	5	6
ウ) 日本社会	1	2	3	4	5	6
エ) 自分が住んでいる地域	1	2	3	4	5	6

問 21 かりに現在の日本の社会全体を、このリストに書いてあるように 5 つの層に分けるとすれば、あなた自身はこのどれに入りますか。(1 つだけ)

1 2 3 4 5 6
 上 中の上 中の下 下の上 下の下 わからない

問 22 あなたは、現在のご自分の健康状態をどう思いますか。(1 つだけ)

1	2	3	4	5	6
よい	まあよい	ふつう	あまり よくない	わるい	わからない

問 23 あなたの心身の具合についてお伺いします。過去 30 日の間にどれくらいの頻度で次のことがありましたか。(それぞれ 1 つずつ)

	全くない	少しだけ	ときどき	たいてい	いつも
ア) 神経過敏に感じましたか	1	2	3	4	5
イ) 絶望的だと感じましたか	1	2	3	4	5
ウ) そわそわ、落ち着かなく感じましたか	1	2	3	4	5
エ) 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか	1	2	3	4	5
オ) 何をするのも骨折りだと感じましたか	1	2	3	4	5
カ) 自分は価値のない人間だと感じましたか	1	2	3	4	5

問 24 次にあげる組織や団体の活動について、どの程度参加していますか。(それぞれ 1 つずつ)

	頻繁に参加している	たまに参加している	参加していない	わからない
ア) 教会・宗教組織	1	2	3	4
イ) スポーツ・娯楽グループ	1	2	3	4
ウ) 芸術・教養グループ	1	2	3	4
エ) 労働組合・同業者組合	1	2	3	4
オ) 政党	1	2	3	4
カ) 環境保護団体	1	2	3	4
キ) 人権・慈善団体	1	2	3	4
ク) 自治組織・相互援助グループ	1	2	3	4
ケ) 消費者団体	1	2	3	4
コ) ボランティア団体	1	2	3	4

問 25 社会には様々な背景をもち、異なるライフスタイルを送る人がいます。次に挙げるような人に対するあなたのふだんの気持ちに最も近いものを選んでください。

	好ましい	やや好ましい	あまり好ましくない	好ましくない	好ましさ 考えたことがない	わからない
ア) 同性どうしで恋愛をする人	1	2	3	4	5	6
イ) 移民や外国人労働者	1	2	3	4	5	6

問 26a 「同性どうしで恋愛をする人」について質問します。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(それぞれ1つずつ)

	賛成	やや賛成	やや反対	反対	わからない
ア) 同性どうしで恋愛をする人が、あなたの近所に住むこと	1	2	3	4	5
イ) 同性どうしで恋愛をする人が、あなたと同じ職場で働くこと	1	2	3	4	5
ウ) 同性どうしで恋愛をする人が、あなたの地域の福祉サービスや補助金を利用すること	1	2	3	4	5
エ) 同性どうしで恋愛をする人が、あなたの家族のどれかと結婚したり、養子縁組したりすること	1	2	3	4	5

問 26b 移民や外国人労働者について質問します。あなたの考えに最も近いものを選んでください。(それぞれ1つずつ)

	賛成	やや賛成	やや反対	反対	わからない
ア) 移民や外国人労働者が、あなたの近所に住むこと	1	2	3	4	5
イ) 移民や外国人労働者が、あなたと同じ職場で働くこと	1	2	3	4	5
ウ) 移民や外国人労働者が、あなたの地域の福祉サービスや補助金を利用すること	1	2	3	4	5
エ) 移民や外国人労働者が、あなたの家族の誰かと結婚したり、養子縁組したりすること	1	2	3	4	5

問 27 あなたはつぎのような意見についてそう思いますか、それともそうは思いませんか。あてはまるものをお答えください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらともいえない	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	わからない
ア) 日本人であることに誇りを感じる	1	2	3	4	5	6
イ) たとえ自分の国が間違っている場合でも、国民は自分の国を支持すべきだ	1	2	3	4	5	6
ウ) たとえ日本国籍を取得しても、民族・人種が違うことで一定の差別を受けるのは仕方がない	1	2	3	4	5	6
エ) 日本国内で日本人と外国人や少数民族の人たちとの法的平等を認めようとするのは、間違いだ	1	2	3	4	5	6
オ) 外国人や少数民族の人たちは、平等の名の下に過剰な要求をしている	1	2	3	4	5	6

問 28 あなたはつぎのような意見についてそう思いますか、それともそうは思いませんか。あてはまるものをお答えください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
ア) 自分は社会からのけ者にされている	1	2	3	4	5	6
イ) 今や人生はとても複雑なものになってしまったので、自分がどうすればいいか、ほとんどわからない	1	2	3	4	5	6
ウ) 自分のすることの価値を、他の人たちは認めてくれない	1	2	3	4	5	6
エ) 自分の仕事や収入のせいで、他の人たちから見下される	1	2	3	4	5	6
オ) 自分が住んでいる地域の人たちに親しみを感じる	1	2	3	4	5	6

問 29 あなたはつぎのような意見についてそう思いますか、それともそうは思いませんか。あてはまるものをお答えください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
ア) 自分が住んでいる地域に愛着を感じている	1	2	3	4	5	6
イ) 自分が住んでいる地域に住み続けたい	1	2	3	4	5	6
ウ) まごまごしていると、他人に追い越されそうな不安を感じる	1	2	3	4	5	6
エ) うかうかしていると、自分がこれまで獲得したものを失ってしまいそうな不安を感じる	1	2	3	4	5	6
オ) 自分の将来の見通しは明るい	1	2	3	4	5	6

問 30 あなたにとってはつぎのような気持ちや考え、生き方はどの程度あてはまりますか。(それぞれ 1 つずつ)

	よくあてはまる	ややあてはまる	どちらとも いえない	あまり あてはまらない	まったく あてはまらない	わからない
ア) 将来のために節約・努力するよりも、今の人生を楽しむようにしている	1	2	3	4	5	6
イ) 何年後まで何をするというように、きちんと生活設計をたてて暮らしたい	1	2	3	4	5	6
ウ) どんなに苦勞をしても、自分の夢は実現させたい	1	2	3	4	5	6
エ) 友人との関係をつらいと感じることがよくある	1	2	3	4	5	6
オ) 余暇の時間は、友人や仲間とともに楽しみたいと思う	1	2	3	4	5	6

問 31 あなたはつぎのような意見についてそう思いますか、それともそうは思いませんか。あてはまるものをお答えください。(それぞれ 1 つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
ア) 社会で成功するかどうかは生まれつきの能力や素質でほぼ決まる	1	2	3	4	5	6
イ) 努力をしていれば、たいていの目標は達成できる	1	2	3	4	5	6
ウ) 人の一生は運命によってある程度決められている	1	2	3	4	5	6
エ) 全体としてみれば、世の中はバランスが取れている	1	2	3	4	5	6
オ) 悪いことばかり続いた人も、次には何か良いことが起こるものだ	1	2	3	4	5	6

問 32 あなたはつぎのような意見についてそう思いますか、それともそうは思いませんか。あてはまるものをお答えください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
ア) いかなる集団も、社会を支配してはならない	1	2	3	4	5	6
イ) 欲しいものを手に入れるためには、ほかの集団から力づくで手に入れなければならないときもある	1	2	3	4	5	6
ウ) 今後、日本で格差が広がってもかまわない	1	2	3	4	5	6
エ) 政治のことはやりたい人にまかせておけばよい	1	2	3	4	5	6
オ) 権威のある人々にはつねに敬意を払わなければならない	1	2	3	4	5	6

問 33 あなたはつぎのような意見についてそう思いますか、それともそうは思いませんか。あてはまるものをお答えください。

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
ア) 以前からなされていたやり方を守ることが、最上の結果を生む	1	2	3	4	5	6
イ) 伝統や習慣にしたがったやり方に疑問を持つ人は、結局は問題をひきおこすことになる	1	2	3	4	5	6
ウ) この複雑な世の中で何をなすべきかを知る一番よい方法は、指導者や専門家に頼ることである	1	2	3	4	5	6
エ) 成功するためには、ほかの集団を踏み台にしなければならないときもある	1	2	3	4	5	6
オ) 人生において、ある集団がほかの集団よりもチャンスに恵まれていたとしてもかまわない	1	2	3	4	5	6

問 34 あなたはつぎのような意見についてそう思いますか、それともそうは思いませんか。あてはまるものをお答えください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
ア) 世の中にはすべてを手に入れる人間もいれば、何も手に入れられない人間もいる	1	2	3	4	5	6
イ) あらゆるものには長所と短所がある	1	2	3	4	5	6
ウ) いろいろな集団が平等になるように、わたしたちはできる限りのことをすべきだ	1	2	3	4	5	6
エ) 集団が、それぞれの立場に留まらなければならないときがある	1	2	3	4	5	6
オ) 一部の集団が高い地位にあり、別の集団が低い地位にあるのは、良いことだろう	1	2	3	4	5	6

問 35 あなたはつぎのような意見についてそう思いますか、それともそうは思いませんか。あてはまるものをお答えください。(それぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない
ア) 自分よりも年上の人には常に敬わなければならない	1	2	3	4	5	6
イ) 子どもは親の意向には素直に従うべきである	1	2	3	4	5	6
ウ) 子どもにはできるだけ高い教育を受けさせるのがよい	1	2	3	4	5	6
エ) 学歴は本人の実力をかなり反映している	1	2	3	4	5	6
オ) 男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである	1	2	3	4	5	6

問 36 あなたはつぎのような意見についてそう思いますか、それともそうは思いませんか。あてはまるものをお答えください。

	そう 思う	ど ち ら か と い え ば そ う 思 う	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い え ば そ う 思 わ な い	そ う 思 わ な い	わ か ら な い
ア) 夫が家事や育児をするのはあたりまえのことだ	1	2	3	4	5	6
イ) どんな集団も、平等にチャンスを与えられるべきだ	1	2	3	4	5	6
ウ) 人々をより平等に扱えば、私たちの抱える問題はより少なくなる	1	2	3	4	5	6
エ) 「宗教的な心」というものは大切だと思う	1	2	3	4	5	6
オ) 今後、国内の原子力発電所はすべて廃止すべきだ	1	2	3	4	5	6

問 37 社会保障をはじめとする政府についてお聞きます。次の（ア）～（エ）の A、B 二つの対立する意見のうち、しいていうと、あなたはどちらの意見に近いでしょうか。（それぞれ 1 つずつ）

A の考え	A に近い	A に近い どちらかといえば	B に近い どちらかといえば	B に近い	わからない	B の考え
（ア）税金や社会保障料などを引き上げても、国や自治体は社会保障を充実すべきだ	1	2	3	4	5	社会保障の水準がよくなるとも、国や自治体は、税金や社会保険料を引き下げるべきだ
（イ）社会保障の給付は、所得や財産などの多い人には制限すべきだ	1	2	3	4	5	社会保障の給付は、所得や財産に関係なく資格のある人すべてが受け取れるようにすべきだ
（ウ）社会保障の給付は、保険料などの支払とは無関係に、それが必要となる度合いに応じて受け取れるようにすべきだ	1	2	3	4	5	社会保障の給付は、保険料などの支払の実績に応じて、受け取れるようにすべきだ
（エ）公的年金は世代間の助け合いなのだから、受け取る年金額が払った保険料に見合わなくてもやむをえない	1	2	3	4	5	公的年金であっても、損をする世代が出ないように、払った保険料に見合った年金が受け取れるようにすべきだ

問 38 あなたの現在のお住まいは、つぎのどれにあたりますか。（1 つだけ）

- 1 持ち家（一戸建）
- 2 持ち家（分譲マンション）
- 3 借家・賃貸のアパート・マンション
- 4 社宅・寮・官舎
- 5 下宿・間借り
- 6 その他（具体的に：自由回答）
- 7 わからない

問 39 過去 1 年間のあなた個人の収入は、税込みでいくらぐらいでしたか。年金、株式配当や臨時収入、副収入などもすべて含めてお答えください。(1 つだけ)

- 1 なし
- 2 25 万円未満
- 3 25～50 万円未満
- 4 50～75 万円未満
- 5 75～100 万円未満
- 6 100～125 万円未満
- 7 125～150 万円未満
- 8 150～200 万円未満
- 9 200～250 万円未満
- 10 250～300 万円未満
- 11 300～350 万円未満
- 12 350～400 万円未満
- 13 400～450 万円未満
- 14 500 万円位 (450～550 万円未満)
- 15 600 万円位 (550～650 万円未満)
- 16 700 万円位 (650～750 万円未満)
- 17 800 万円位 (750～850 万円未満)
- 18 900 万円位 (850～950 万円未満)
- 19 1,000 万円位 (950～1,050 万円未満)
- 20 1,100 万円位 (1,050～1,150 万円未満)
- 21 1,200 万円位 (1,150～1,250 万円未満)
- 22 1,300 万円位 (1,250～1,350 万円未満)
- 23 1,400 万円位 (1,350～1,450 万円未満)
- 24 1,500 万円位 (1,450～1,550 万円未満)
- 25 1,600 万円位 (1,550～1,650 万円未満)
- 26 1,700 万円位 (1,650～1,750 万円未満)
- 27 1,800 万円位 (1,750～1,850 万円未満)
- 28 1,900 万円位 (1,850～1,950 万円未満)
- 29 2,000 万円位 (1,950～2,050 万円未満)
- 30 2,050 万円以上 (記入 約 自由回答 万円)
- 31 わからない

問 40 では、過去 1 年間のあなたのお宅（あなたを含めて、生計をともにしている家族全体で）の収入は、税込みでいくらぐらいでしたか。年金、株式配当や臨時収入、副収入などもすべて含めてお答えください。（1 つだけ）

- 1 なし
- 2 25 万円未満
- 3 25～50 万円未満
- 4 50～75 万円未満
- 5 75～100 万円未満
- 6 100～125 万円未満
- 7 125～150 万円未満
- 8 150～200 万円未満
- 9 200～250 万円未満
- 10 250～300 万円未満
- 11 300～350 万円未満
- 12 350～400 万円未満
- 13 400～450 万円未満
- 14 500 万円位（450～550 万円未満）
- 15 600 万円位（550～650 万円未満）
- 16 700 万円位（650～750 万円未満）
- 17 800 万円位（750～850 万円未満）
- 18 900 万円位（850～950 万円未満）
- 19 1,000 万円位（950～1,050 万円未満）
- 20 1,100 万円位（1,050～1,150 万円未満）
- 21 1,200 万円位（1,150～1,250 万円未満）
- 22 1,300 万円位（1,250～1,350 万円未満）
- 23 1,400 万円位（1,350～1,450 万円未満）
- 24 1,500 万円位（1,450～1,550 万円未満）
- 25 1,600 万円位（1,550～1,650 万円未満）
- 26 1,700 万円位（1,650～1,750 万円未満）
- 27 1,800 万円位（1,750～1,850 万円未満）
- 28 1,900 万円位（1,850～1,950 万円未満）
- 29 2,000 万円位（1,950～2,050 万円未満）
- 30 2,050 万円以上（記入 約 自由回答 万円）
- 31 わからない

※問 43＞問 44 の場合、アラートを表示・訂正するまで回答を許容しない

総格差社会日本を読み解く調査科学



SSP-W2018 報告書

編 集：SSP プロジェクト（狭間諒多朗）

発 行：SSP プロジェクト

発行日：2019 年 7 月 31 日
